

●社会全体での男女平等について

●問2. 日本社会の男女平等

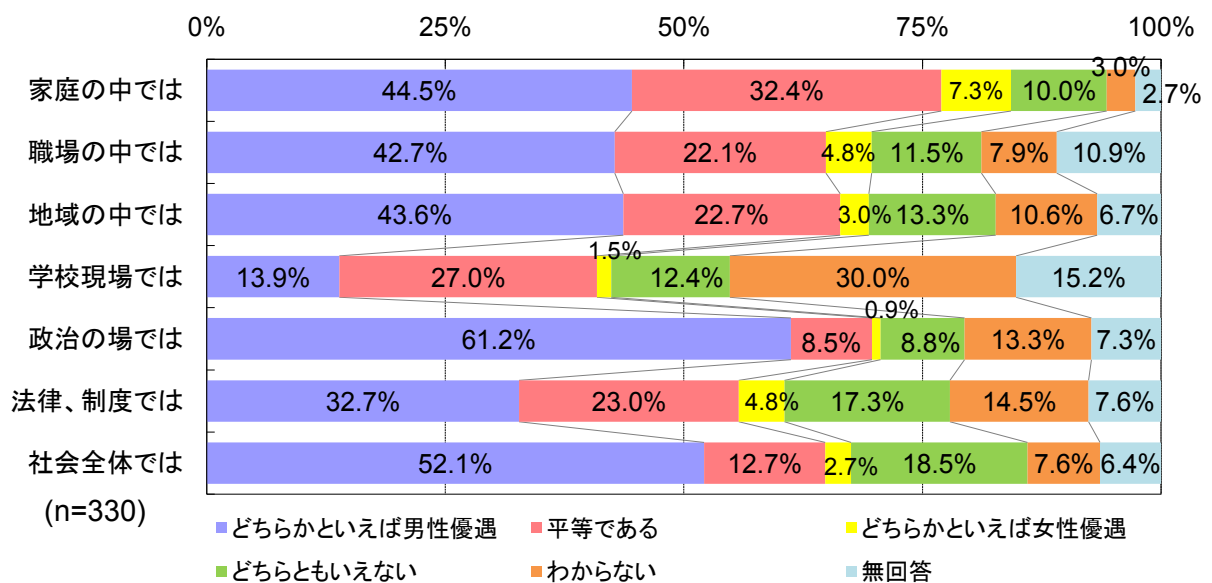
現在の日本社会は男女平等になっていると思いますか。「家庭の中では」～「社会全体では」の7項目について、あなたの環境や考えに近いものを、1つ選んでください。

1. 全体

前回の調査同様、「学校現場では」を除6つの項目において、「どちらかといえば男性優遇」の割合が高かった。

「どちらかといえば男性優遇」と答えた人が多かった項目は、①「政治の場」61.2%、②「社会全体」52.1%、③「家庭の中」44.5%の順であった。

「平等である」と答えた人が多かった項目は、①「家庭の中」32.4%、②「学校現場」27.0%、③「法律、制度」23.0%の順であった。

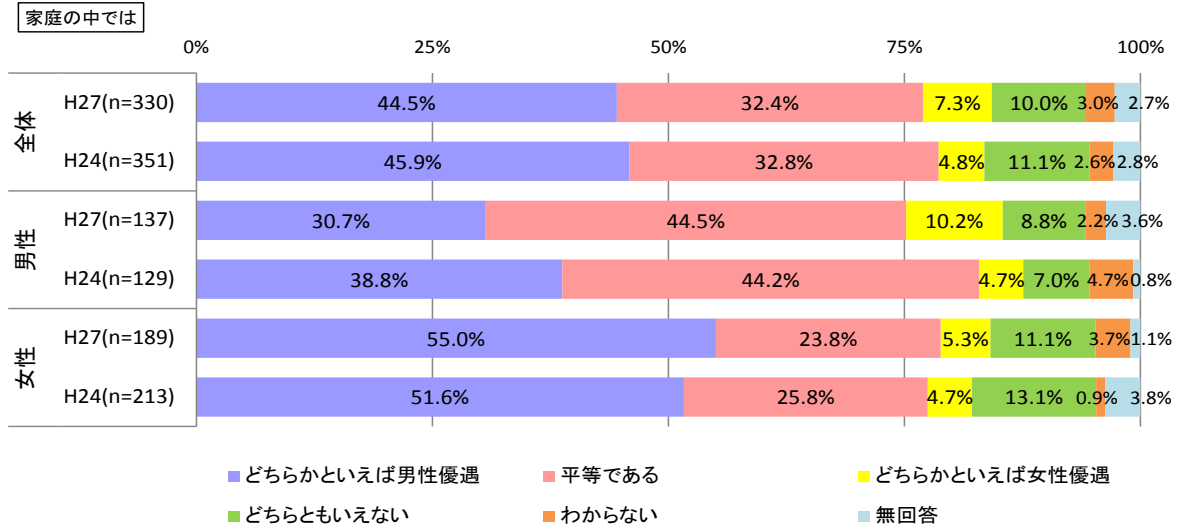


2 分野別

(1) 家庭の中では

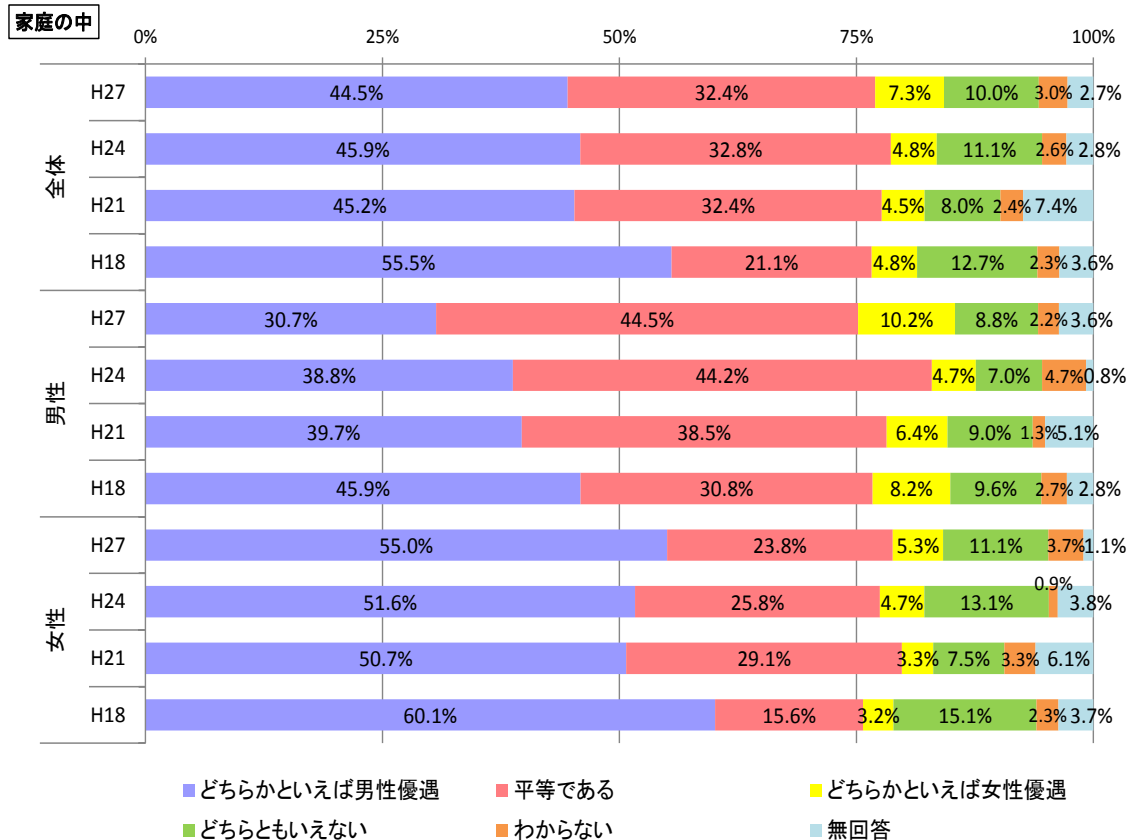
男女別

男女間の差を見ると、「どちらかという男性優遇」は、男性が 30.7%なのに対し、女性は 55.0%と、24.3 ポイントも多かった。男女で意識の差が見られる。



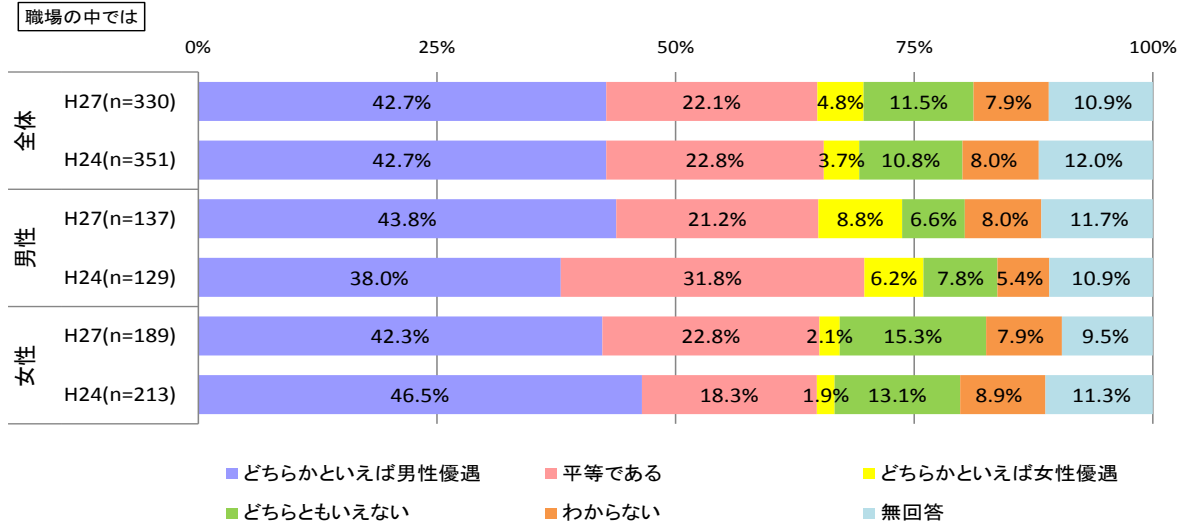
H18 調査からの経年変化

全体では、H18調査と H27調査を比べると、「平等である」の割合が 21.1%から 32.4%と 11.3 ポイント増えた。



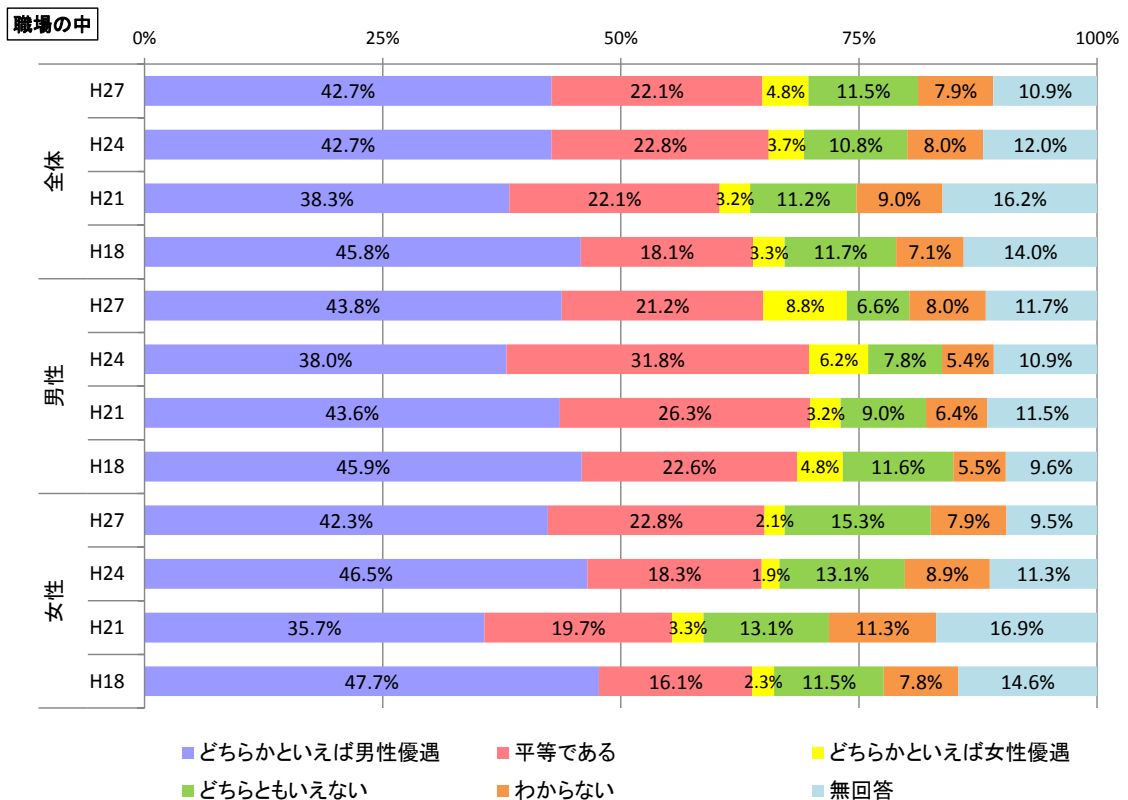
(2) 職場の中では 男女別

全体では、前回調査と比べても大きな変化はなかったが、男女の差を見ると、男性は、前回に比べて、「どちらかといえば男性優遇」は 5.8 ポイント増えたのに対し、女性は 4.2 ポイント減った。また、「平等である」は、前回に比べて、男性は 10.6 ポイント減ったのに対し、女性は 4.5 ポイント増えた。



H18 調査からの経年変化

全体では、H18調査とH27調査を比べると、「平等である」の割合が 18.1%から 22.1%と 4.0 ポイント増えた

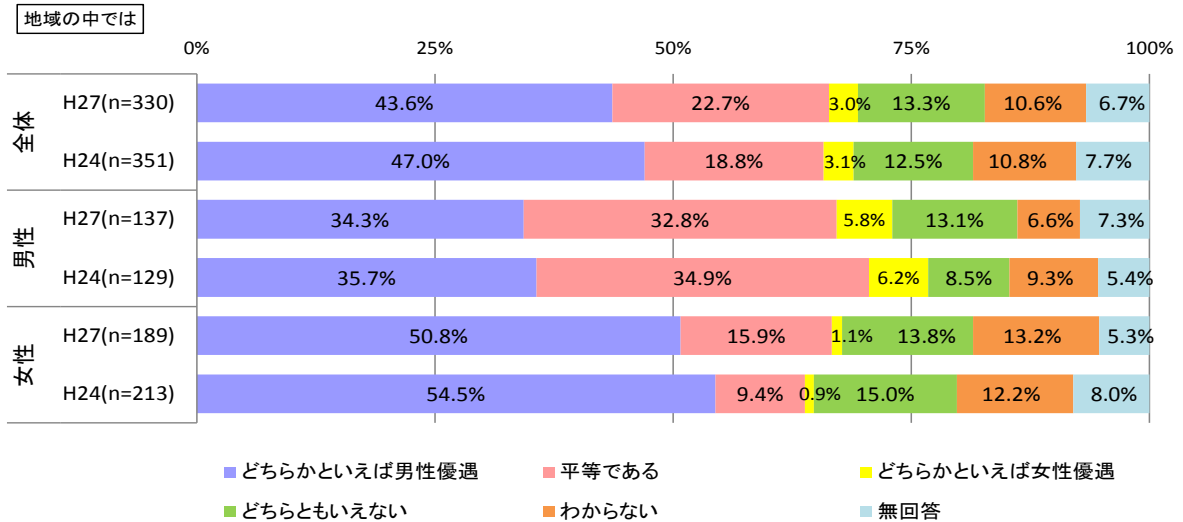


(3) 地域の中では

男女別

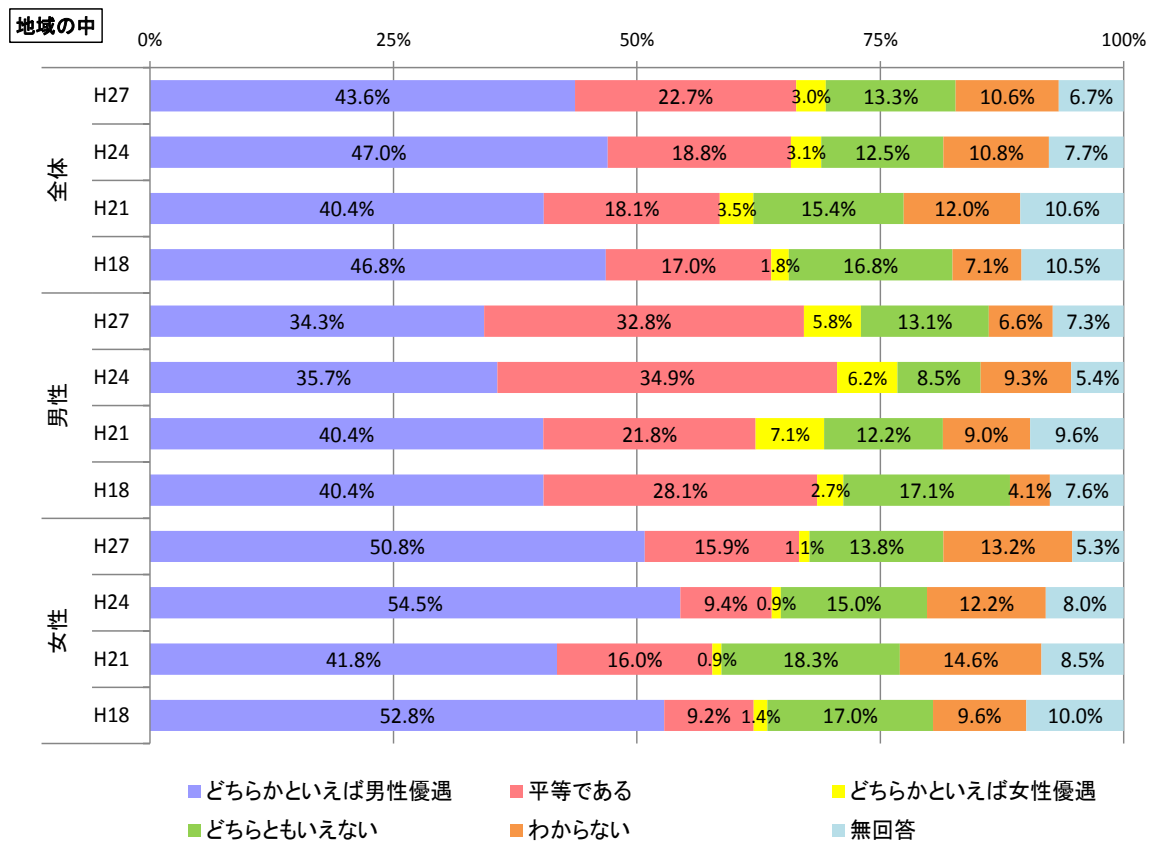
前回調査と比べ、全体では、「どちらかといえば男性優遇」が 3.4 ポイント減り、「平等である」は 3.9 ポイント増えた。

男女間の差を見ると、男性は、前回とあまり変化がなかったが、女性は、「どちらかといえば男性優遇」が 3.7 ポイント減り、「平等である」は 6.5 ポイント増えた。



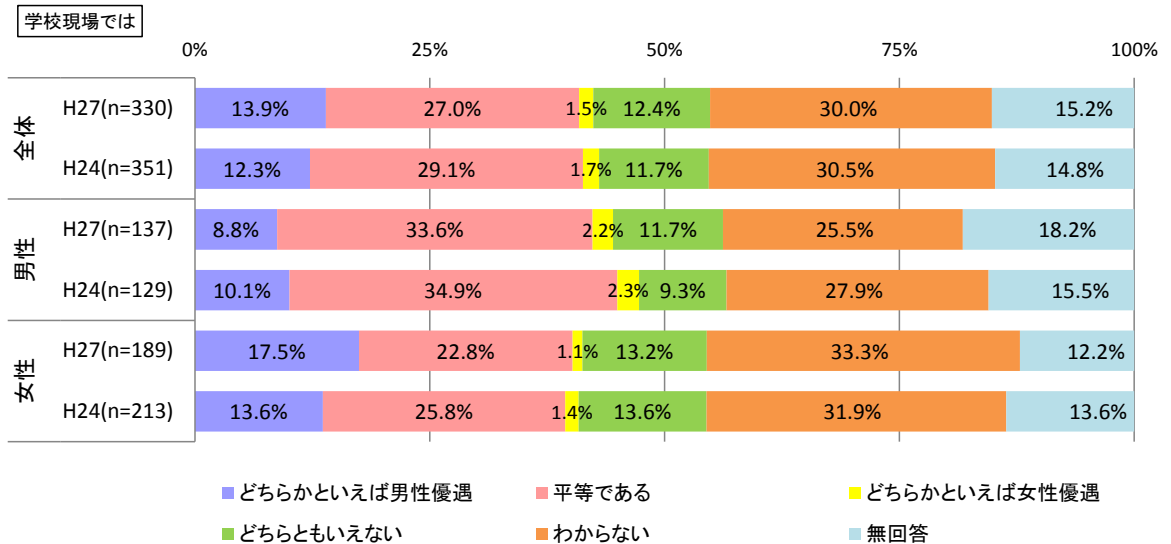
H18 調査からの経年変化

全体では、H18調査とH27調査を比べると、「平等である」の割合が 17.0%から 22.7%と 5.7 ポイント増えた。



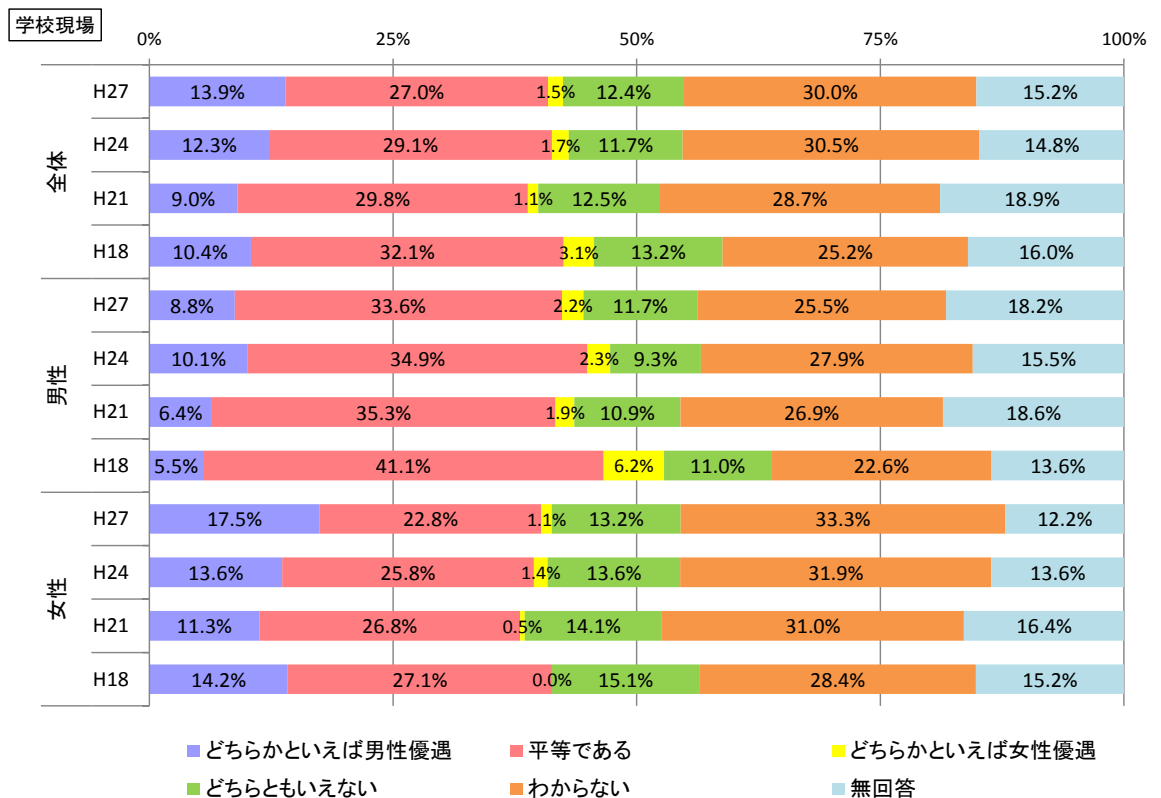
(4) 学校現場では 男女別

前回と比べ、全体では、「どちらかといえば男性優遇」は 1.6 ポイント増え、「平等である」は 2.1 ポイント減少した。男女間の差を見ると、女性は男性に比べ、「どちらかといえば男性優遇」は 8.7 ポイント多く、「平等である」は 10.8 ポイント少ない。



H18 調査からの経年変化

全体では、H18調査とH27調査を比べると、「平等である」の割合が 32.1%から 27.0%と 5.1 ポイント減った。

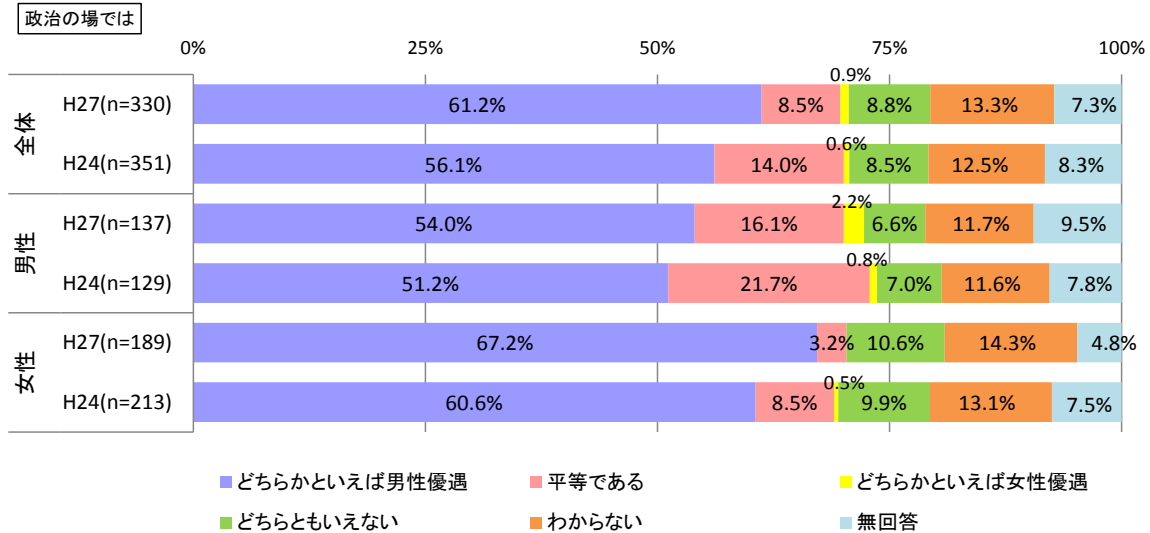


(5) 政治の場では

男女別

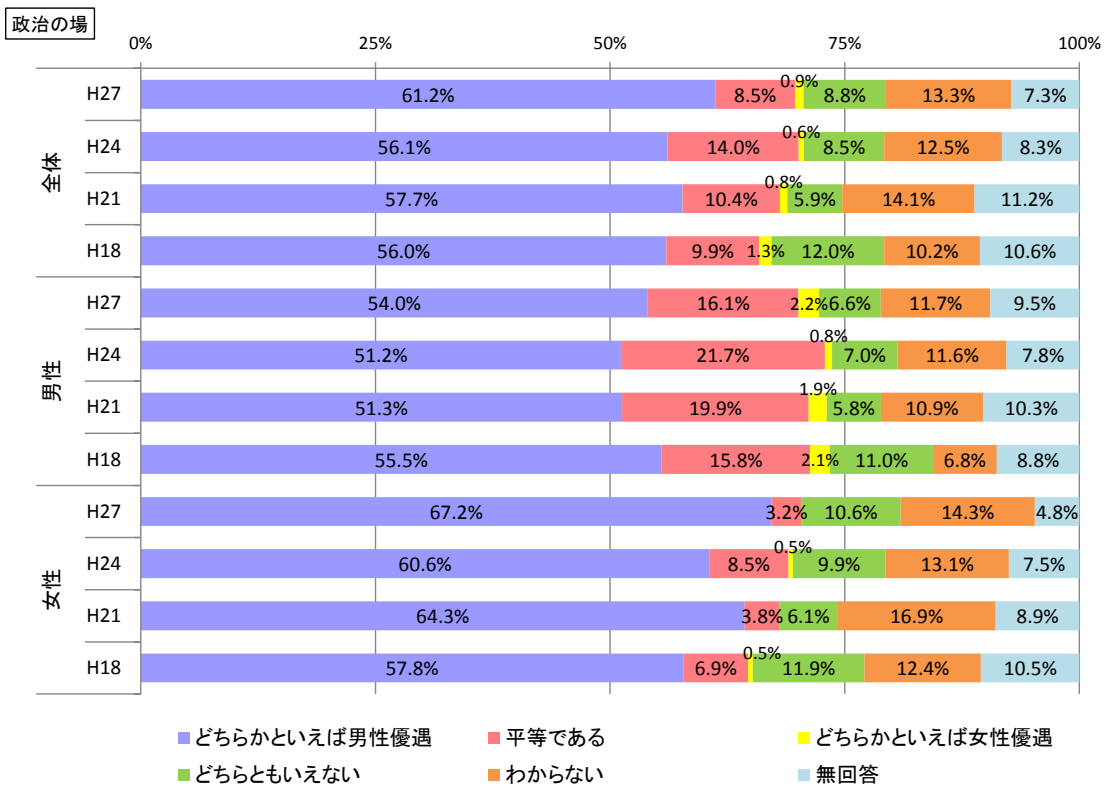
前回と比べ、全体では、「どちらかといえば男性優遇」は 5.1 ポイント増加し、「平等である」は 5.5 ポイント減少した。

男女別でも同様な傾向が見られ、「どちらかといえば男性優遇」は、男性は 2.8 ポイント、女性は 6.6 ポイント増加し、「平等である」は、男性 5.6 ポイント、女性は 5.3 ポイント減少した。女性で「どちらかといえば女性優遇」と答えた人はいなかった。



H18 調査からの経年変化

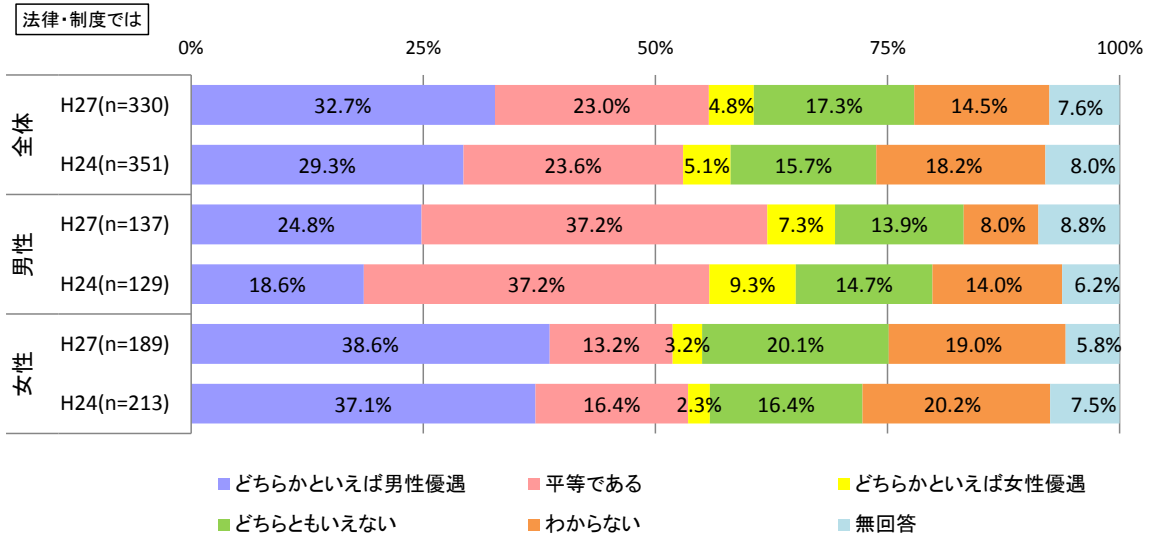
全体では、H18調査と H27調査を比べると、「どちらかといえば男性優遇」の割合が 56.0%から 61.2%と 5.2 ポイント増加した。



(6) 法律、制度では

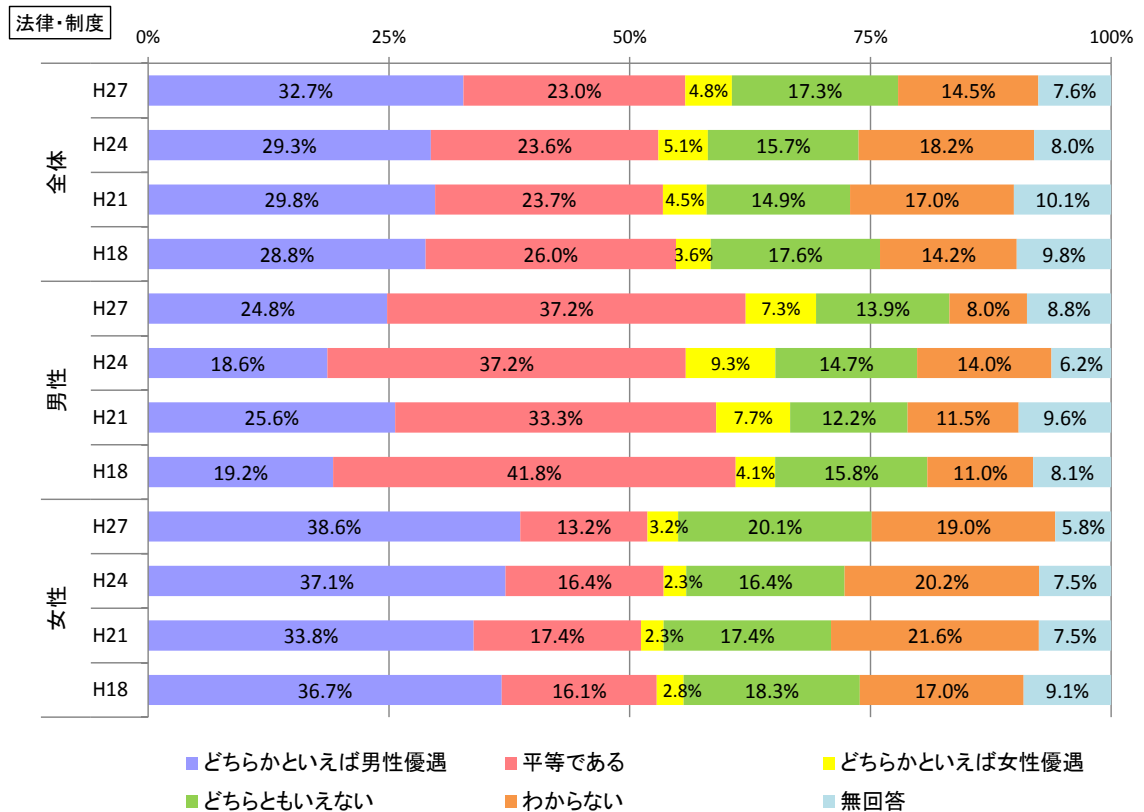
前回と比べ、全体では、「どちらかといえば男性優遇」は 3.4 ポイント増加し、「平等である」は、0.6 ポイント微減した。

男女間の差を見ると、女性は男性に比べ、「どちらかといえば男性優遇」は 13.8 ポイント多く、「平等である」は男性に比べて 24.0 ポイント少ない。



H18 調査からの経年変化

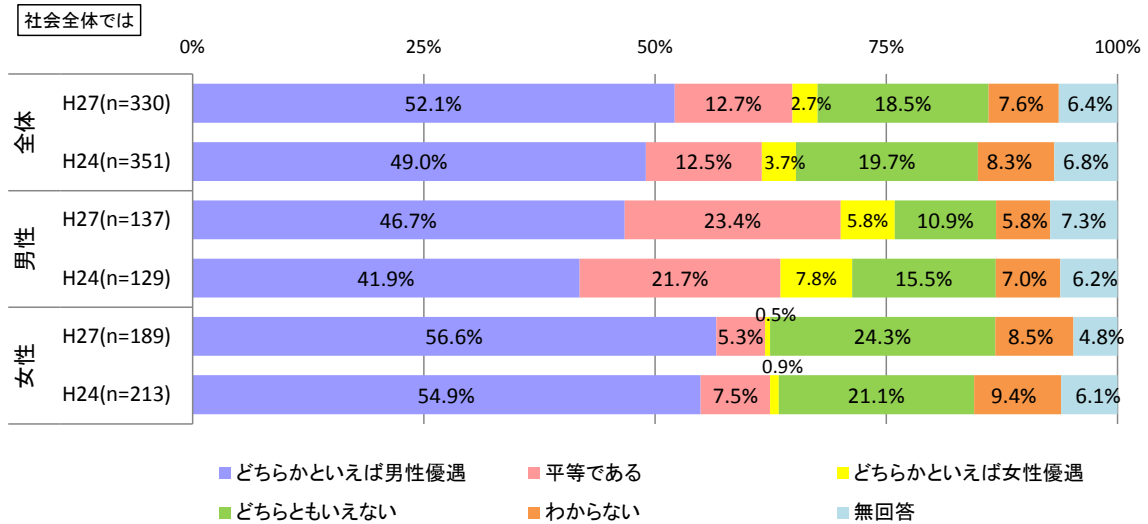
全体では、H18調査と H27調査を比べると、「どちらかといえば男性優遇」の割合が 28.8%から 32.7%と 3.9 ポイント増加した。



(7) 社会全体では

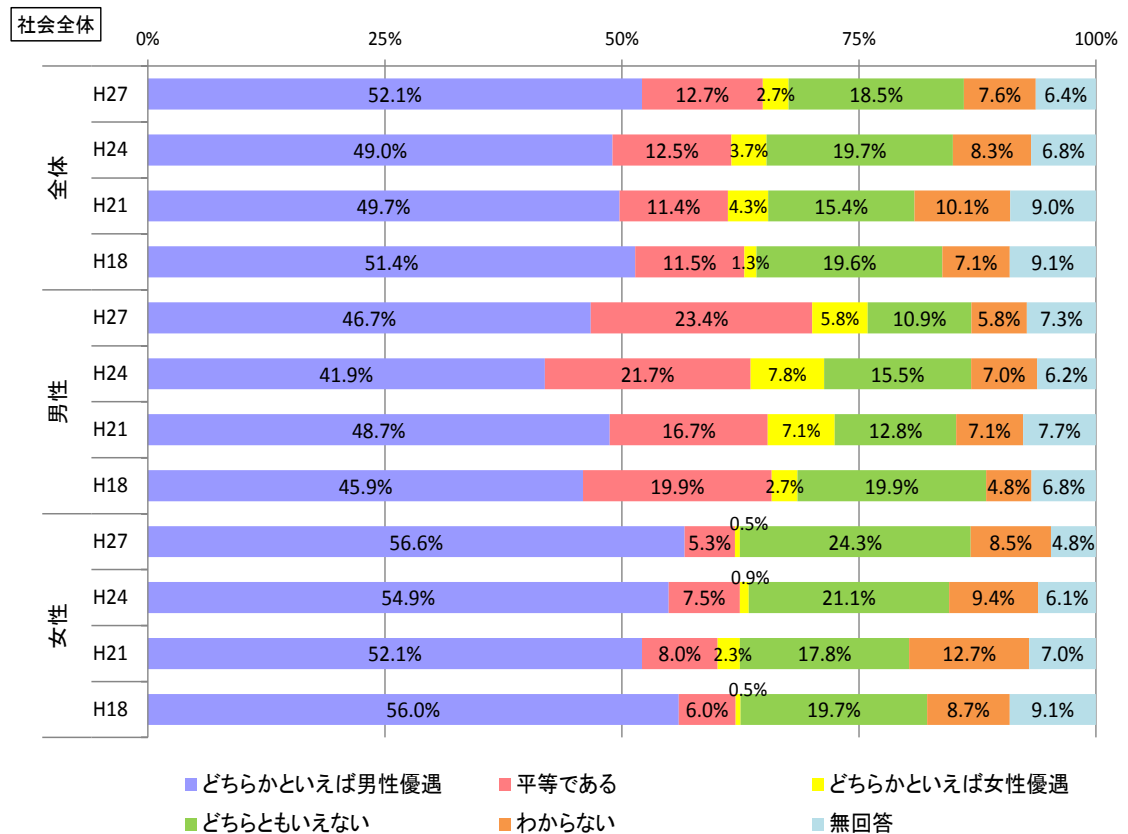
前回と比べ、全体では、「どちらかといえば男性優遇」が 3.1 ポイント増加し、「平等である」は、ほぼ同じだった。

男女間の差を見ると、女性は男性よりも、「どちらかといえば男性優遇」は 9.9 ポイント多く、「平等である」は、18.1 ポイント少ない。



H18 調査からの経年変化

全体では、H18調査とH27調査を比べると、「平等である」の割合が 11.5%から 12.7%と 1.2 ポイント微増した。



問3. 「仕事」、「家庭」、「地域」、「個人(自分)の生活」の優先度

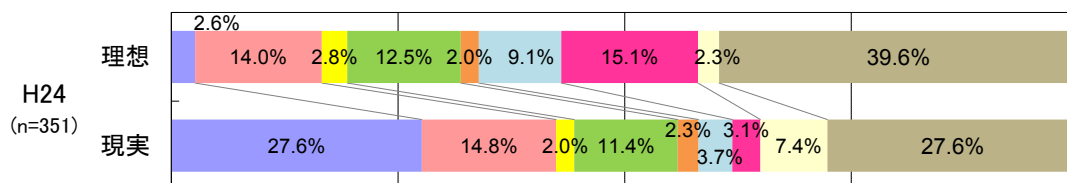
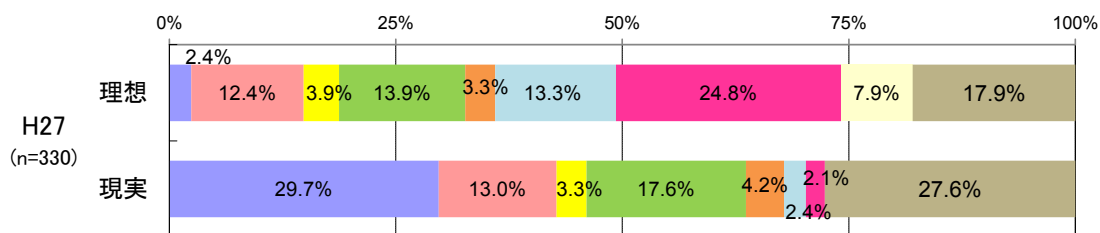
「仕事」、「家庭生活」、「地域」、「個人(自分)の生活」の優先度について。あなたの「理想」に最も近いもの、あなたの「現実」に最も近いものを、それぞれ1つ選んでください。

1. 全体

全体として、「理想」では「仕事を優先」を選ぶ人は少ないが、「現実」には、「仕事を優先」を選ぶ人が多かった。

「理想」では、①「仕事、家庭、地域、個人の生活をすべて優先」 24.8%、②「仕事と家庭をともに優先」 13.9%、③「家庭、地域、個人の生活をともに優先」 13.3% の順になっている。

「現実」では、①「仕事を優先」 29.7%、②「仕事と家庭をともに優先」 17.6%、③「家庭を優先」 13.0% の順となっている。



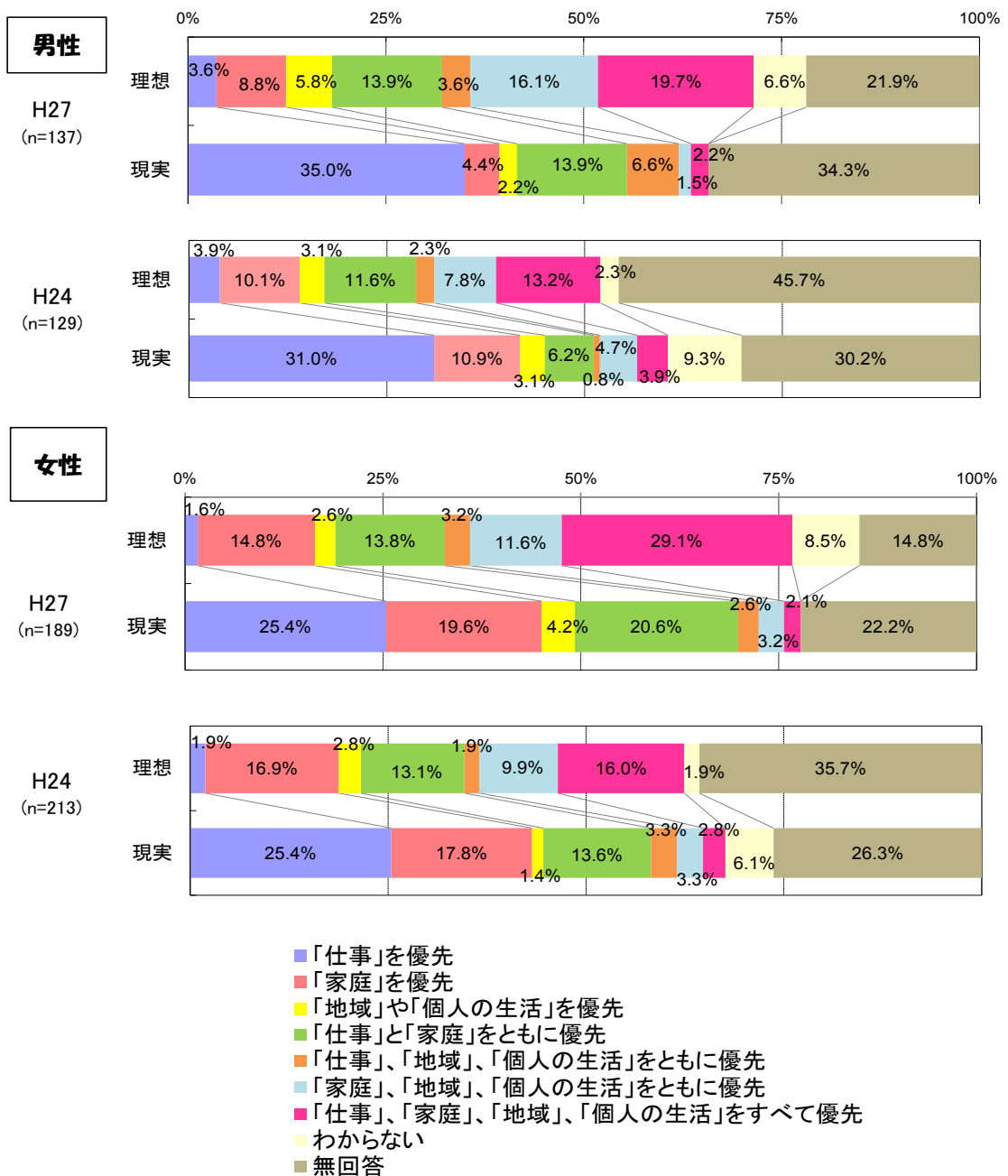
- 「仕事」を優先
- 「家庭」を優先
- 「地域」や「個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭」をともに優先
- 「仕事」、「地域」、「個人の生活」をともに優先
- 「家庭」、「地域」、「個人の生活」をともに優先
- 「仕事」、「家庭」、「地域」、「個人の生活」をすべて優先
- わからない
- 無回答

2 男女別

前回と比べ、男女とも共通した傾向として、「理想」は「仕事、家庭、地域、個人の生活をすべて優先」したいと考えている人が増え(男性 6.5 ポイント増、女性 13.1 ポイント増)、男女ともにトップだった(男性 19.7%、女性 29.1%)。

次に多かったのは、男性では「家庭、地域、個人の生活をともに優先」で、16.1%、女性では「家庭を優先」で、14.8%だった。

「現実」については、前回と比較して、男性は「家庭を優先」が 6.5 ポイント減少。増加したのは、「仕事と家庭をともに優先」(7.7 ポイント増)、「仕事、地域、個人の生活を優先」(5.8 ポイント増)であった。女性では、「仕事と家庭をともに優先」が 6.8 ポイント増加した。



●家庭における男女平等について

●問 4. 家庭における仕事は誰の役割となっていますか

家庭における仕事は誰の役割となっていますか。「家計の管理」～「PTA や地域活動への参加」までの 10 項目について、あなたの現状や考えに近いものを、それぞれ1つ選んでください。

1.全体 配偶者有無の区別なし

「どちらかといえば夫の役割」は、①「ごみ出し」23.3%、②「PTA や地域活動への参加」19.1%、③「家計の管理」13.9%の順だった。

〈前回の順位:①「家計の管理」、②「PTA や地域活動への参加」、③「ごみ出し」〉

「どちらかといえば妻の役割」は、①「洗濯」74.2%、②「食事の支度」73.9%、③「食後の後片付け」63.6%の順であり、前回の順位と大きく変動はなかった。

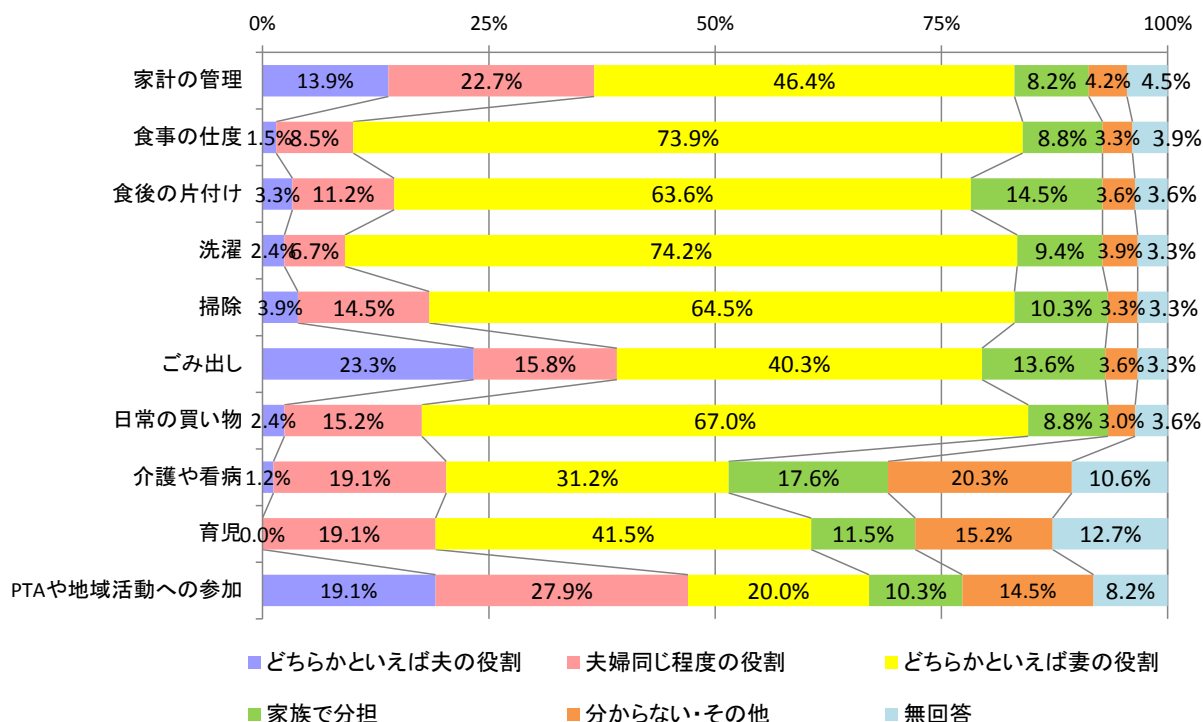
〈前回の順位:①「食事の支度」・「洗濯」(同ポイント)、③「食後の後片付け」〉

「夫婦同じ程度の役割」は、①「PTA や地域活動への参加」27.9%、②「家計の管理」22.7%、③「介護や看病」・「育児」19.1%、の順であった。

〈前回の順位:①「PTA や地域活動への参加」、②「育児」、③「日常の買い物」〉

「家族で分担」は、①「介護や看病」17.6%、②「食後の片付け」14.5%、③「ごみ出し」13.6%の順であった。

〈前回の順位:①「介護や看病」、②「ごみ出し」、③「食後の片付け」〉



2.配偶者有のみ

「どちらかといえば夫の役割」は、①「ごみ出し」27.2%、②「PTA や地域活動への参加」21.8%、③「家計の管理」16.9%の順であった。

〈前回の順位:①「家計の管理」、②「PTA や地域活動への参加」、③「ごみ出し」〉

「どちらかといえば妻の役割」は、①「食事の支度」84.0%、②「洗濯」82.7%、③「掃除」76.5%の順であった。

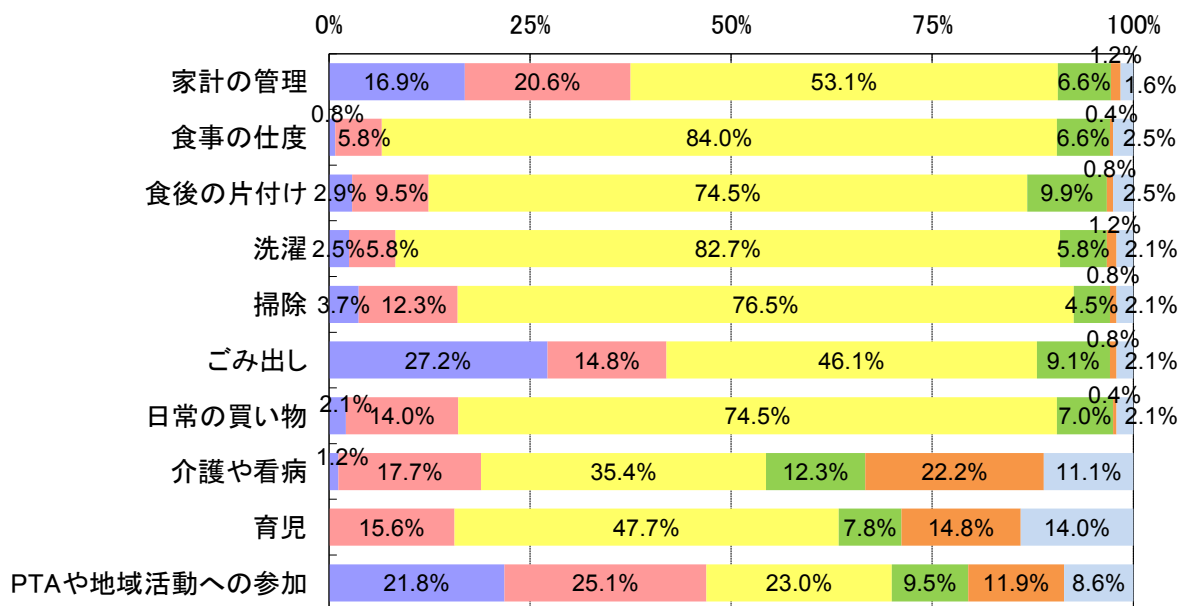
〈前回の順位:①「洗濯」、②「食事の支度」、③「食後の片付け」〉

「夫婦同じ程度の役割」は、①「PTA や地域活動への参加」25.1%、②「家計の管理」20.6%、③「介護や看病」17.7%の順であった。

〈前回の順位:①「PTA や地域活動への参加」、②「日常の買物」、③「育児」〉

「家族で分担」は、①「介護や看病」12.3%、②「食後の片付け」9.9%、③「PTA や地域活動への参加」9.5%の順であった。

〈前回の順位:①「ごみ出し」、②「介護や看病」、③「育児」〉



(n=243)

■どちらかといえば夫の役割

■夫婦同じ程度の役割

■どちらかといえば妻の役割

■家族で分担

■分からない・その他

■無回答

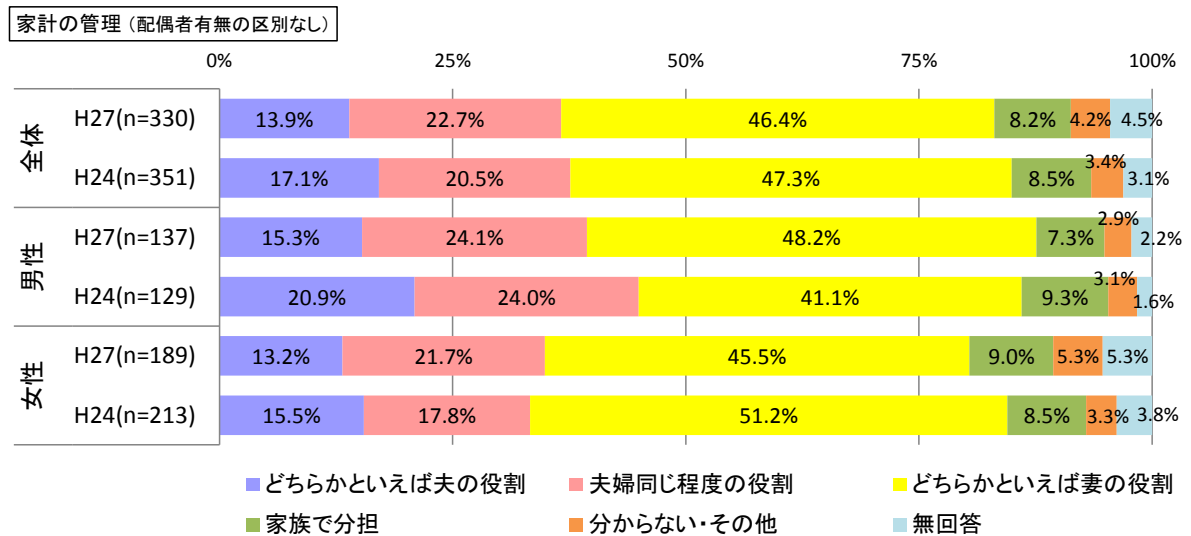
3.分野別

(1) 家計の管理

男女別

全体では、「どちらかといえば夫の役割」が 3.2 ポイント、「どちらかといえば妻の役割」0.9 ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」が 2.2 ポイント増加した。

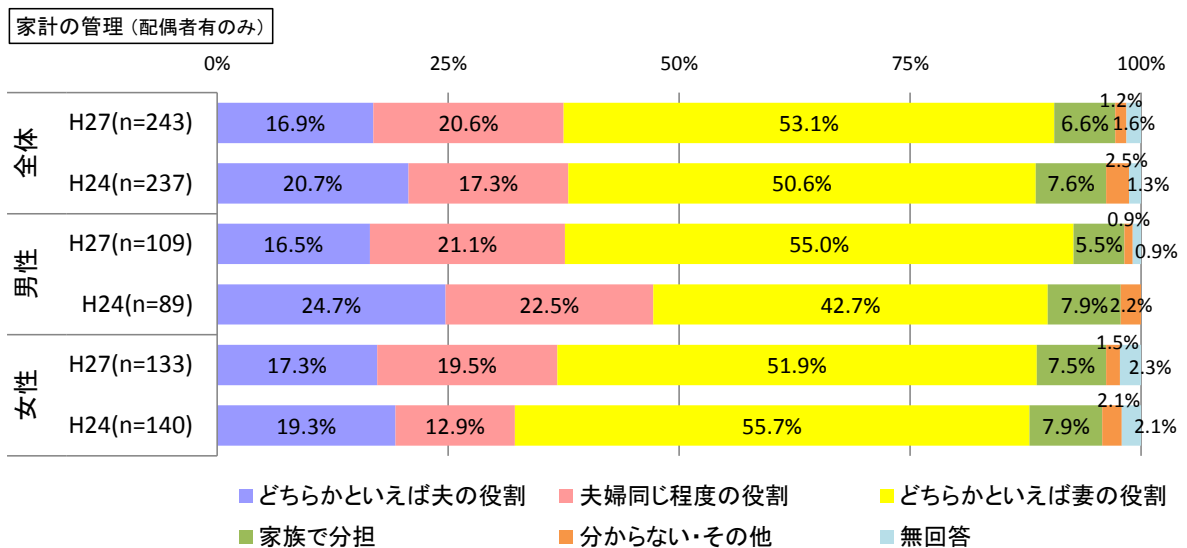
男女別では、「どちらかといえば妻の役割」が、男性で 7.1 ポイント増え、女性では 5.7 ポイント減少した。



男女別（配偶者有のみ）

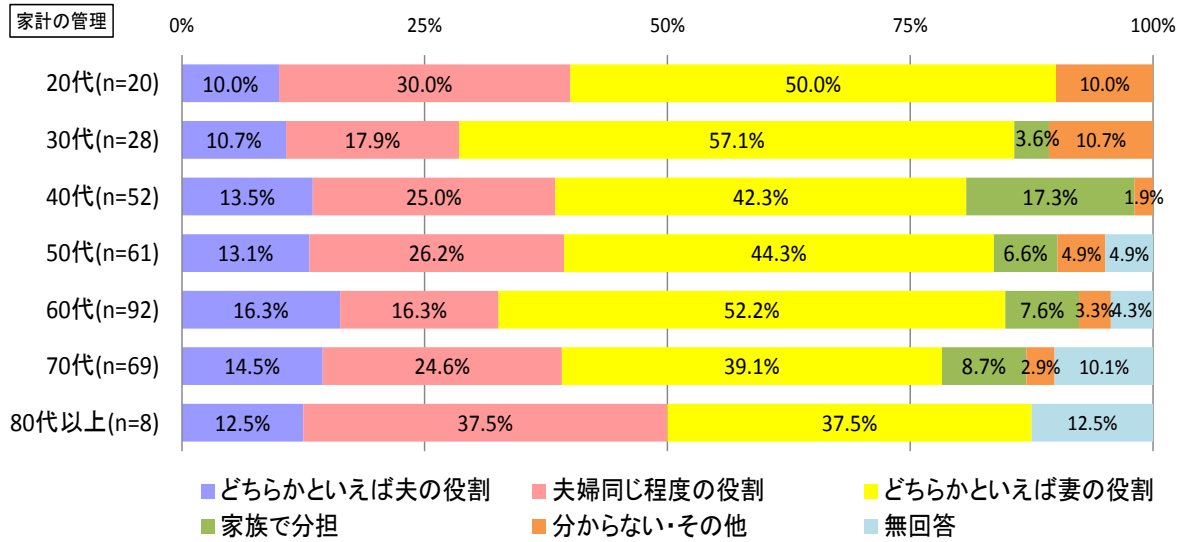
全体では、「どちらかといえば夫の役割」が 3.8 ポイント減少し、「夫婦同じ程度の役割」は 3.3 ポイント、「どちらかといえば妻の役割」は 2.5 ポイント増加した。

男女別では、「どちらかといえば妻の役割」が、男性で 12.3 ポイント増加し、女性では 3.8 ポイント減少した。



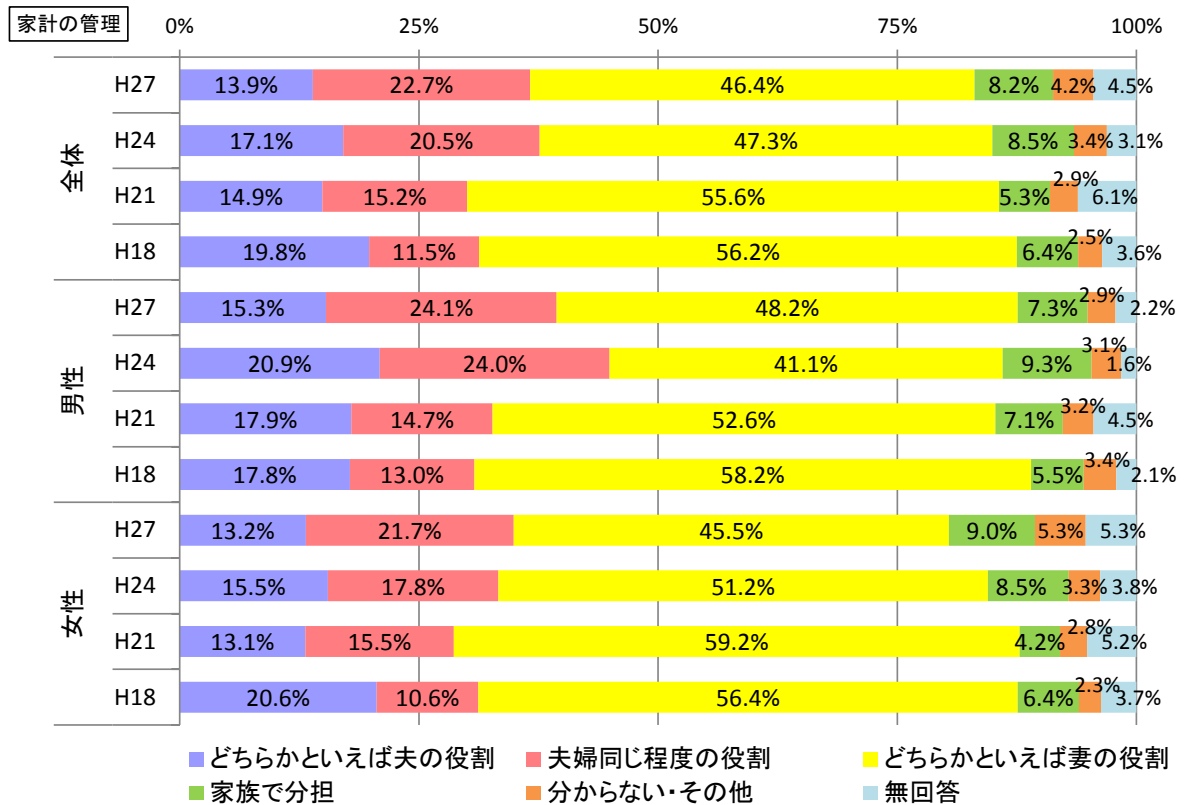
年代別

「夫婦同じ程度の役割」と答えた人が多い年代のトップ3は、①80 代以上(37.5%)、②20 代(30.0%)、③50 代(26.2%)の順だった。



H18 調査からの経年変化

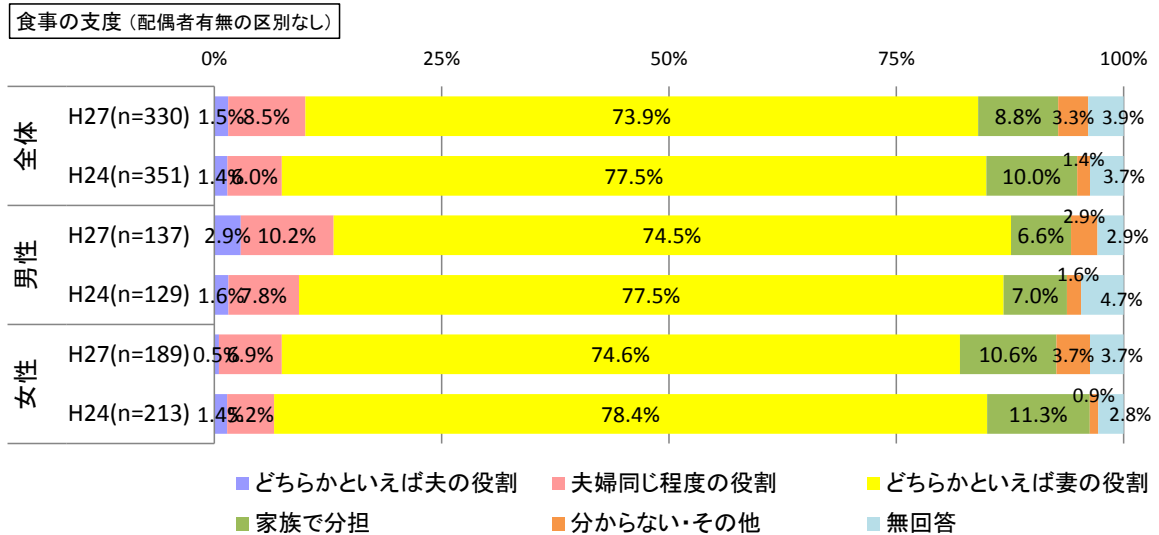
全体では、H18調査とH27調査を比べると、「平等である」の割合が 11.5%から 22.7%と 11.2 ポイント増えた。



(2) 食事の仕度

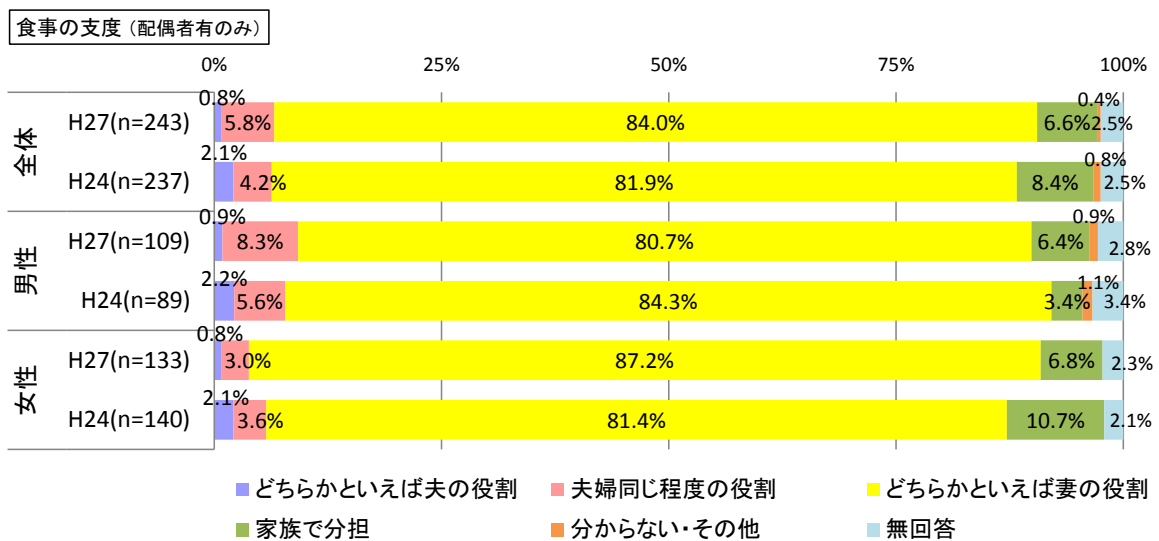
男女別

全体では、「夫婦同じ程度の役割」が 2.5 ポイント増え、「どちらかといえば女性優遇」が 3.6 ポイント減少した。男女別にも同様の傾向が見られる。



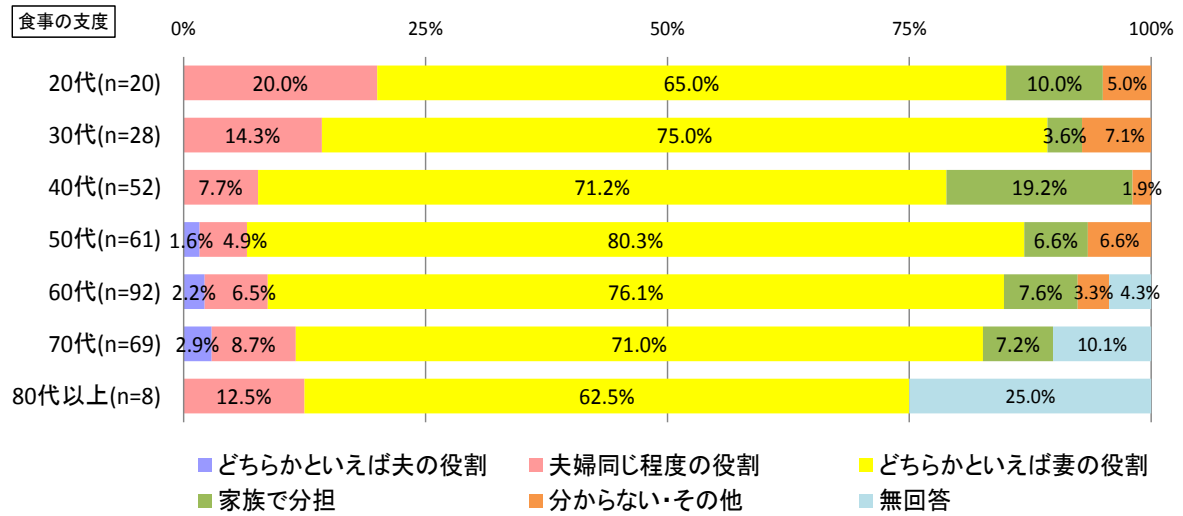
男女別（配偶者有のみ）

全体、および男女別ともに「どちらかといえば男性優遇」が減少した。また、いずれも前回調査と同じく、「どちらかといえば妻の役割」が 80%を超えている。



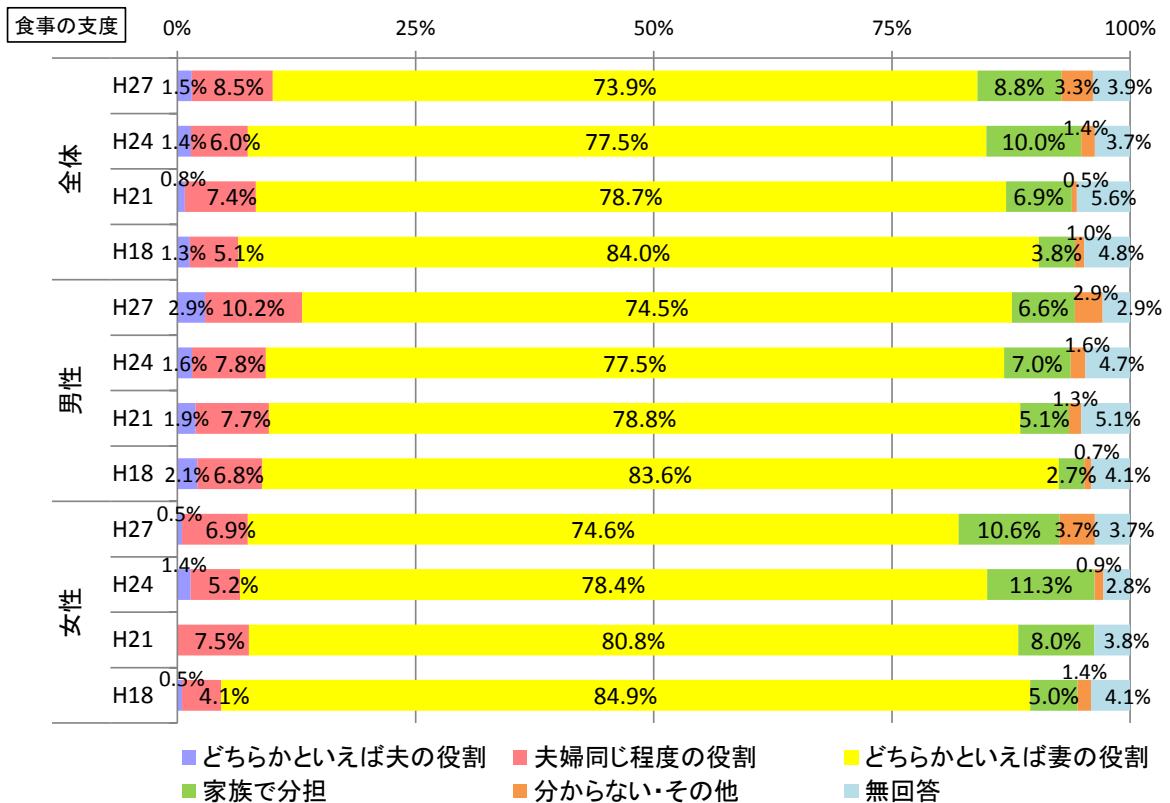
年代別

「夫婦同じ程度の役割」と答えた人が多い年代のトップ3は、①20代(20.0%)、
②30代(14.3%)、③80代以上(12.5%)の順だった。



H18 調査からの経年変化

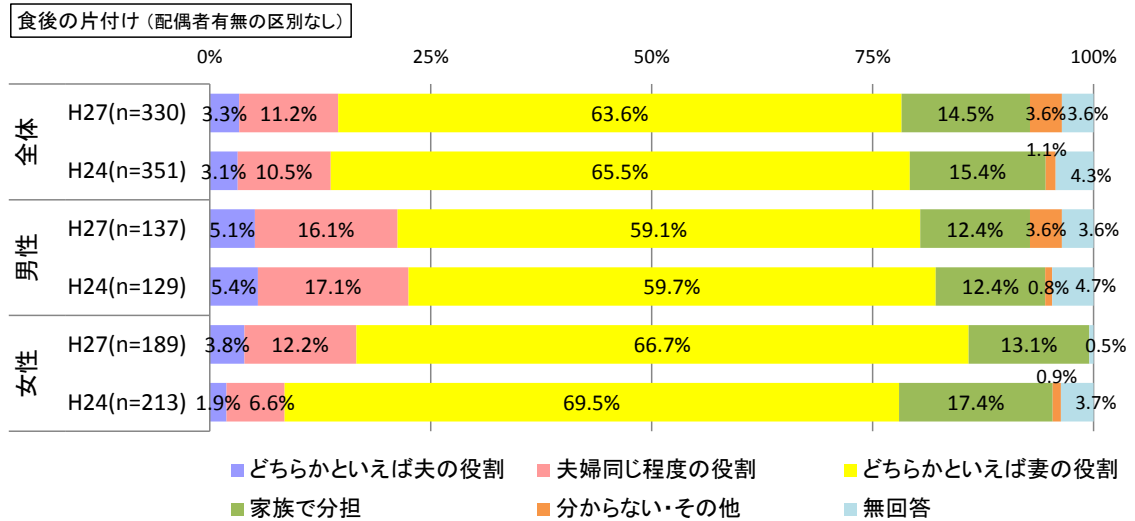
全体では、H18調査とH27調査を比べると、「家族で分担」の割合が3.8%から8.8%と5.0ポイント増えた。



(3) 食後の片付け

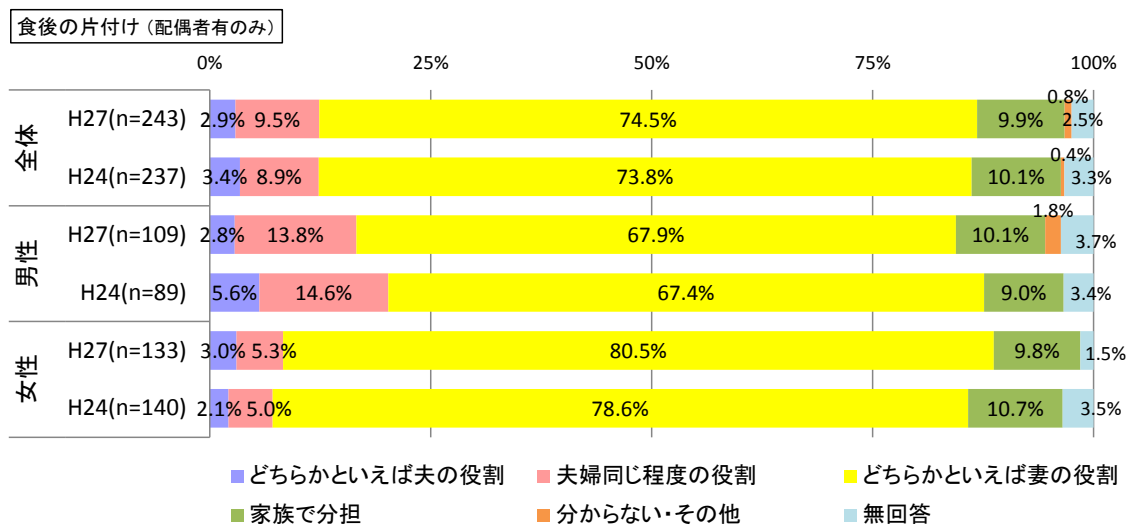
男女別

全体、及び男女別ともに「どちらかといえば妻の役割」が若干減少した。他の役割については、前回と比較して、顕著な変化は見られない。



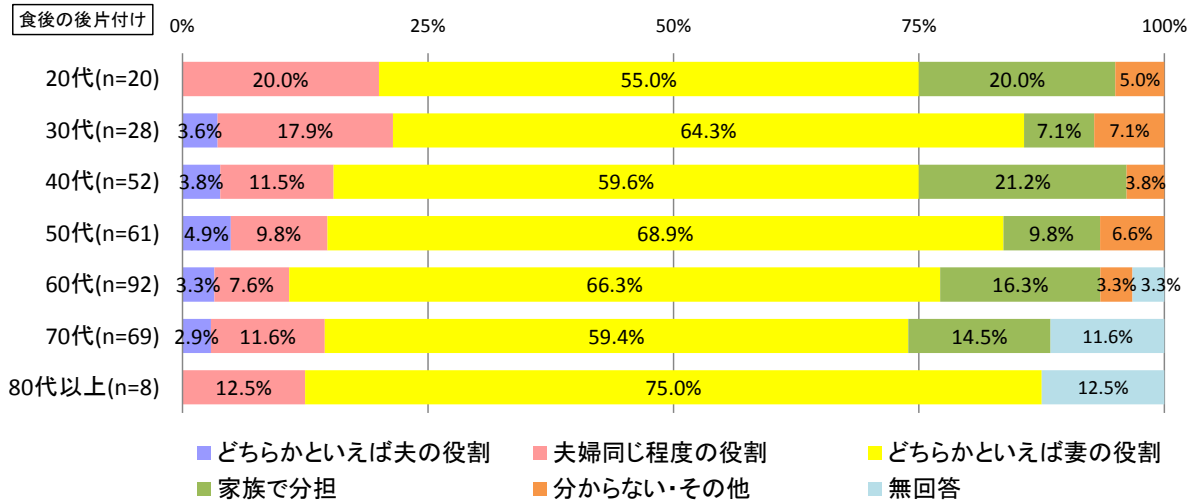
男女別（配偶者有のみ）

全体では、前回調査とほぼ変わらないが、男女別では、男性は、「どちらかと言うと夫の役割」が半減し、「家族で分担」が 1.1 ポイントの微増となった。女性は前回調査とほとんど変わらなかった。



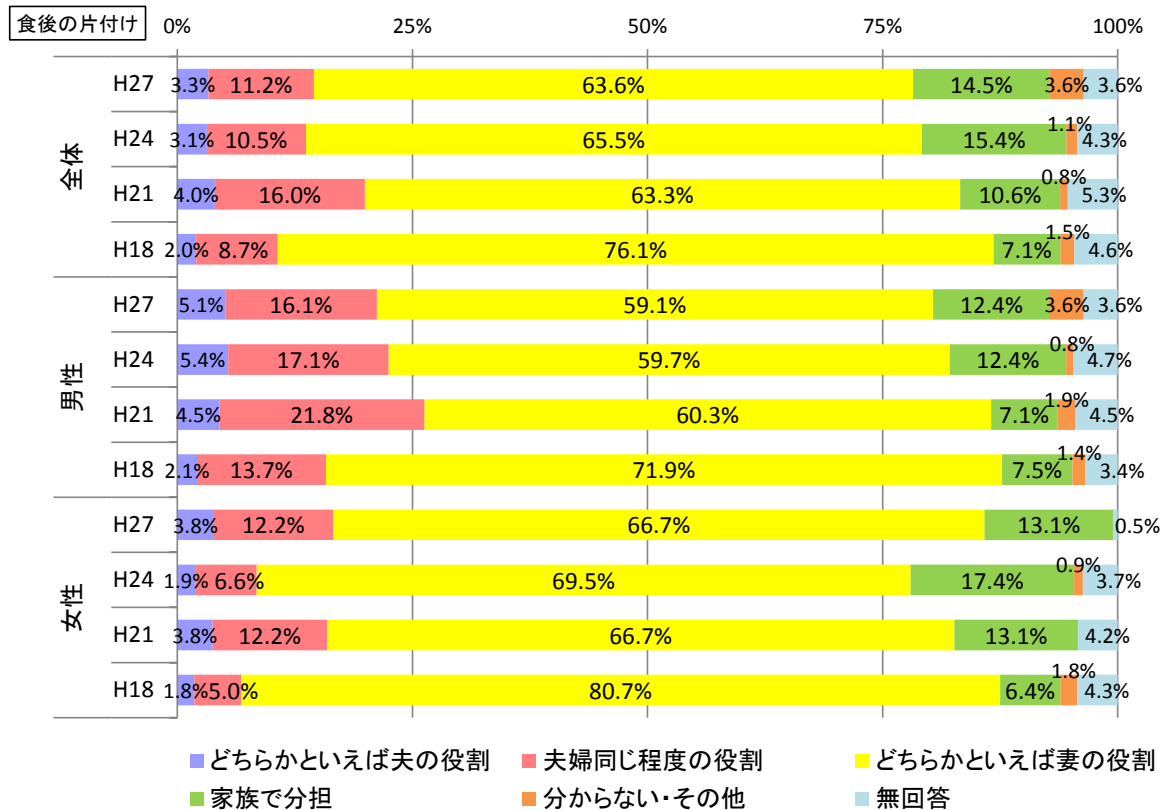
年代別

「夫婦同じ程度の役割」と答えた人が多い年代のトップ3は、①20代(20.0%)、
②30代(17.9%)、③80代以上(12.5%)の順だった。



H18 調査からの経年変化

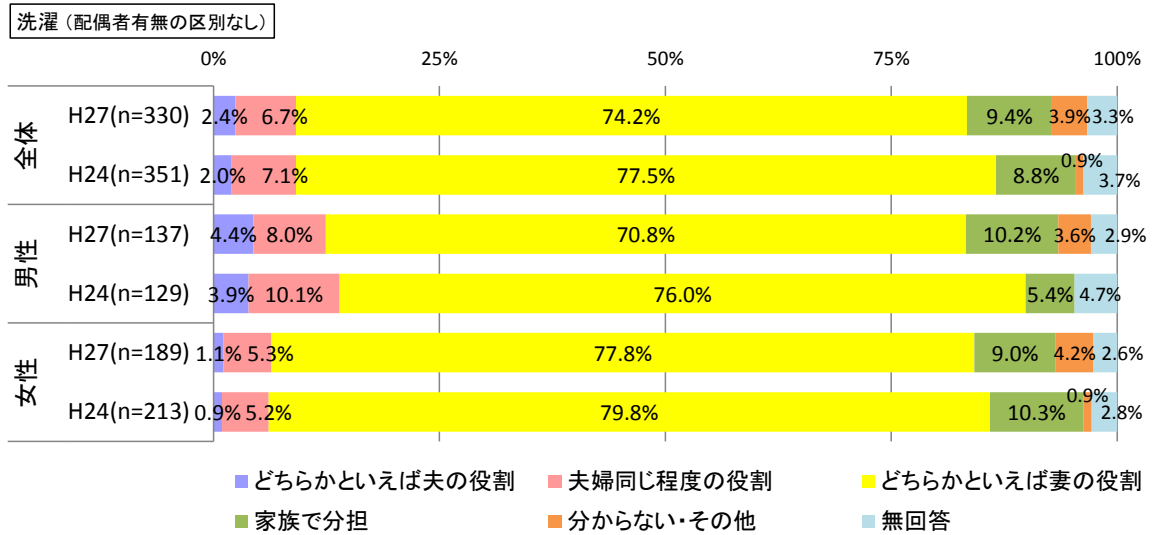
全体では、H18調査とH27調査を比べると、「家族で分担」の割合が7.1%から
14.5%と7.4ポイント増えた。



(4) 洗濯

男女別

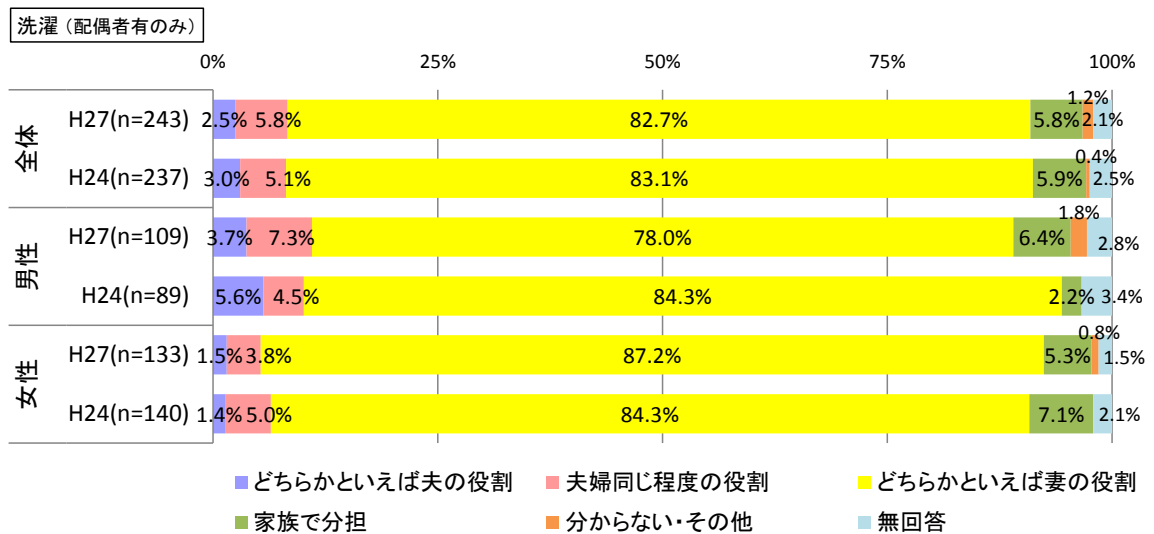
全体、男女別ともに、「どちらかといえば妻の役割」が減少し、ごくわずかではあるが、「どちらかといえば夫の役割」が増えた。



男女別（配偶者有のみ）

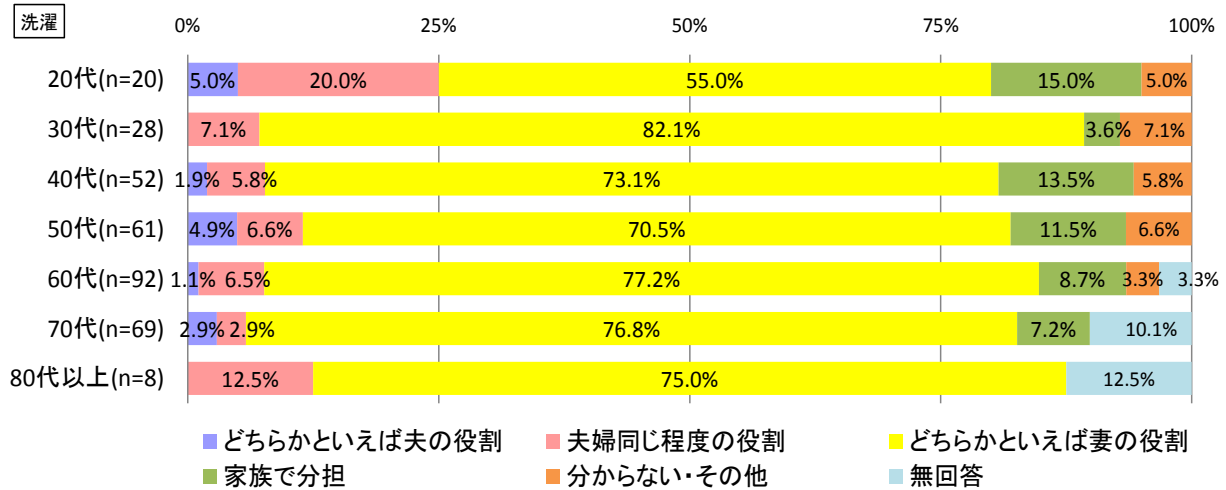
全体では、前回調査と比べても大きな変化は見られない。

男女別では、男性では、「夫婦同じ程度の役割」が 2.8 ポイント増加し、「どちらかといえば妻の役割」が 6.3 ポイント減少した。一方、女性では「夫婦同じ程度の役割」が 1.2 ポイント減少し、「どちらかといえば妻の役割」が 2.9 ポイント増加した。



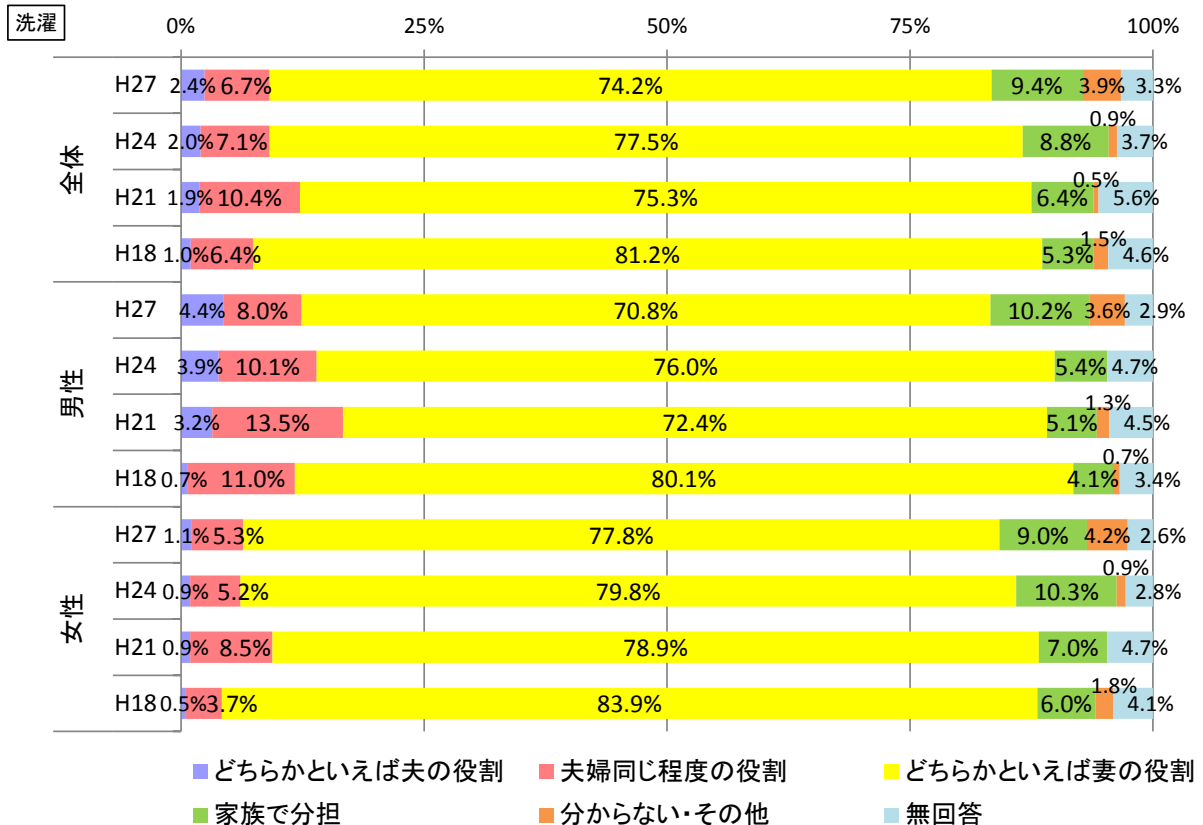
年代別

「夫婦同じ程度の役割」と答えた人が多い年代のトップ3は、①20代(20.0%)、②80代以上(12.5%)、③30代(7.1%)の順だった。



H18 調査からの経年変化

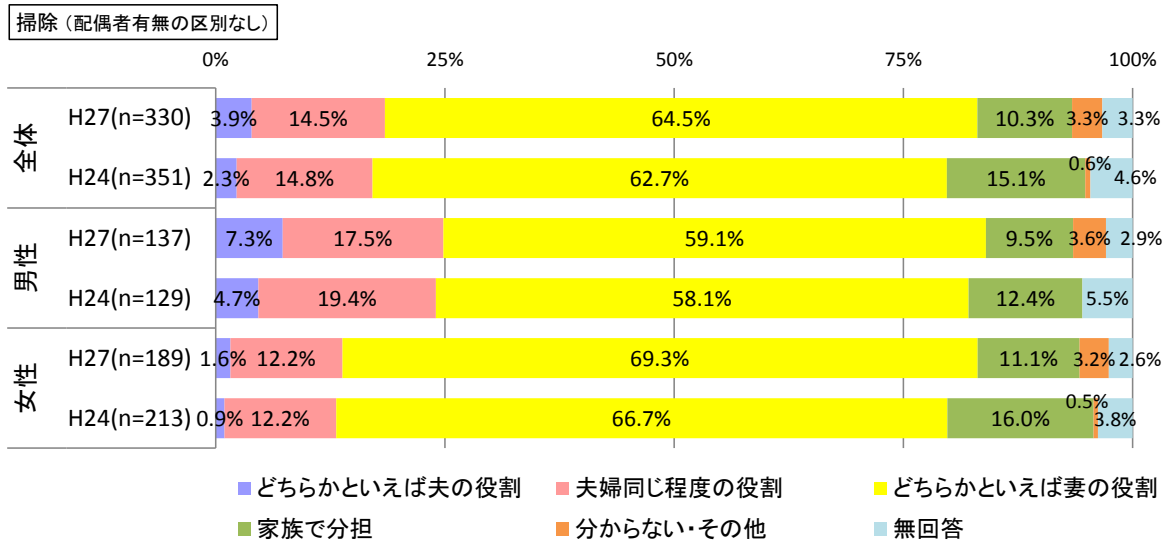
全体では、H18調査とH27調査を比べると、「家族で分担」の割合が5.3%から9.4%と4.1ポイント増えた。



(5) 掃除

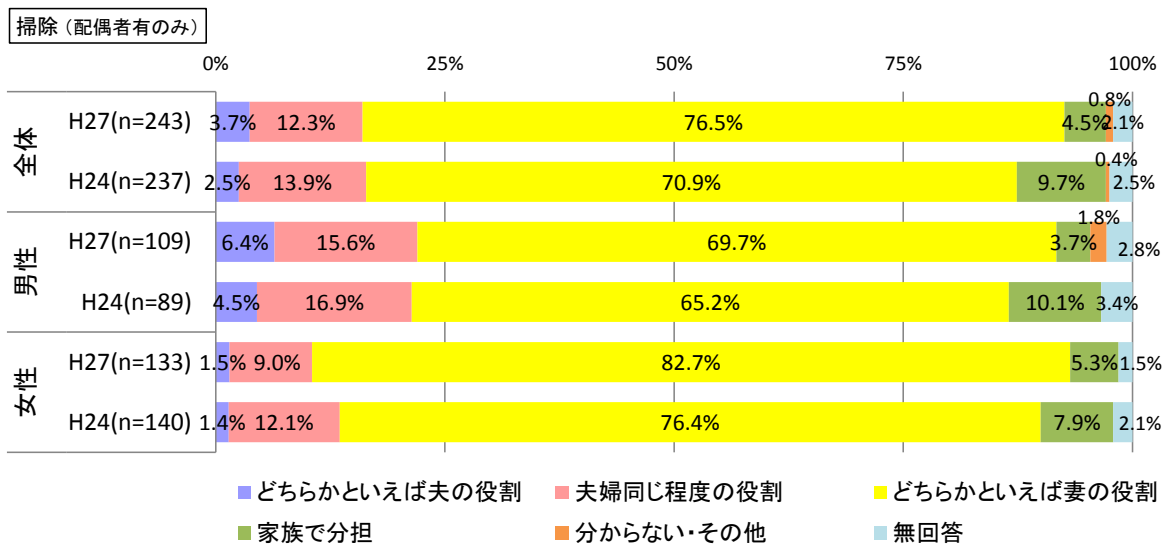
男女別

全体、男女別で、「どちらかといえば夫の役割」、「どちらかといえば妻の役割」がともに増加し、「家族で分担」が減少している。



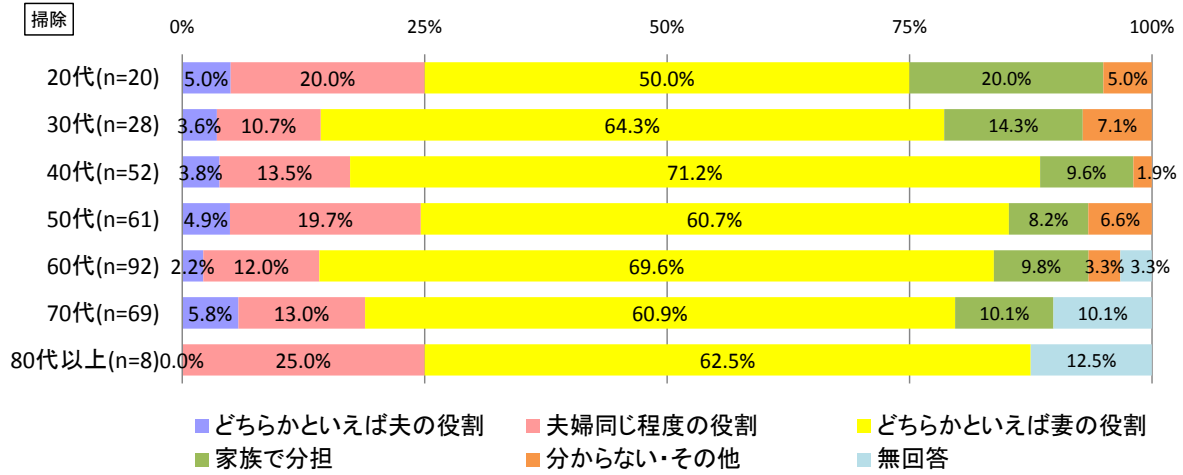
男女別（配偶者有のみ）

全体、男女別で、「どちらかといえば夫の役割」、「どちらかといえば妻の役割」がともに増加し、「家族で分担」が減少している。



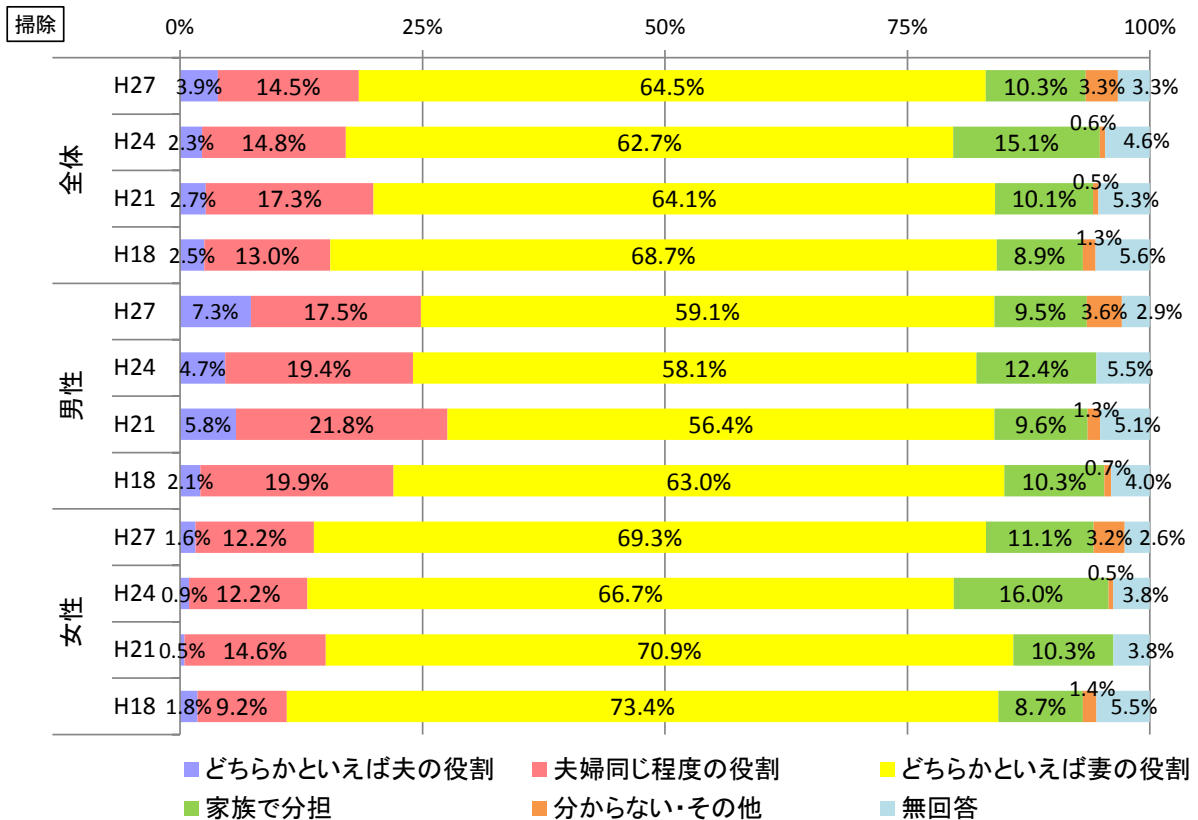
年代別

「夫婦同じ程度の役割」と答えた人が多い年代のトップ3は、①80 代以上(25.0%)、②20 代(20.0%)、③50 代(19.7%)の順だった。



H18 調査からの経年変化

全体では、H18調査とH27調査を比べると、「家族で分担」の割合が 8.9%から 10.3%と 1.4 ポイント微増した。

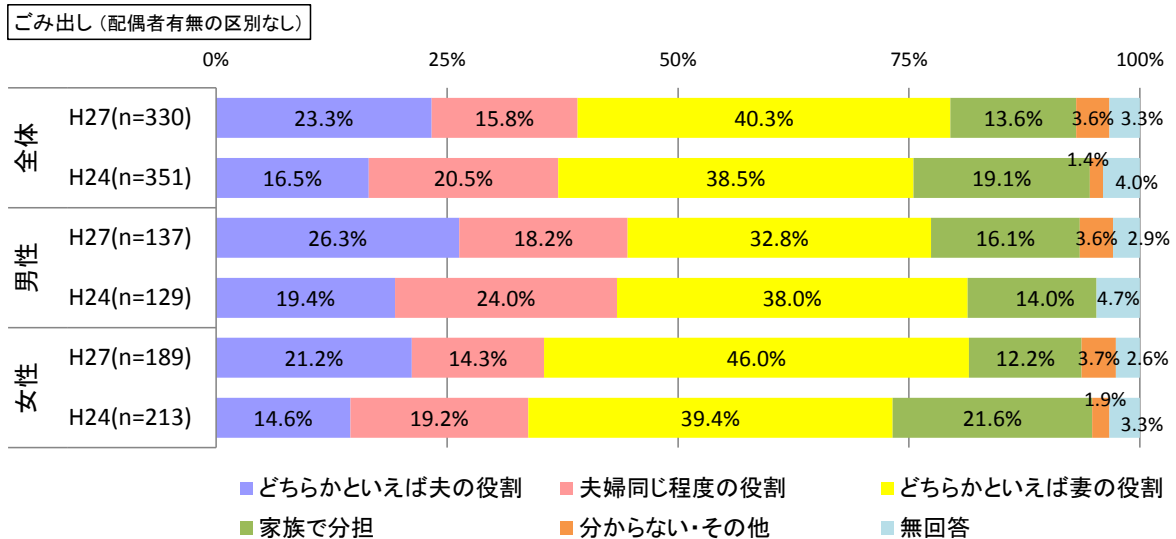


(6) ごみ出し

男女別

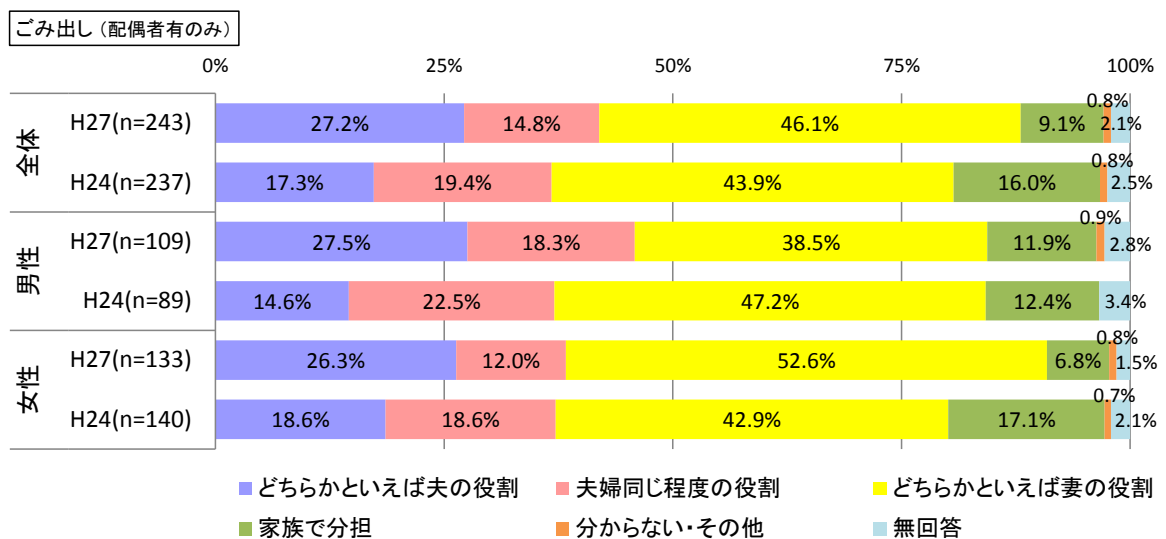
全体、男女ともに、「どちらかといえば夫の役割」が増加し、「夫婦同じ程度の役割」が減少している。

男女別では、男性は、「どちらかといえば妻の役割」が 5.2 ポイント減少している一方、女性は 6.6 ポイント増加している。



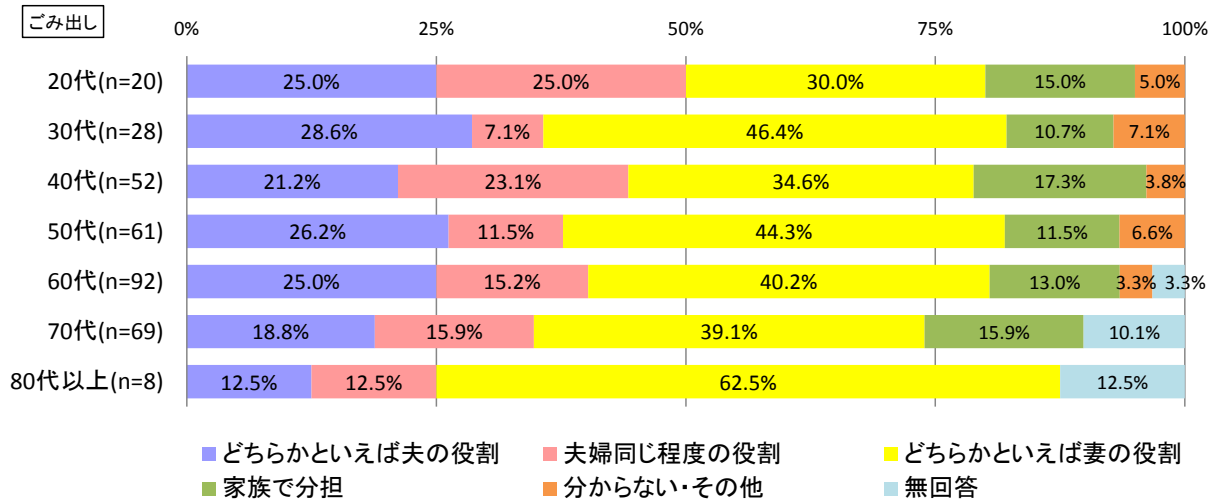
男女別（配偶者有のみ）

全体、男女別ともに、「どちらかといえば夫の役割」が増加し、「夫婦同じ程度の役割」、「家族で分担」が減少している。



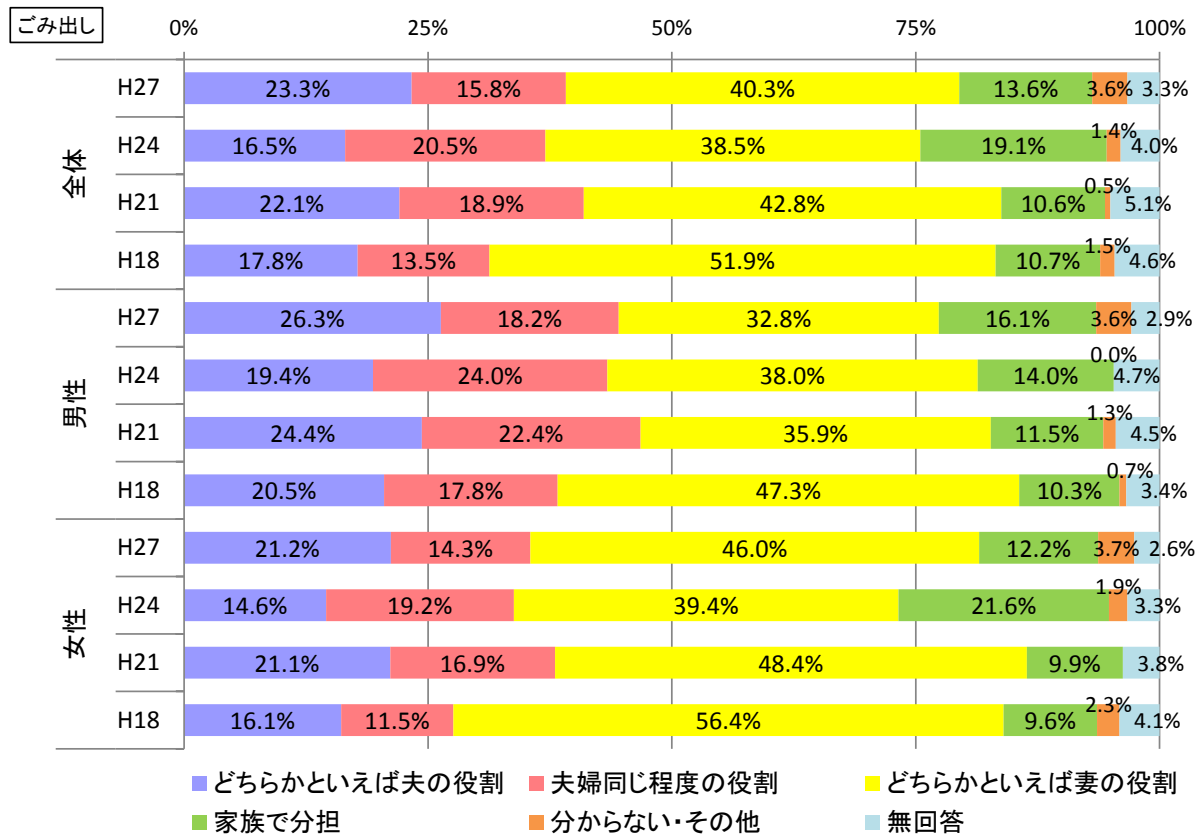
年代別

「夫婦同じ程度の役割」と答えた人が多い年代のトップ3は、①20代(25.0%)、②40代(23.1%)、③70代(15.9%)の順だった。



H18 調査からの経年変化

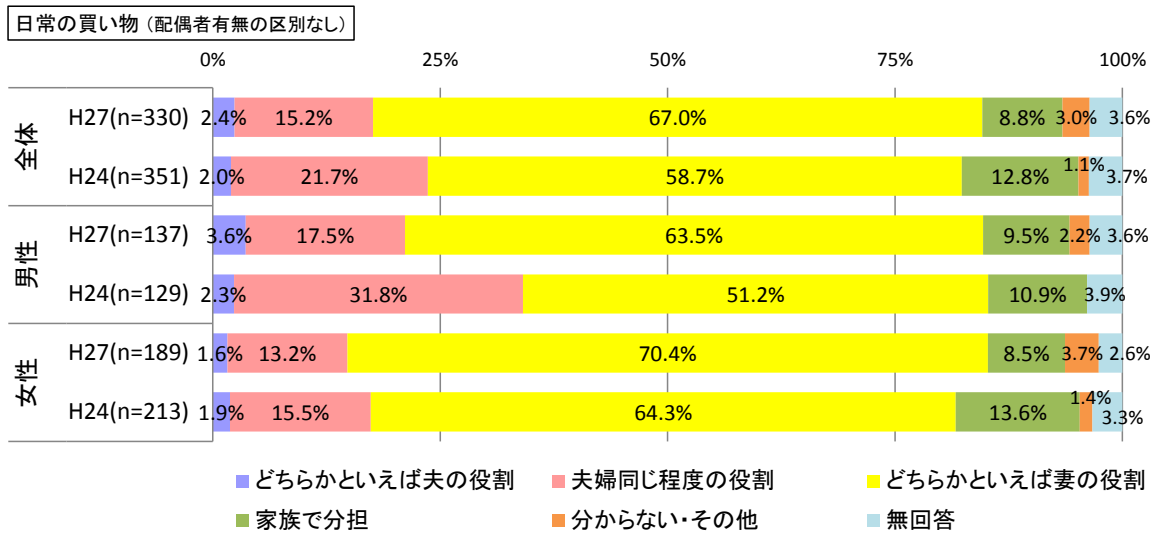
全体では、H18調査と H27調査を比べると、「どちらかといえば夫の役割」の割合が 17.8%から 23.3%と 5.5 ポイント増えた。



(7) 日常の買い物

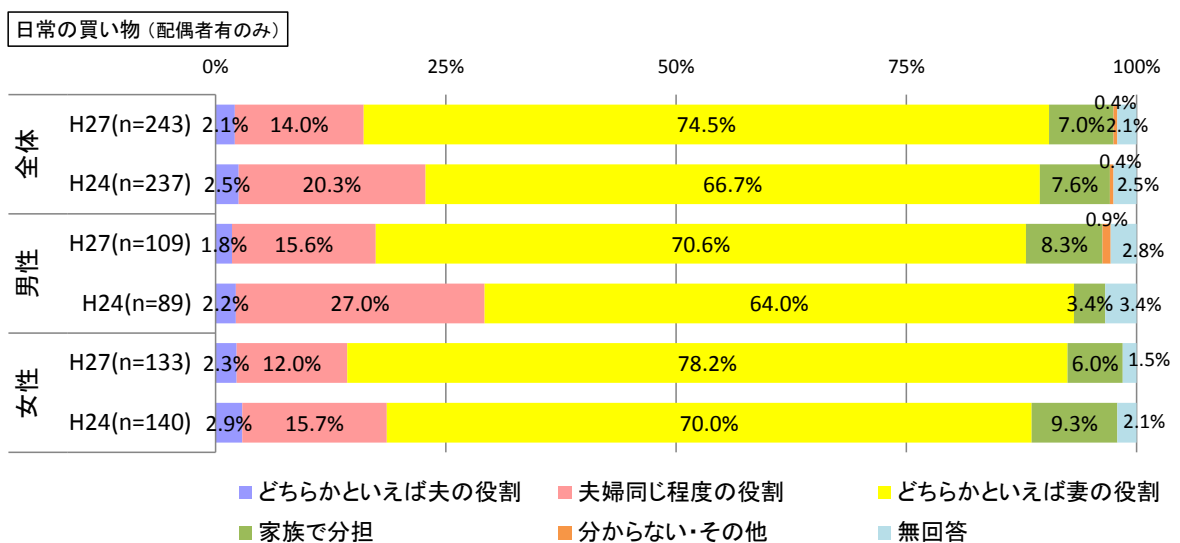
男女別

全体、男女別ともに、「夫婦同じ程度の役割」、「どちらかといえば妻の役割」が増加している。「どちらかといえば夫の役割」の割合は、あまり大きな変化はなかった。



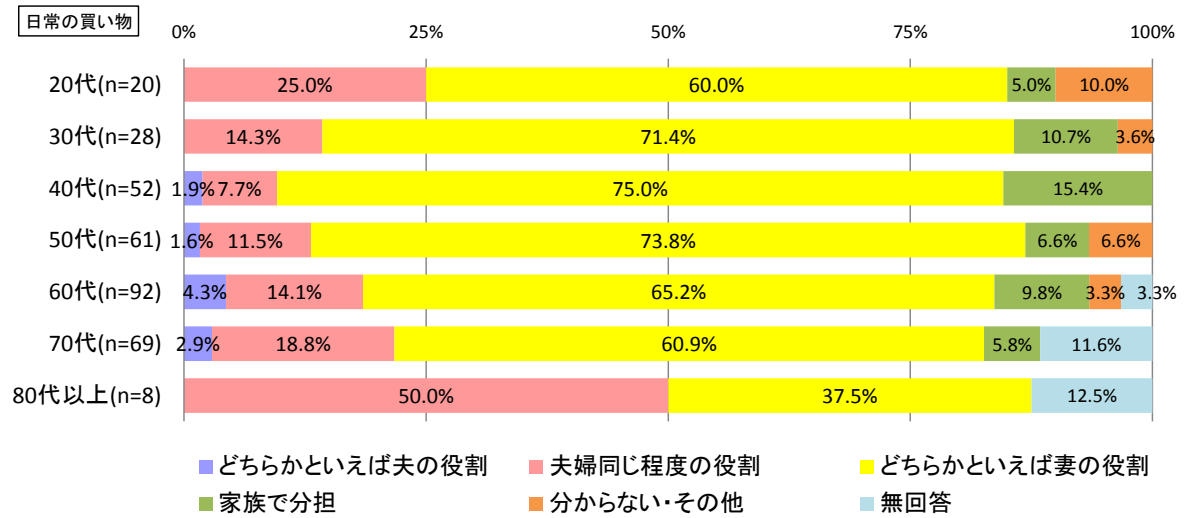
男女別（配偶者有のみ）

全体、男女別ともに、「夫婦同じ程度の役割」が減少し、「どちらかといえば妻の役割」が増加している。「どちらかといえば夫の役割」の割合は、あまり変化がなかった。



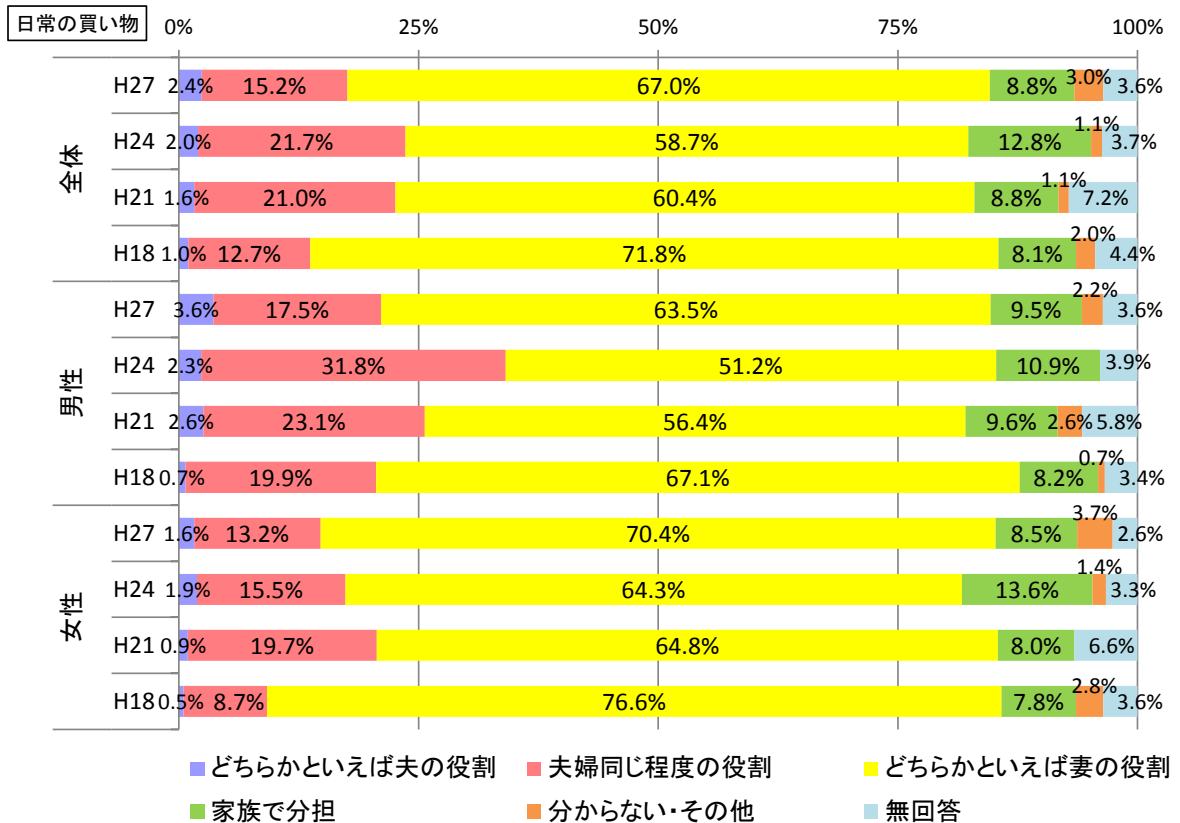
年代別

「夫婦同じ程度の役割」と答えた人が多い年代のトップ3は、①80 代以上(50.0%)、②20 代(25.0%)、③70 代(18.8%)の順だった。



H18 調査からの経年変化

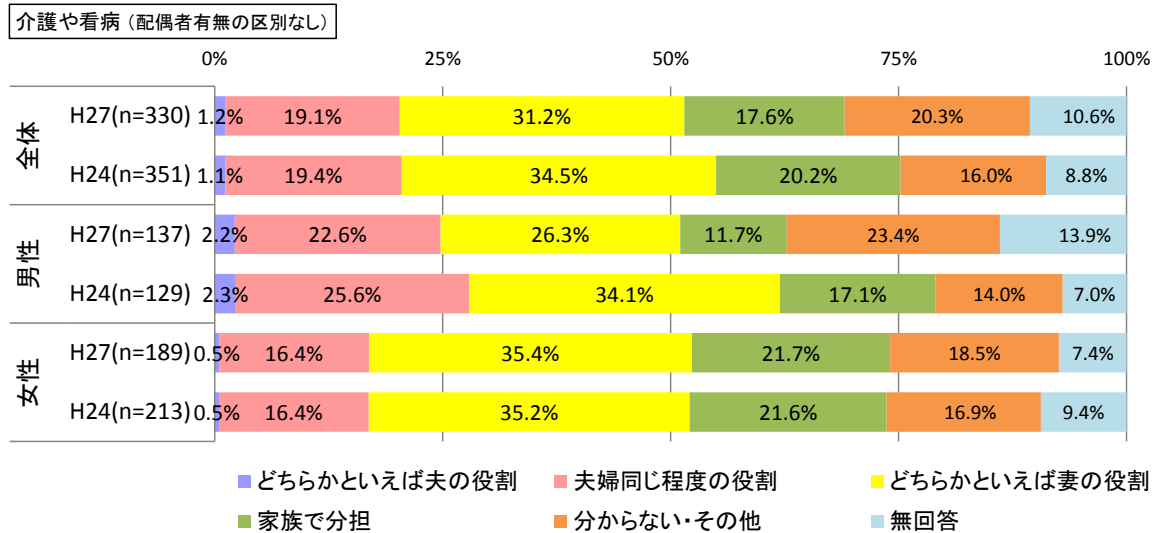
全体では、H18調査と H27調査を比べると、「夫婦同じ程度の役割」の割合が 12.7%から 15.2%と 2.5 ポイント増えた。



(8) 介護や看病

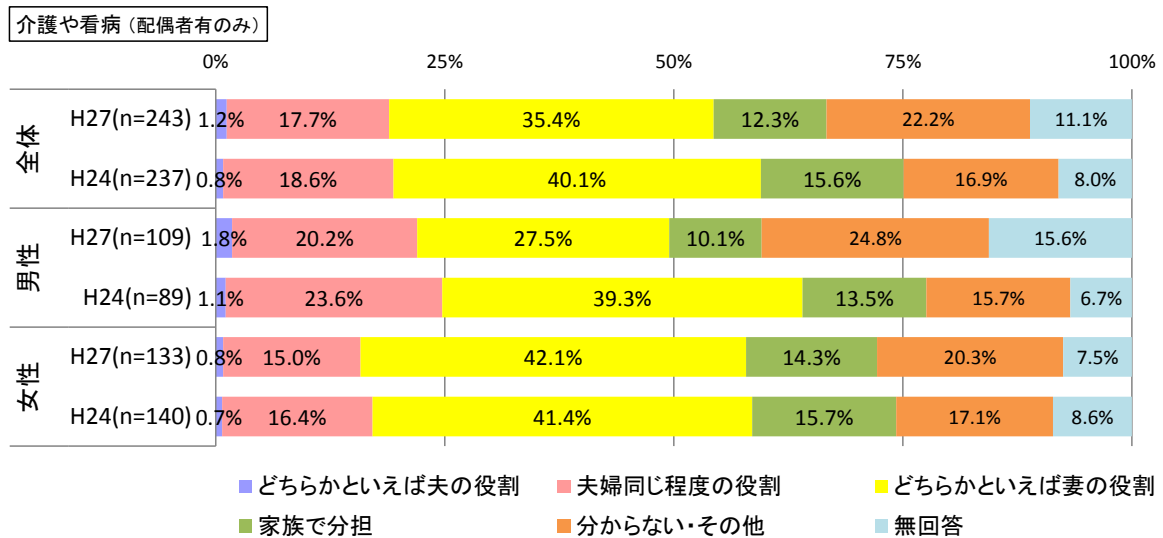
男女別

全体、男女ともに前回と比較して顕著な変化は見られないが、「どちらかといえば夫の役割」と答えた人の割合は低い。



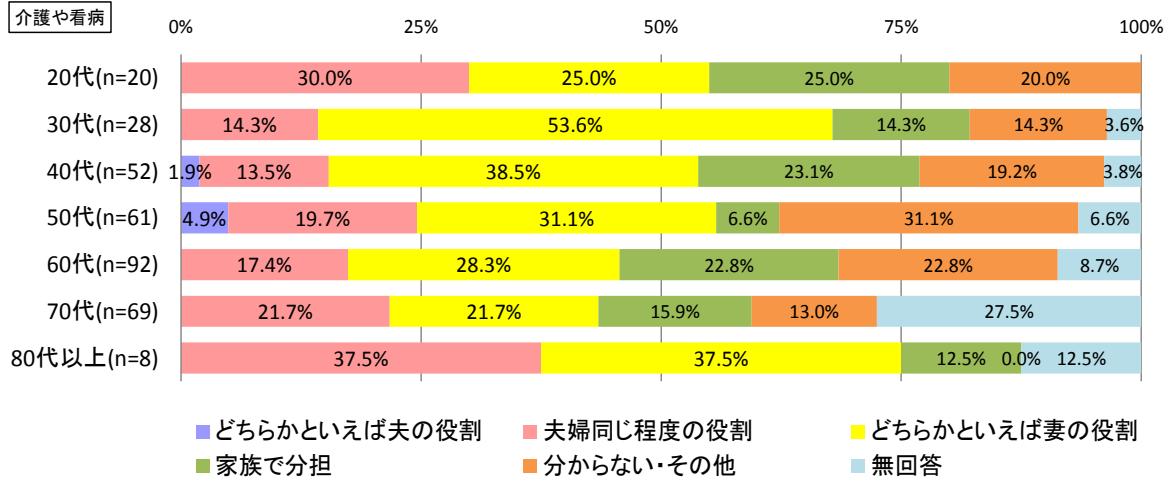
男女別（配偶者有のみ）

全体、男女別ともに、「夫婦同じ程度の役割」、「家族で分担」が減少している。配偶者有りの場合も、「どちらかといえば夫の役割」と答えた人の割合は低い。



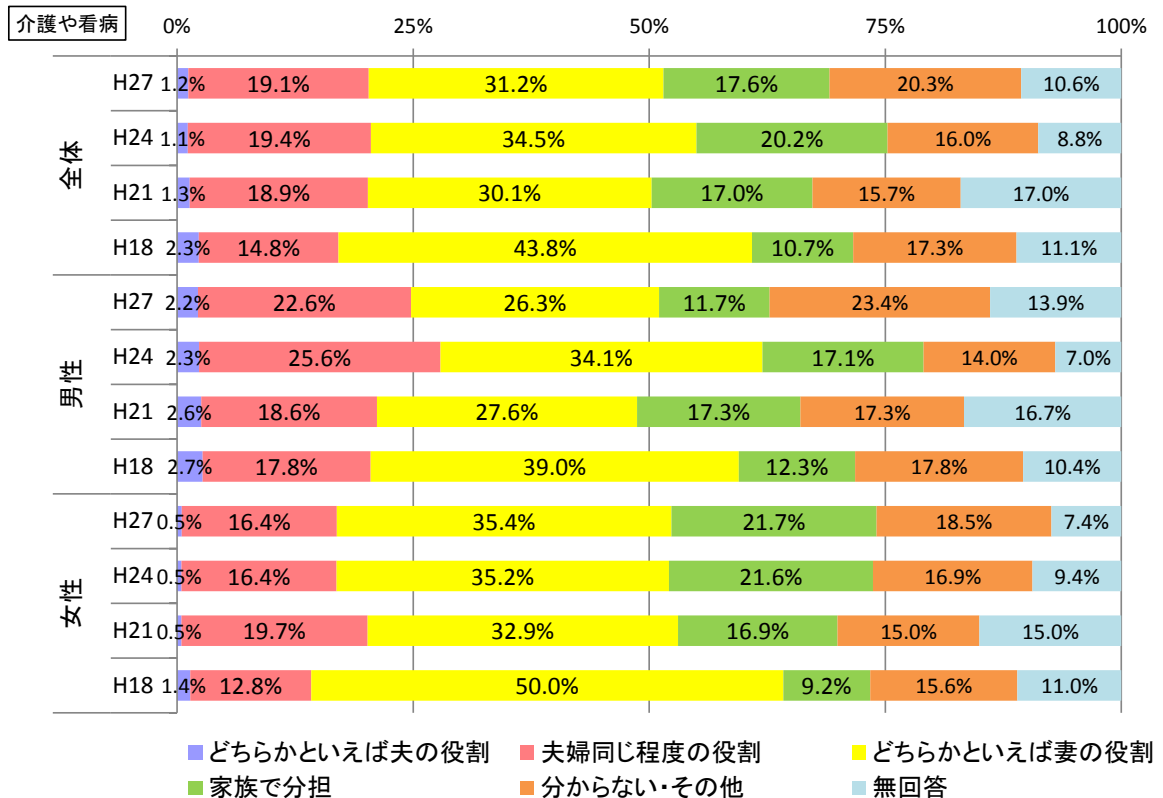
年代別

「夫婦同じ程度の役割」と答えた人が多い年代のトップ3は、①80 代以上(37.5%)、②20 代(30.0%)、③70 代(21.7%)の順だった。



H18 調査からの経年変化

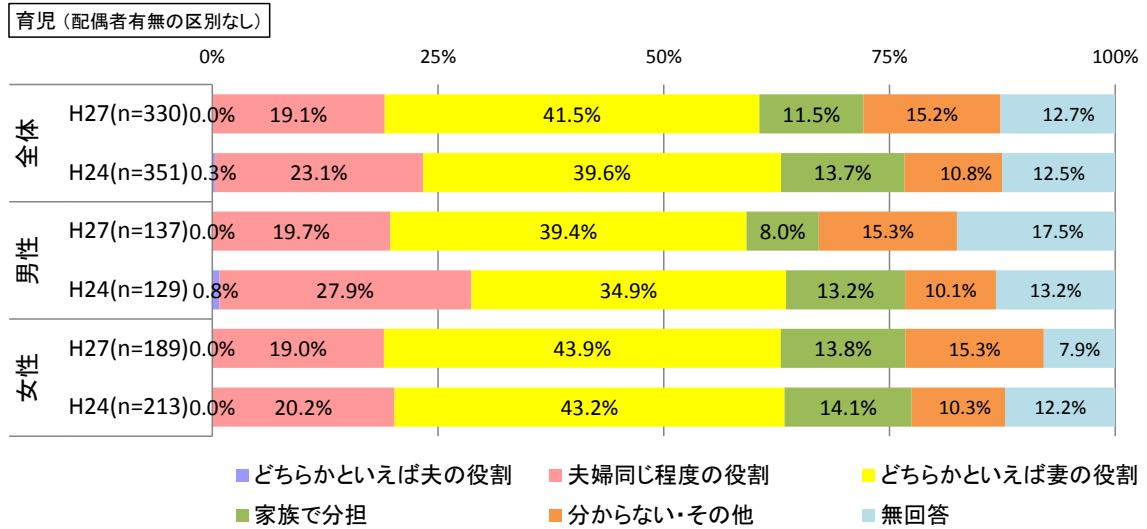
全体では、H18調査と H27調査を比べると、「家族で分担」の割合が 10.7%から 17.6%と 6.9 ポイント増えた。



(9) 育児

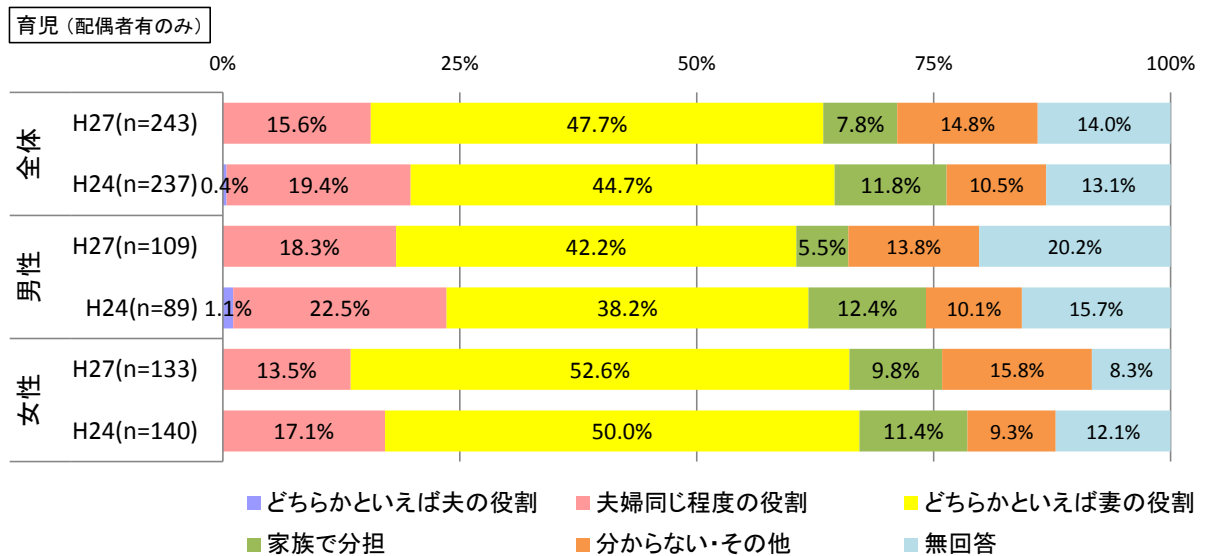
男女別

全体、男女別ともに、「どちらかといえば夫の役割」と答えた人はいなかった。また、「夫婦同じ程度の役割」が減少し、「どちらかといえば妻の役割」が増加している。



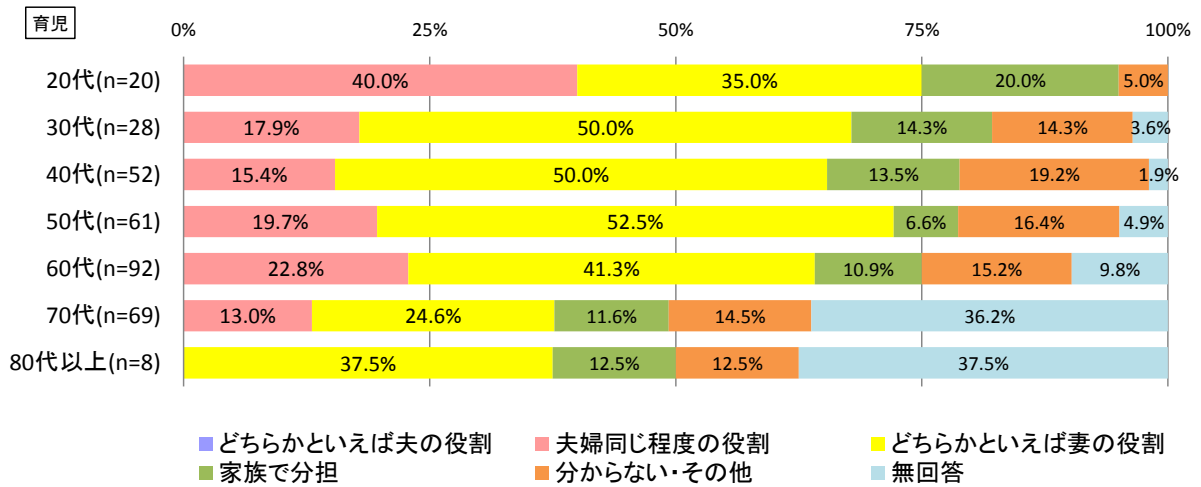
男女別（配偶者有のみ）

全体、男女別ともに、「どちらかといえば夫の役割」と答えた人はいなかった。また、「夫婦同じ程度の役割」、「家族で分担」が減少し、「どちらかといえば妻の役割」が増加している。



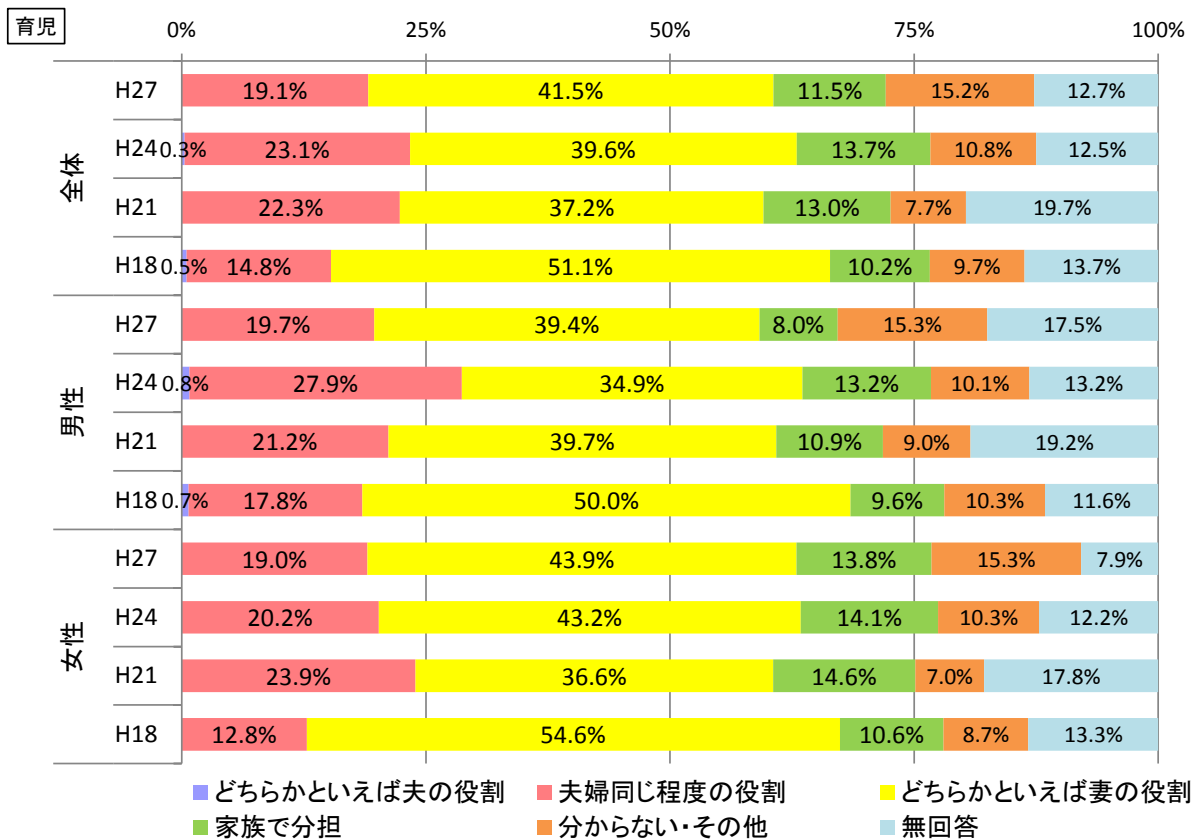
年代別

「夫婦同じ程度の役割」と答えた人が多い年代のトップ3は、①80 代以上(37.5%)、②20 代(30.0%)、③70 代(21.7%)の順だった



H18 調査からの経年変化

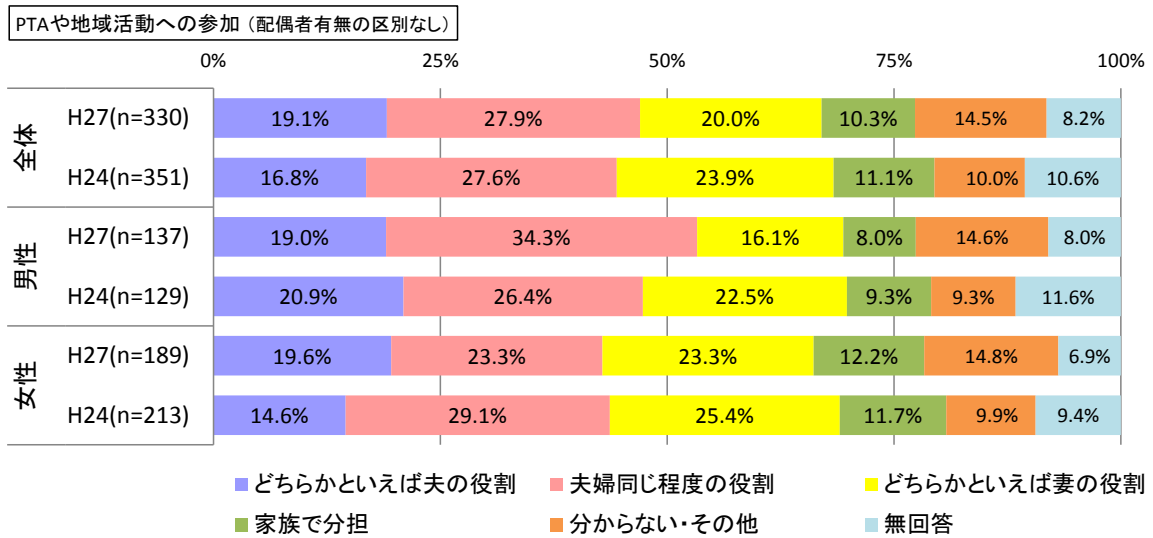
全体では、H18調査と H27調査を比べると、「夫婦同じ程度の役割」の割合が 14.8%から 19.1%と 4.3 ポイント増えた。



(10) PTA や地域活動への参加

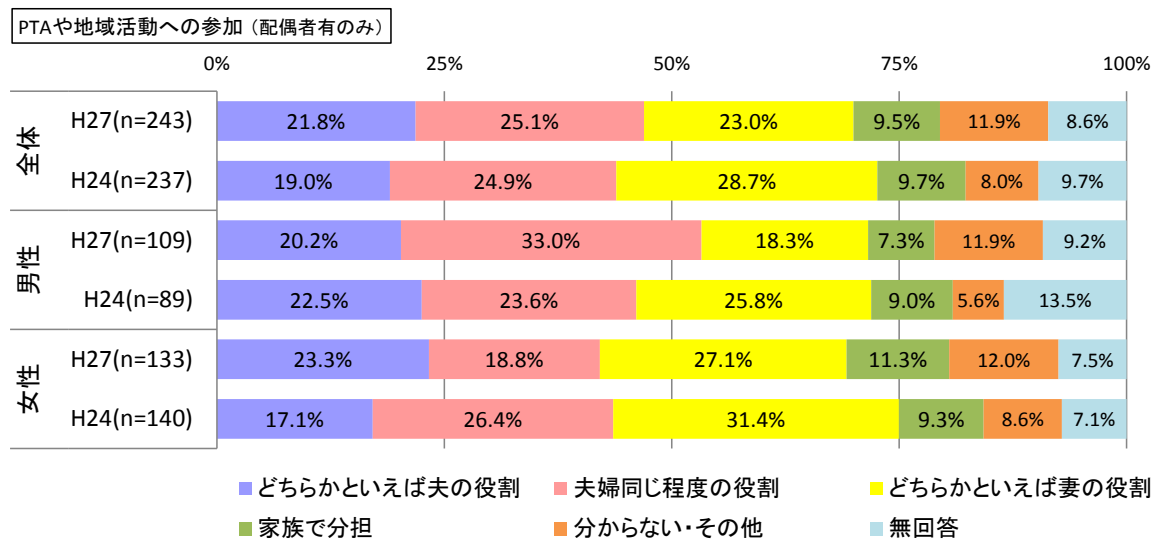
男女別

全体、男女別ともに、「どちらかといえば妻の役割」が減少している。男女別では、「夫婦同じ程度の役割」が、男性では 7.9 ポイント増加しているのに対し、女性は、5.8 ポイント減少している。



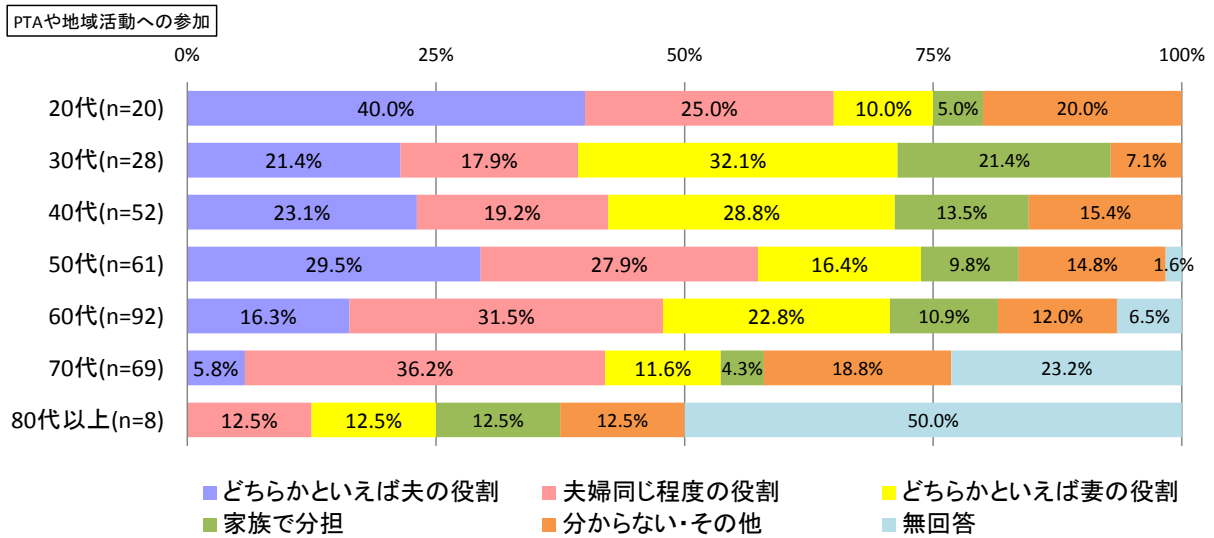
男女別（配偶者有のみ）

全体、男女別ともに、「どちらかといえば妻の役割」が減少している。男女別では、「夫婦同じ程度の役割」が、男性は 9.4 ポイント増加しているのに対し、女性は 7.6 ポイント減少している。



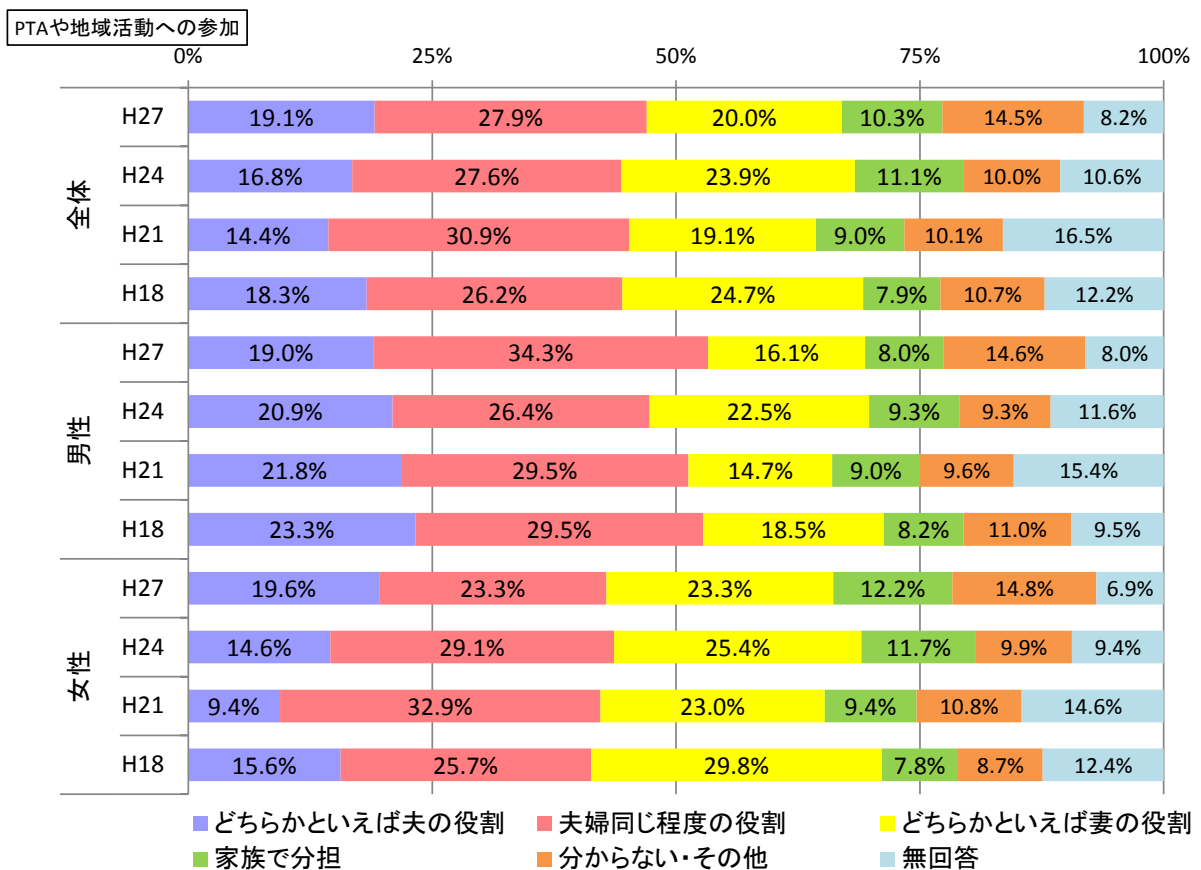
年代別

「夫婦同じ程度の役割」と答えた人が多い年代のトップ3は、①80 代以上(37.5%)、
②20 代(30.0%)、③70 代(21.7%)の順だった



H18 調査からの経年変化

全体では、H18調査と H27調査を比べると、「夫婦同じ程度の役割」の割合が
26.2%から 27.9%と 1.7 ポイント増えた。



●職場における男女平等について

●問5. 男女が共に働き続けるための対策

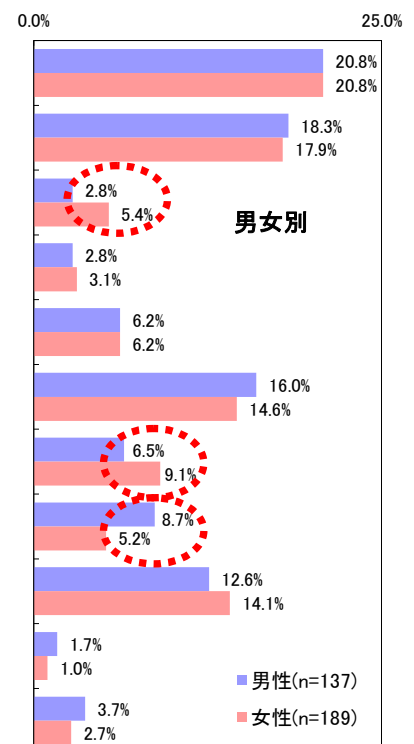
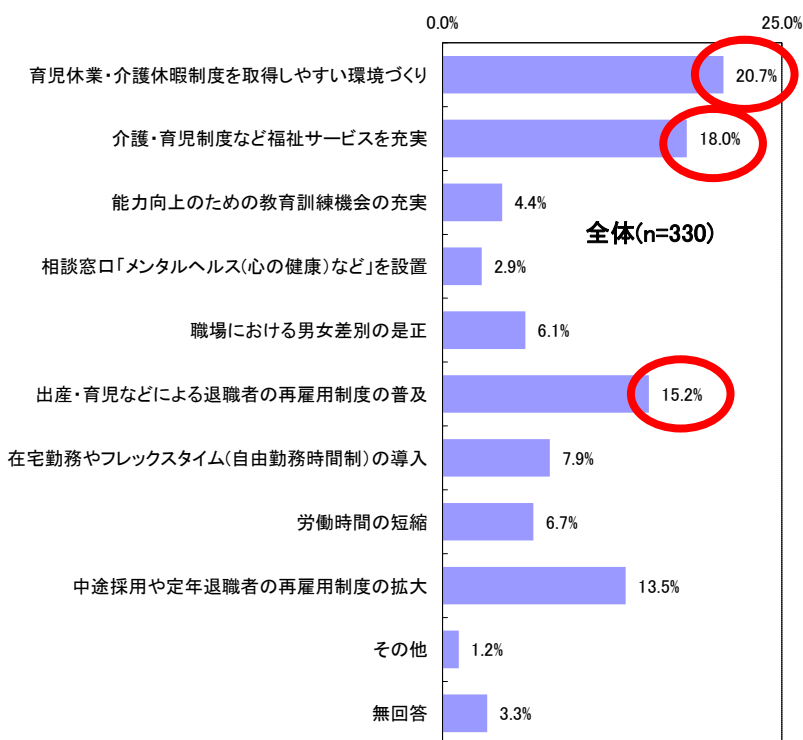
男女が共に働き続けるためには、今後どのような対策が必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを、3つ選んでください。

1. 全体

全体のトップ3は、①「男女とも育児休業・介護休暇制度を取得しやすい環境づくり」20.7%、②「介護・育児制度など福祉サービスを充実」18.0%、③「出産・育児などによる退職者の再雇用制度の充実」15.2%の順であった。

2. 男女別

男女間で意識の差が大きかった対策は、①「労働時間の短縮」で、男性の方が、女性より 3.5 ポイント多かった。次は、②「能力向上のための教育訓練機会の充実」、「在宅勤務やフレックスタイム(自由勤務時間制)の導入」で、いずれも 2.6 ポイント差で、女性の方が多かった。



問6. 職場における男女平等

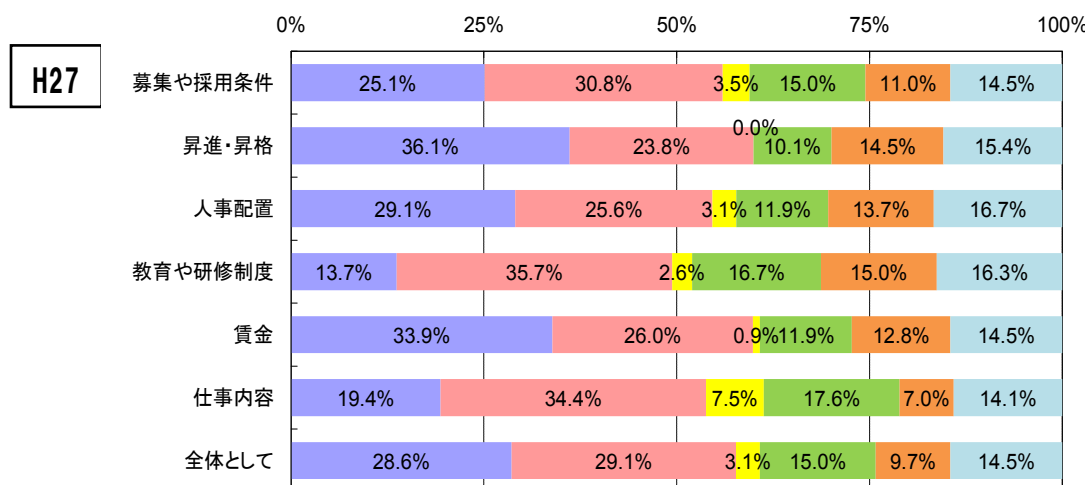
働いている方へ。(現在、働いていない人は問8へ)あなたの職場は、男女平等になっていると思いますか。「募集や採用条件」～「全体」としての7項目について、あなたの環境や考えに近いものを、それぞれ1つ選んでください。

1. 全体

「どちらかといえば男性優遇」は、①「昇進・昇格」36.1%、②「賃金」33.9%、③「人事配置」29.1%の順で、前回と同様であった。

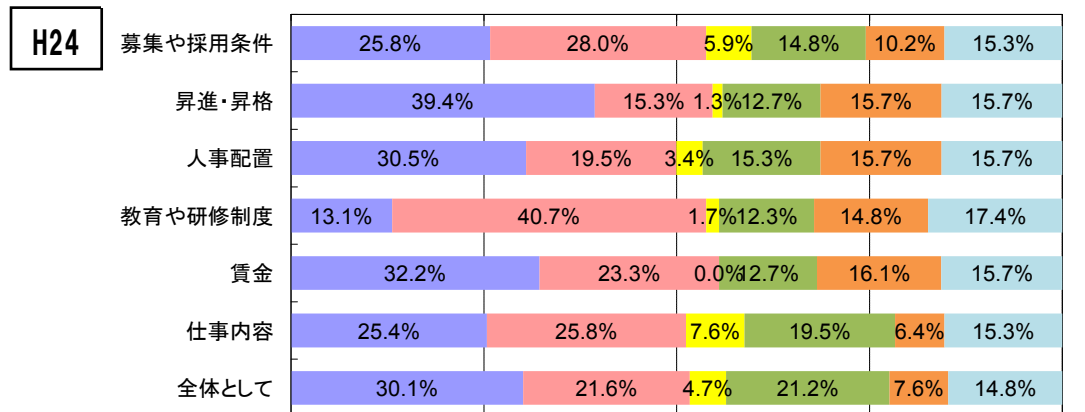
「どちらかといえば女性優遇」は、①「仕事内容」7.5%、②「募集や採用条件」3.5%、③「人事配置」、「全体として」ともに 3.1%の順であり、「昇進・昇格」は0%だった。

「平等である」は、①「教育や研修制度」35.7%、②「仕事内容」34.4%、③「募集や採用条件」30.8%の順であり、「教育や研修制度」以外の項目すべてで、前回は上回った。



■ どちらかといえば男性優遇 ■ 平等である ■ どちらかといえば女性優遇
 ■ どちらともいえない ■ 分からない・その他 ■ 無回答

(n=227)



■ どちらかといえば男性優遇 ■ 平等である ■ どちらかといえば女性優遇
 ■ どちらともいえない ■ 分からない・その他 ■ 無回答

(n=236)

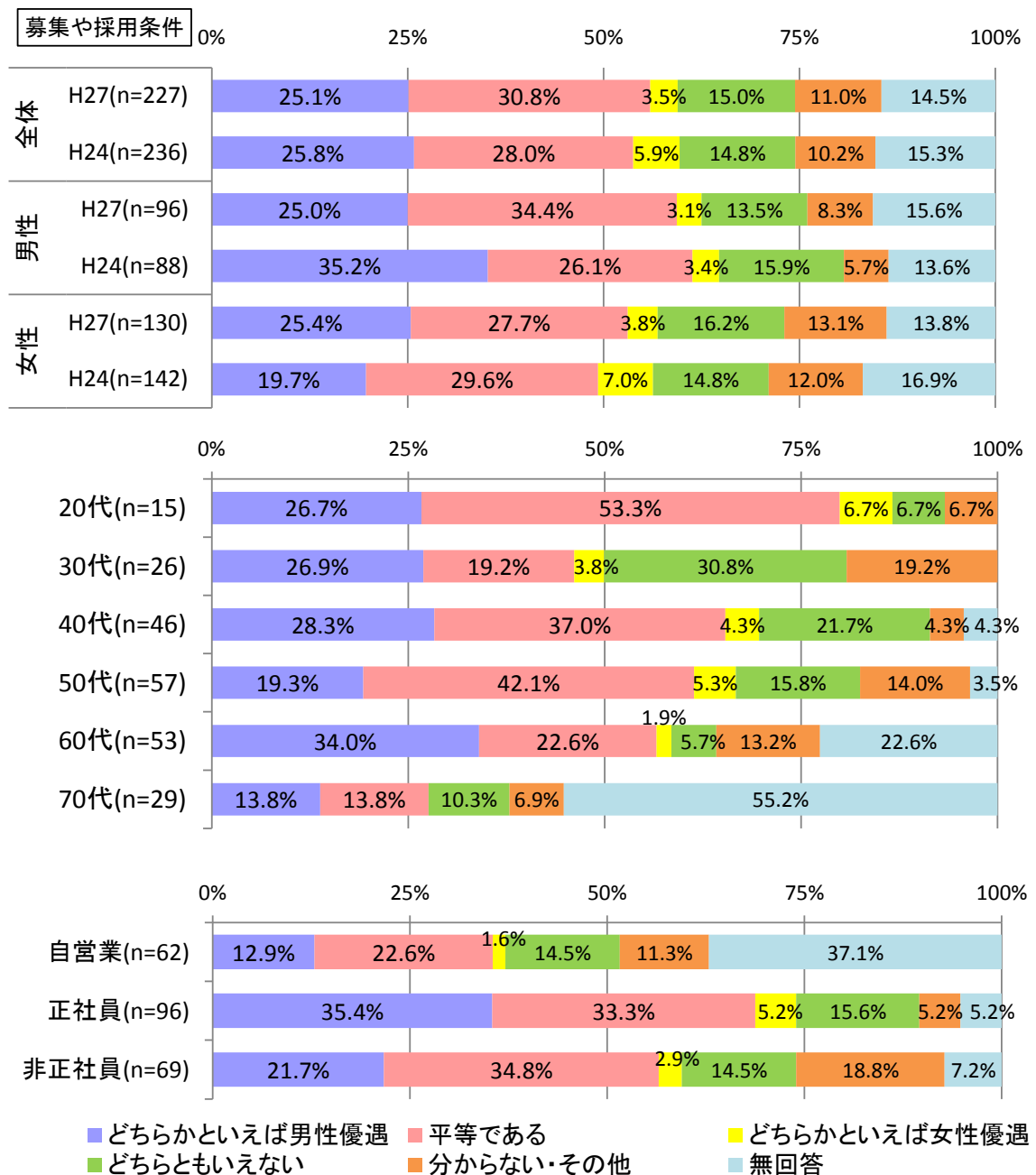
2. 分野別

(1) 募集や採用条件

男女別 「平等である」は男性 34.4%に対し、女性 27.7%と男性の方が 6.7 ポイント上回っている。前回と比較すると、「どちらかといえば男性優遇」は、男性では 10.2 ポイント減少している一方、女性では 5.7 ポイント増加しており、男女間で意識の差が見られる。

年代別 「平等である」は、20 代が 53.3%と一番多い。

就業別 「どちらかといえば男性優遇」が一番少ないのは自営業で 12.9%。「平等である」が 30%以上なのは正社員と非正社員で、自営業は 22.6%だった。

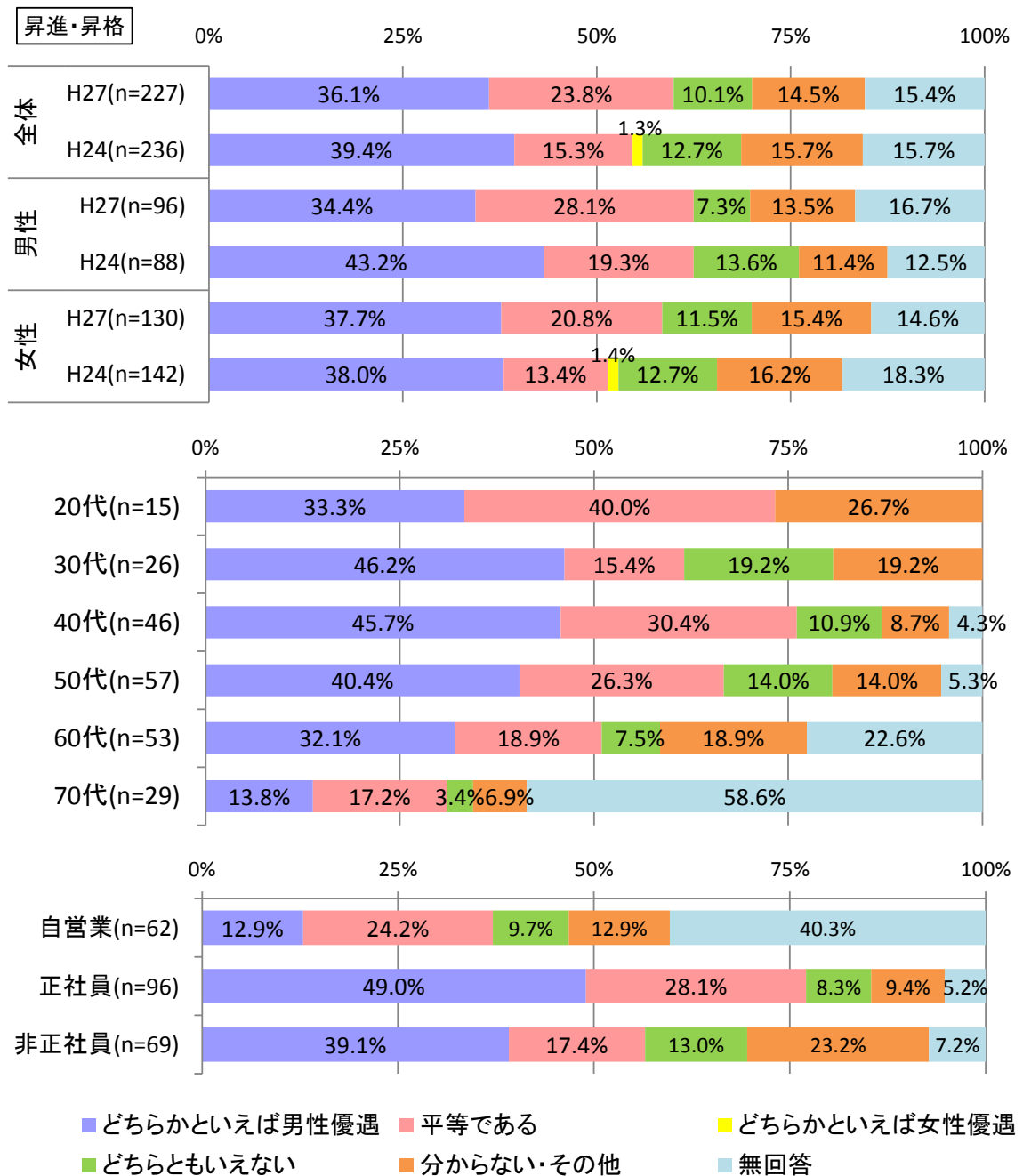


(2) 昇進・昇格

男女別 男女ともに、「どちらかといえば男性優遇」が減少し、「平等である」が増加した。また、「どちらかといえば女性優遇」と答えた人はいなかった。

年代別 20 代が 40.0%と各年代の中で、「平等である」と考えている人が最も多い。30 代から 60 代では、「どちらかといえば男性優遇」が、「平等である」を上回っている。

就業別 正社員、非正社員ともに、「どちらかといえば男性優遇」が、「平等である」を大きく上回っている。

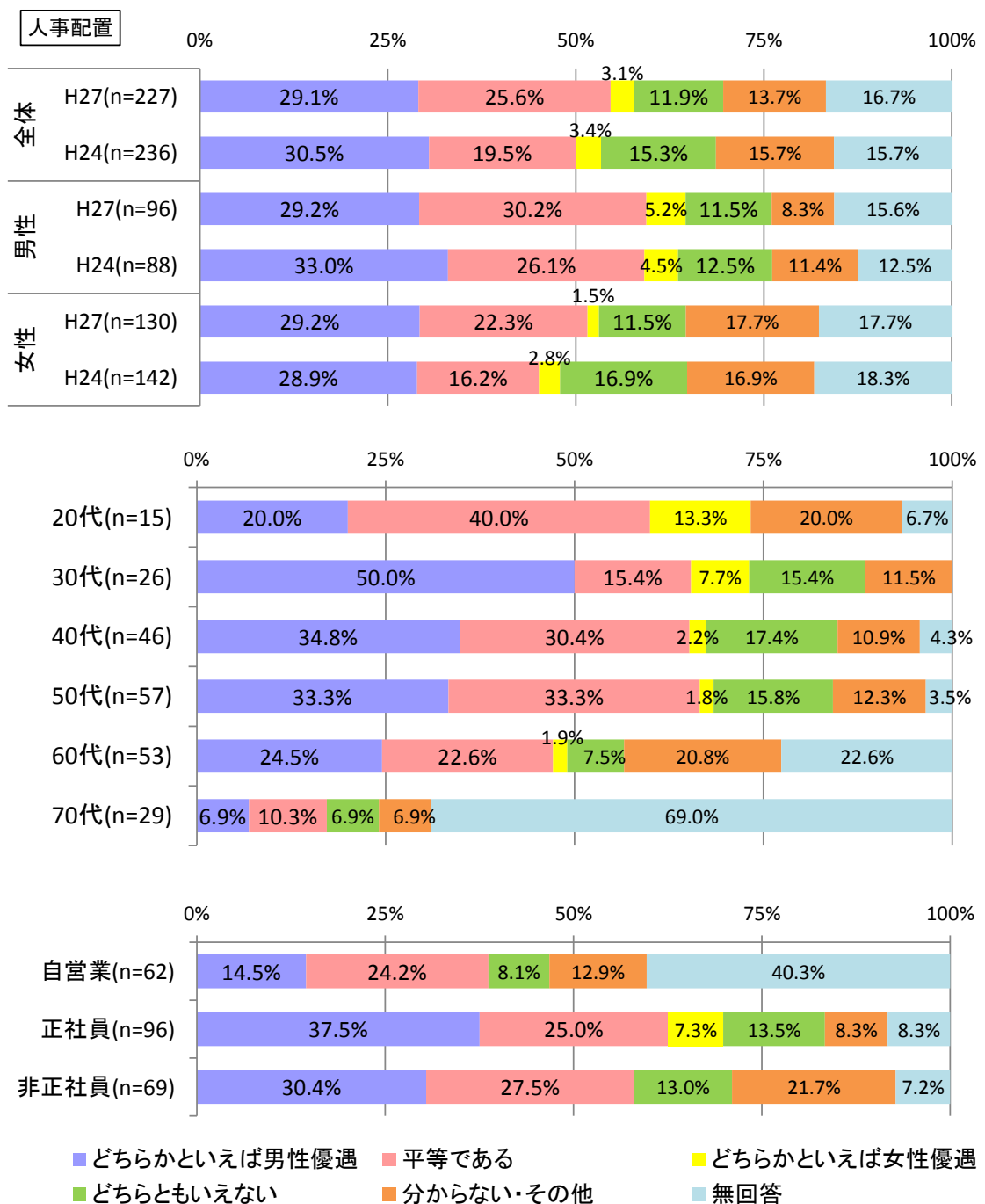


(3) 人事配置

男女別 「平等である」は前回比で男性が 4.1 ポイント、女性が 6.1 ポイント増加した。「どちらかといえば女性優遇」は、男性ではあまり変化がなかったのに対し、女性は 2.5 ポイント減少した。

年代別 全年代の中で「平等である」と考えている人が多いのは、20 代で 40.0%。30 代は、「どちらかといえば男性優遇」が 50.0%と一番多い。

就業別 正社員、非正社員ともに、「どちらかといえば男性優遇」が、「平等である」を上回っている。

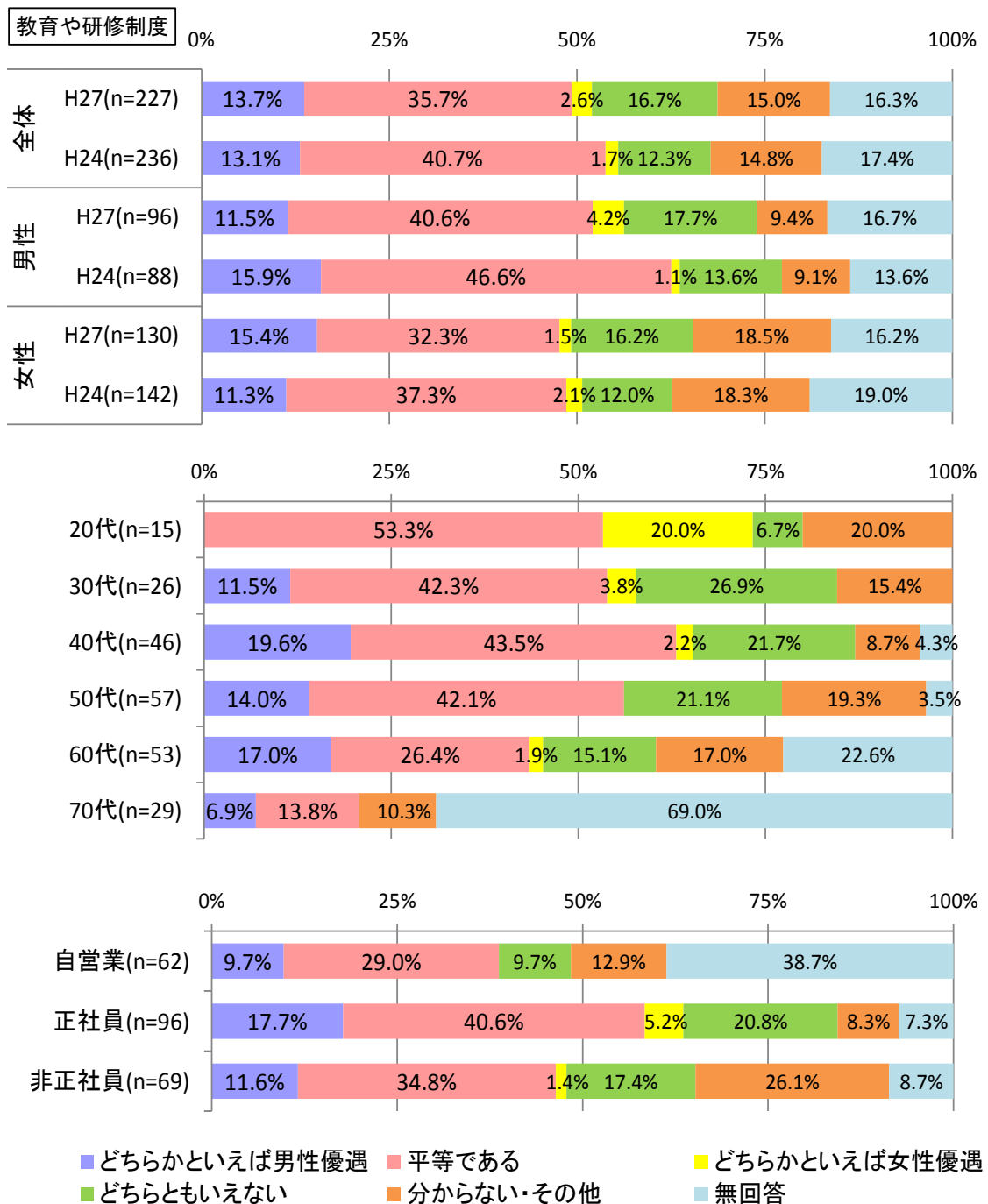


(4) 教育や研修制度

男女別 「どちらかといえば男性優遇」は、男性が 4.4 ポイント減少したのに対し、女性は 4.1 ポイント増加した。また、「平等である」は男女ともに減少し、男性は 6.0 ポイント、女性は 5.0 ポイント減少した。

年代別 20 代では、「どちらかといえば男性優遇」と答えた人はおらず、「平等である」と答えた人は 53.3%だった。

就業別 自営業、正社員、非正社員いずれも「平等である」と答えた人が多かった。

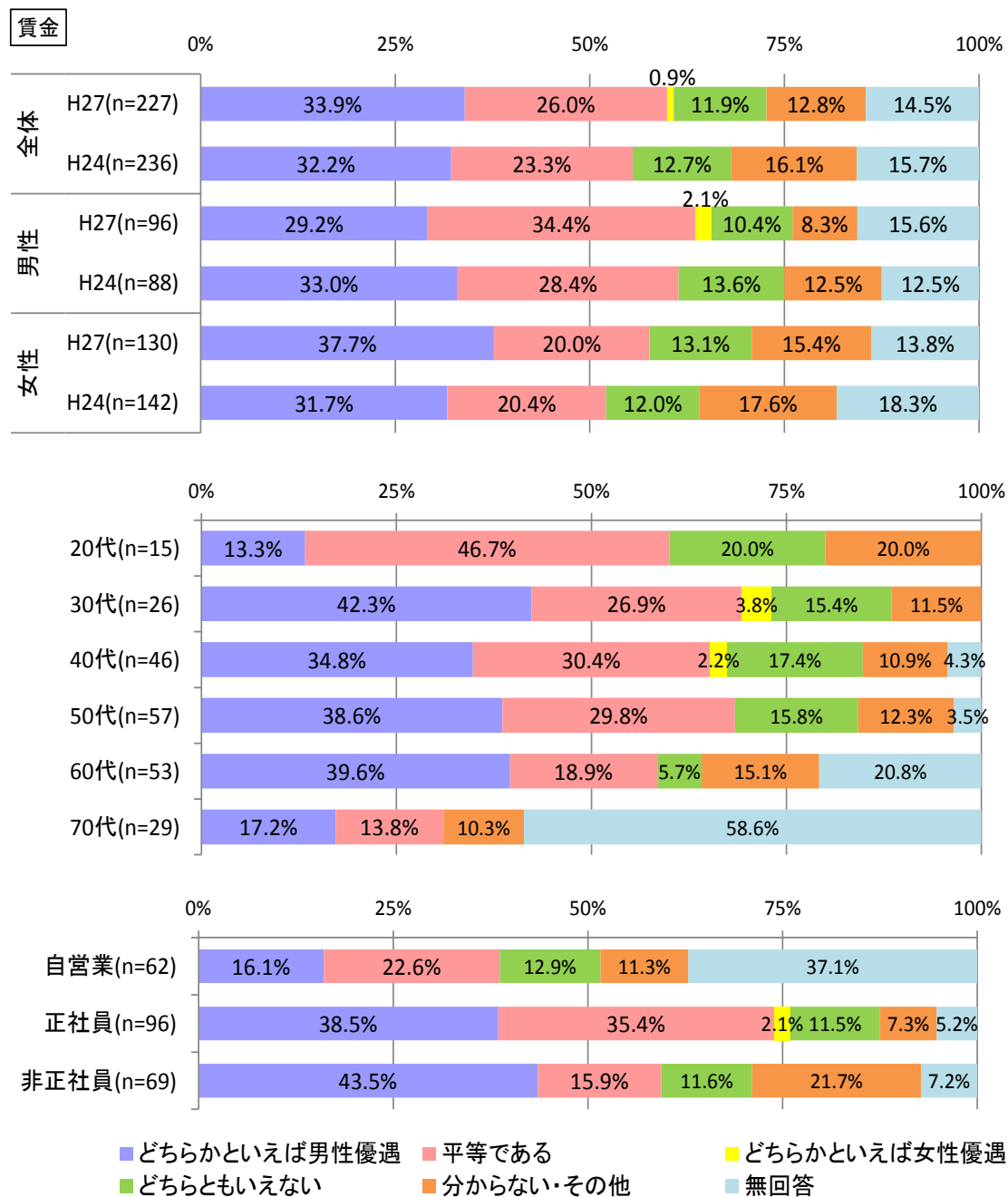


(5) 賃金

男女別 「どちらかといえば男性優遇」が、男性は 3.8 ポイント減少したのに対し、女性は 6.0 ポイント増加した。また、「平等である」は、女性は前回とあまり変化がないが、男性は増加傾向にある。

年代別 「平等である」は、20 代が 47.7%と全年代の中で最も高い。また、「どちらかといえば男性優遇」と答えているのは 30 代が 42.3%と全年代で一番多い。

就業別 非正社員は、「どちらかといえば男性優遇」が 43.5%と多く、正社員では、「平等である」とほぼ同数である。

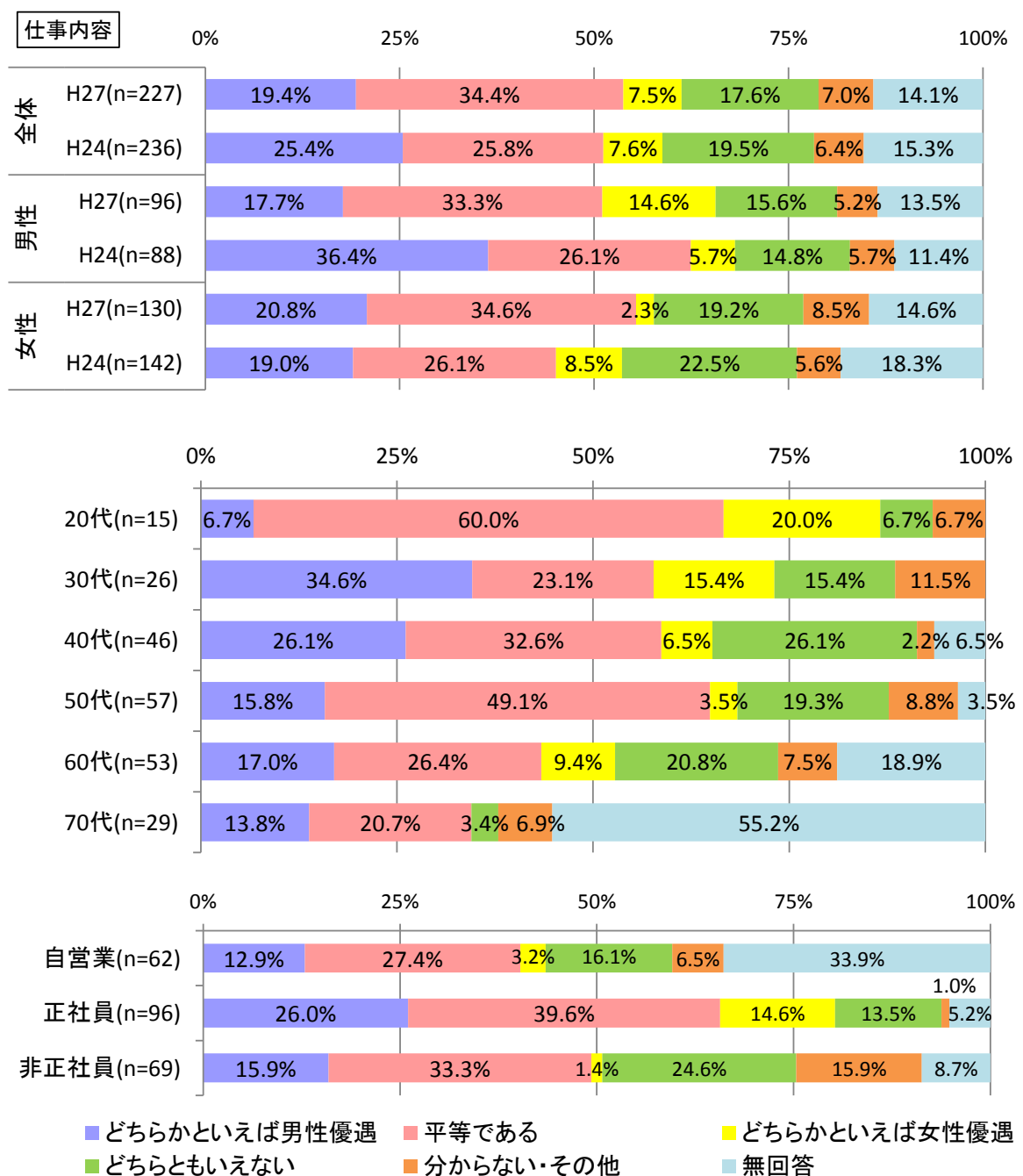


(6) 仕事内容

男女別 「どちらかといえば男性優遇」が、女性ではあまり変化は見られなかったが、男性は対前年比 18.7 ポイント減少し、ほぼ半減した。「平等である」では、男女ともに増加し、男性は 7.2 ポイント、女性は 8.5 ポイント増えた。

年代別 20 代では、「平等である」が 60.0%、「どちらかといえば女性優遇」が 20.0% で、合わせて 80.0% を占め、「どちらかといえば男性優遇」は 6.7% だった。

就業別 自営業、正社員、非正社員のいずれも「平等である」の割合が高かった。

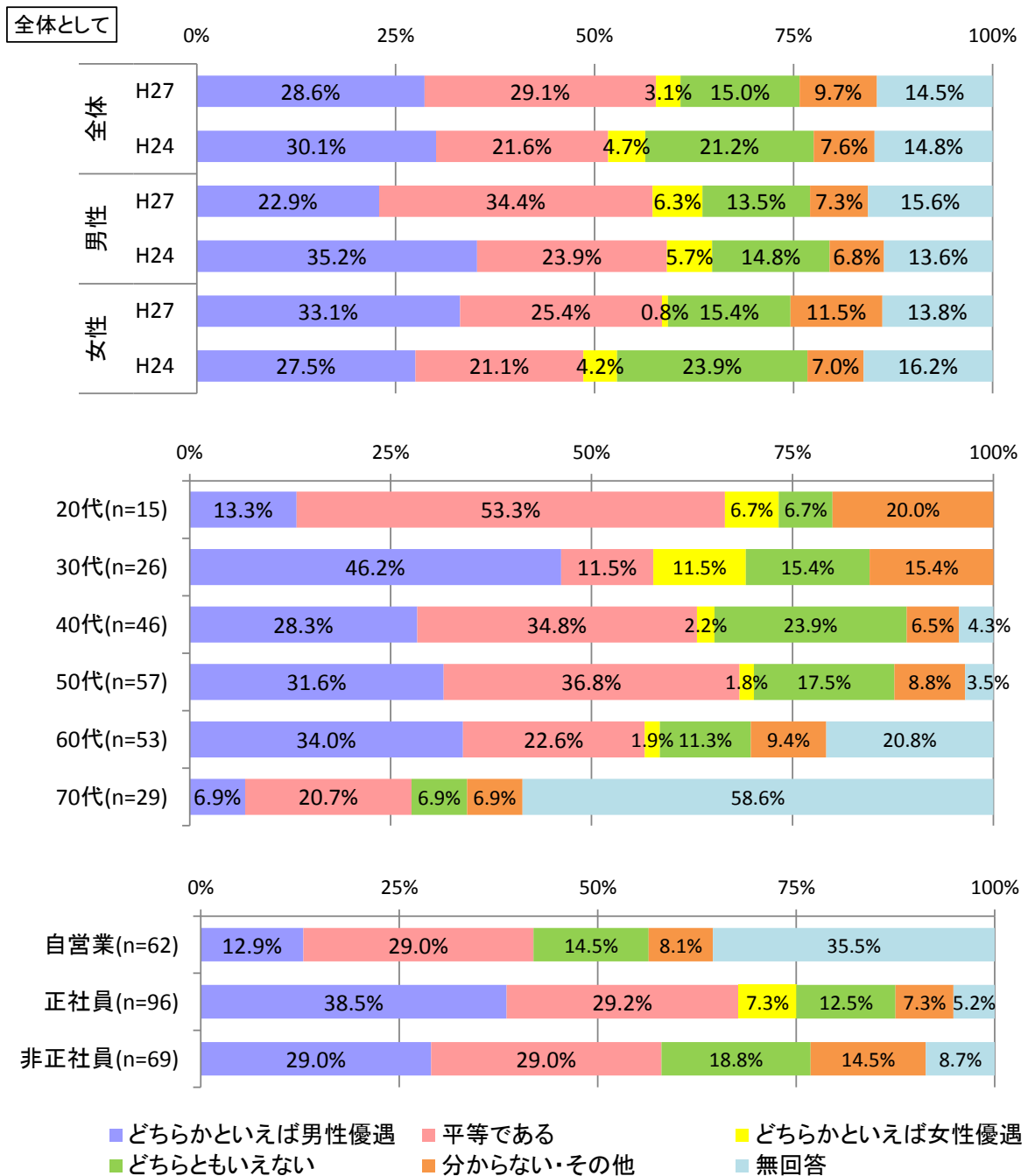


(7) 「全体」として

男女別 「どちらかといえば男性優遇」は男性が 12.3 ポイント減少したのに対し、女性は 5.6 ポイント増加した。男女間で意識差が見られる。また、「平等である」は男女ともに増加し、男性は 10.5 ポイント、女性は 4.3 ポイント増えた。

年代別 「平等である」と答えている率は 20 代が 53.3%と過半数を超えている。

就業別 自営業、正社員、非正社員のいずれも「平等である」が 29%台と、ほぼ同数だった。「どちらかといえば女性優遇」と答えた人は、自営業、非正社員ともいなかった。



問 7

女性が管理職に就くことについて

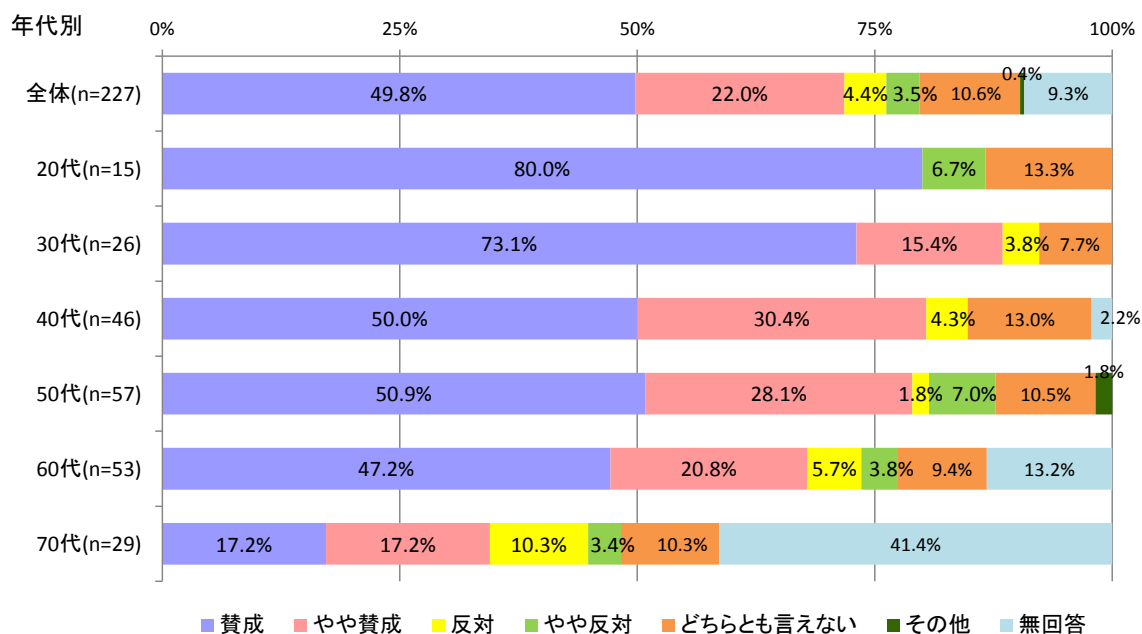
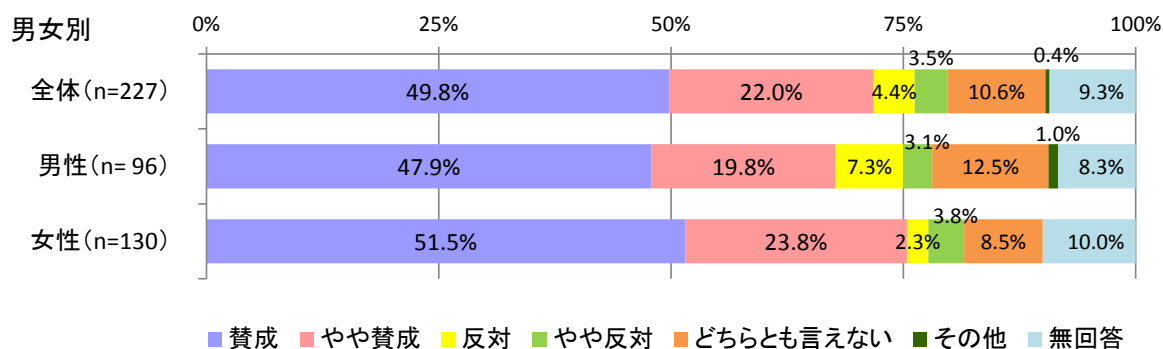
働いている方へ、男女ともにお尋ねします（現在、働いていない人は問8へ）。女性が管理職に就くことを、どう思いますか。1つ選んでください。

男女別 「賛成」、「やや賛成」を合わせると、男性は 67.7%、女性は 75.3%だった。「反対」、「やや反対」を合わせると、男性は 10.4%、女性は 6.1%だった。

女性より男性の方が、女性が管理職に就くことに対して、抵抗を感じる人が多い傾向が見られる。

年代別 20 代では、「賛成」と答えた人が 80.0%と、全年代の中で最も多く、しかも「反対」と答えた人はいなかった。

年代が上がるごとに、「賛成」、「やや賛成」の割合が低くなっていき、70 代では「反対」、「やや反対」と答えた人が最も多かった。



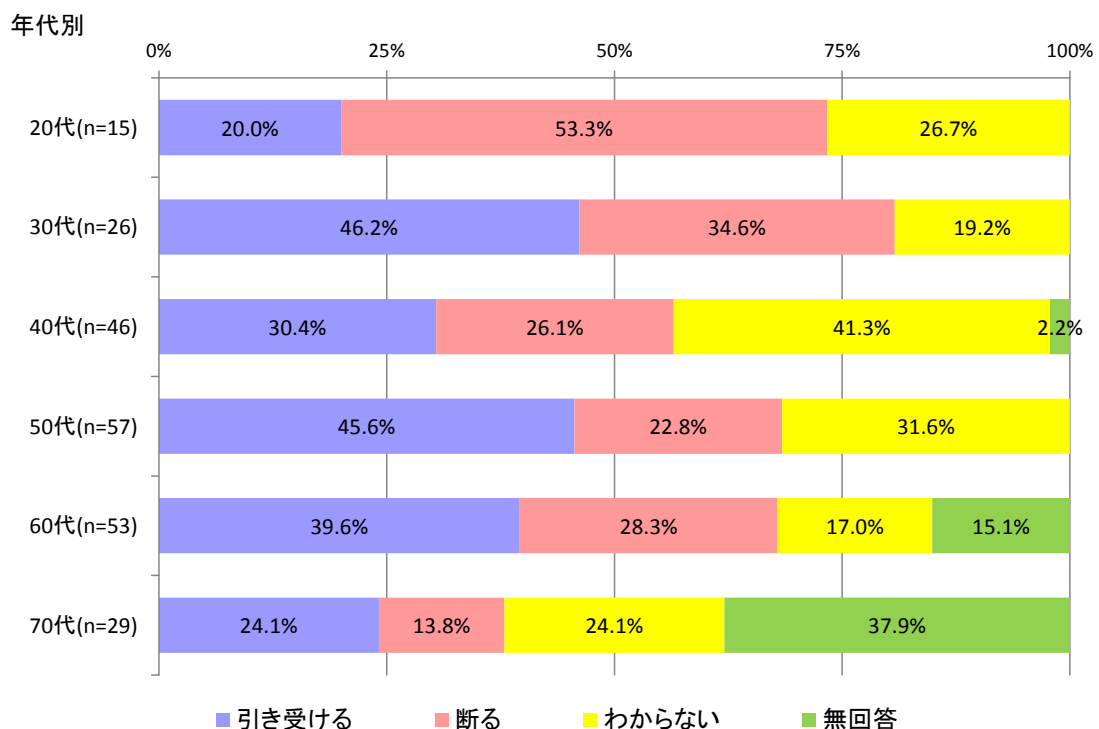
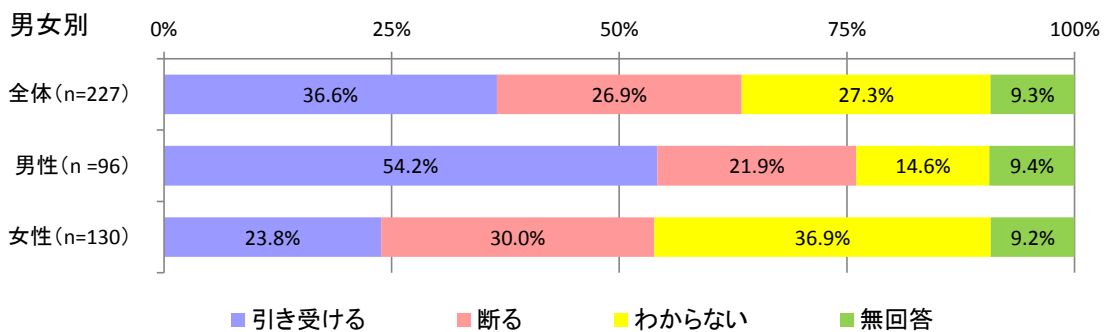
●問 7-1. あなたが管理職へ就くことについて

働いている方へ、男女ともに尋ねします（現在、働いていない人は問8へ）。あなたが管理職への昇進を打診されたらどうしますか。1つ選んでください。

男女別 男性は、「引き受ける」が54.2%で、「断る」の21.9%の2倍以上を占め、過半数以上の人が昇進することに肯定的なのに対し、女性は「断る」30.0%が、「引き受ける」の23.8%を上回った。また、「わからない」が36.9%と、男性の27.3%より22.3ポイント多かった。

年代別 20代では、「引き受ける」と答えた人が20.0%と全年代で最も少なく、「断る」と答えた人が53.3%と最も多かった。

30代になると、「引き受ける」と答えた人が46.2%と全年代で最も多い半面、「断る」と答えた人も34.6%と20代に次いで多かった。



●問 7-2. 管理職への昇進を断る理由について

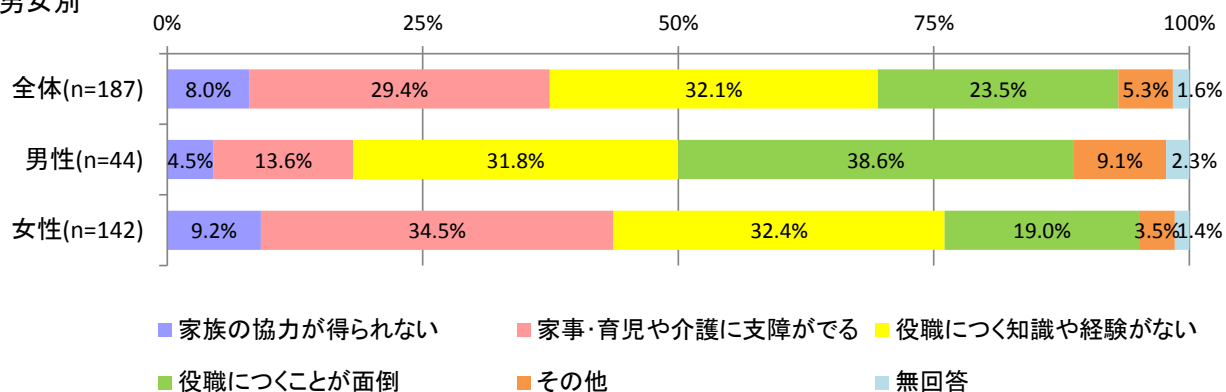
問 7-1 で「断る」、「わからない」と答えた方にお尋ねします。その理由は何ですか。

男女別 男性で最も多かった理由は、「役職につくことが面倒」で 38.6%、女性は、「家事・育児や介護に支障が出る」が 34.5%と、男女で差があった。二番目に多かった理由は男女とも同じで、「役職につく知識や経験がない」だった。

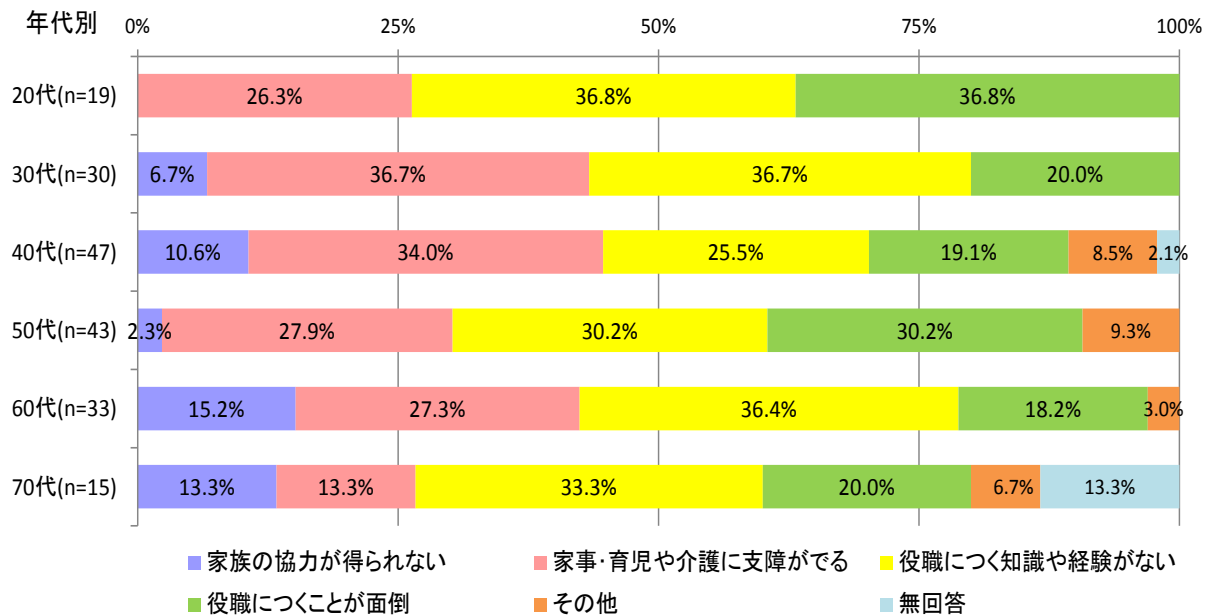
年代別 20 代で最も多かった理由は、「役職につく知識や経験がない」、「役職につくことが面倒」で、どちらも 36.7%だった。「家族の協力が得られない」と答えた人はいなかった。

30 代では、「家事・育児や介護に支障が出る」、「役職につく知識や経験がない」で、どちらも 36.7%だった。

男女別



年代別



●地域における男女平等について

●問 8. 地域活動について

地域活動についてお尋ねします。あなたが現在、参加している活動は何ですか(複数回答可)。
また、男性あるいは女性に参加してほしい活動についても、それぞれ3つ選んでください。

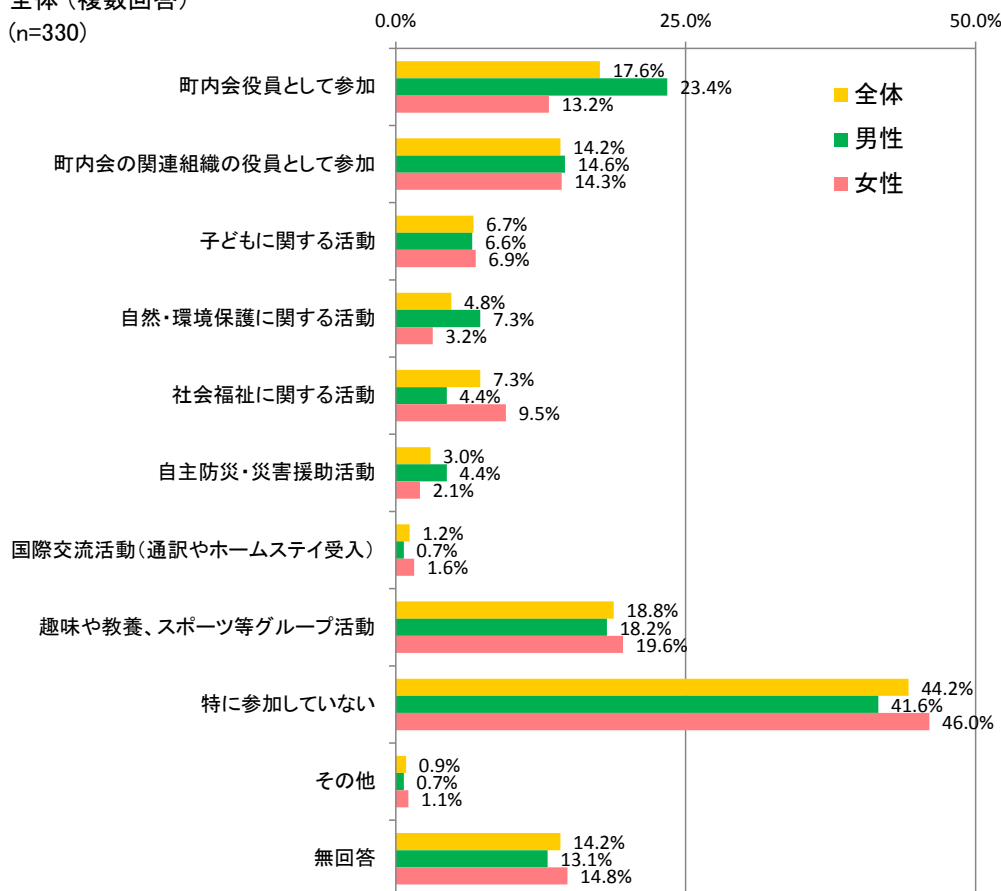
1. 全体

ほぼ半数近くの人が、地域の活動には特に参加していない。「現在、参加している」活動のトップ3は、①「趣味や教養、スポーツ等グループ活動」18.8%、②「町内会役員として参加」17.6%、③「町内会の関連組織の役員として参加」14.2%となっている。

2. 男女別

男女間で「現在活躍している」活動で差が大きいのは、「町内会役員として参加」で、男性が23.4%なのに対し、女性は13.2%で、男性が10.2ポイント多い。また、「社会福祉に関する活動」では、女性の方が多く、男性4.4%に対し女性は9.5%と、女性が5.1ポイント多い。

全体(複数回答)
(n=330)



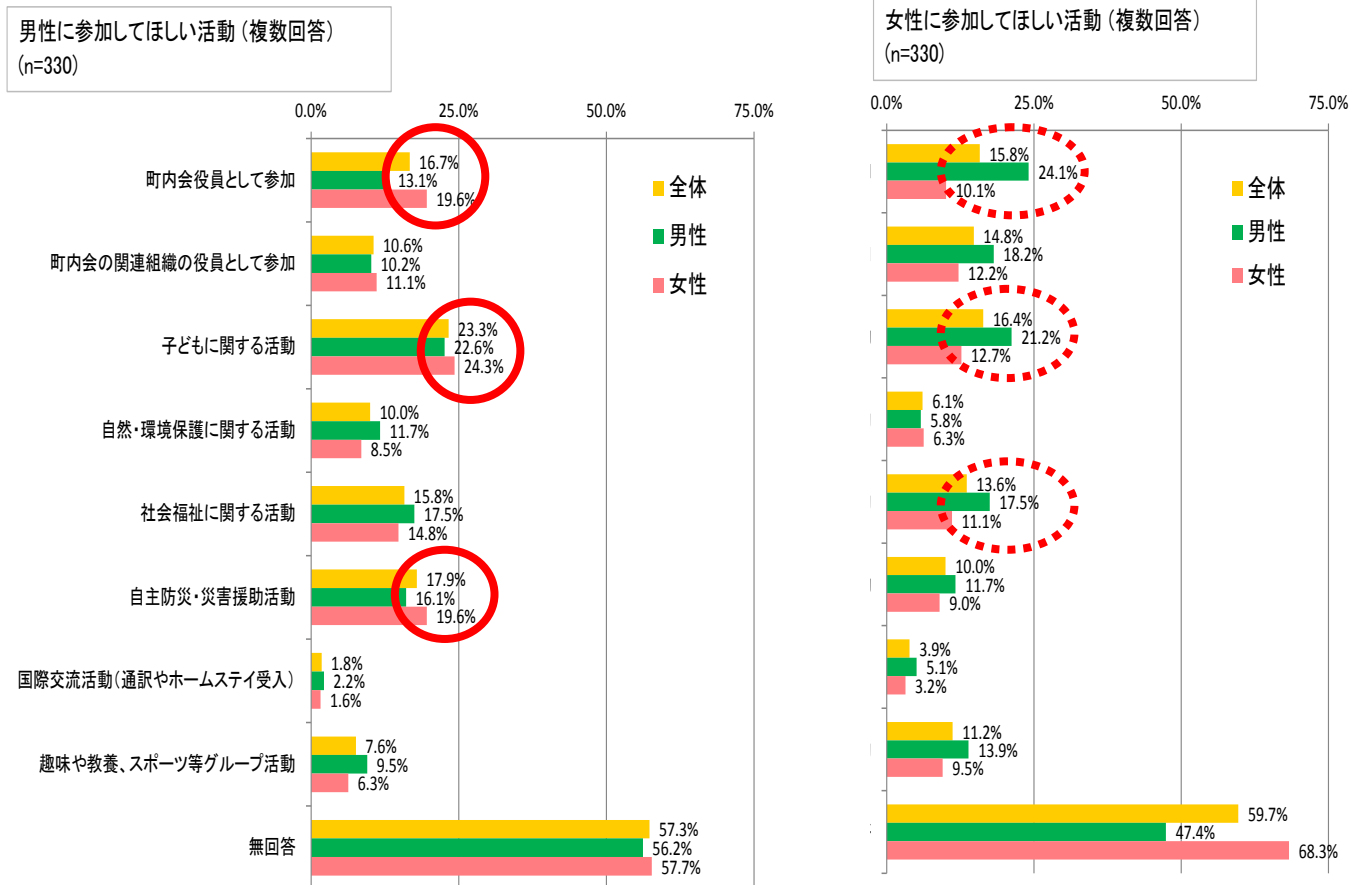
3. 男性あるいは女性に参加してほしい活動

(1) 男性に参加してほしい活動

トップ3は、①「子どもに関する活動」、②「自主防災・災害援助活動」、③「町内役員として参加」だった。男女間で差があったのは、「町内役員として参加」で、男性より女性の方が 6.5 ポイント多かった。

(2) 女性に参加してほしい活動

トップ3は、①「子どもに関する活動」、②「町内役員として参加」、③「社会福祉に関する活動」だった。いずれも男女間で差があり、これらの活動に、女性に参加してほしいという男性が多く、「子どもに関する活動」では 8.5 ポイント、「町内役員として参加」では 14.0 ポイント、「社会福祉に関する活動」では 6.4 ポイント、女性より男性の方が多かった。

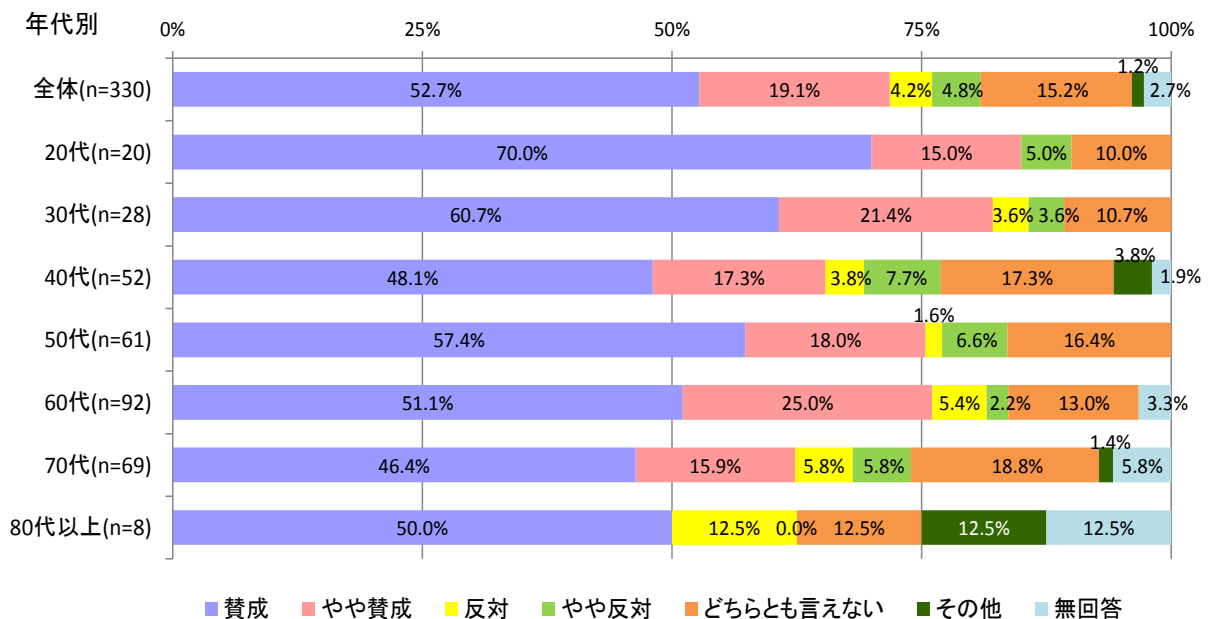
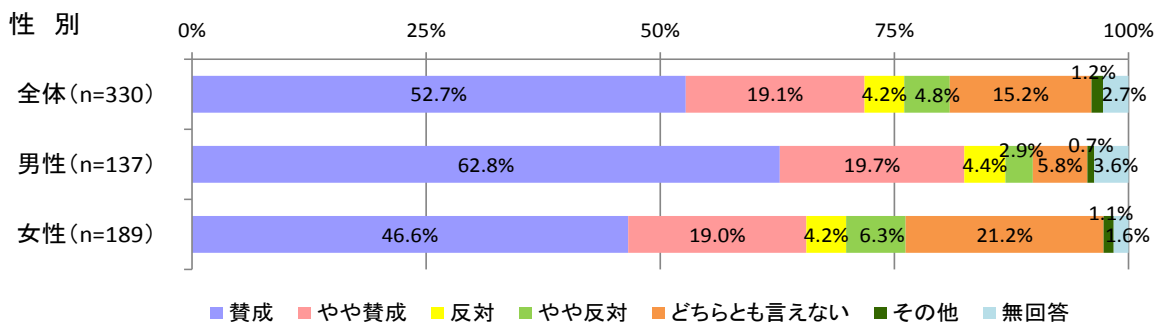


●問 9. 女性が区長やPTA会長などの役職に就くことについて

男女ともにお尋ねします。女性が、区長やPTA会長などの役職に就くことを、どう思いますか。
1つ選んでください。

男女別 「賛成」、「やや賛成」を合わせると、男性は 82.5%、女性は 65.6%だった。「反対」、「やや反対」を合わせると、男性は 7.3%、女性は 10.5%だった。

年代別 20 代では、「賛成」と答えた人が 77.0%と、全年代の中で最も多く、「反対」と答えた人はいなかった。30 代、40 代と年代が上がるごとに、「賛成」、「やや賛成」の割合が低くなっていくが、50 代、60 代は「賛成」、「やや賛成」の割合が再び高くなり、「反対」、「やや反対」がいずれも 10.0%未満となっている。



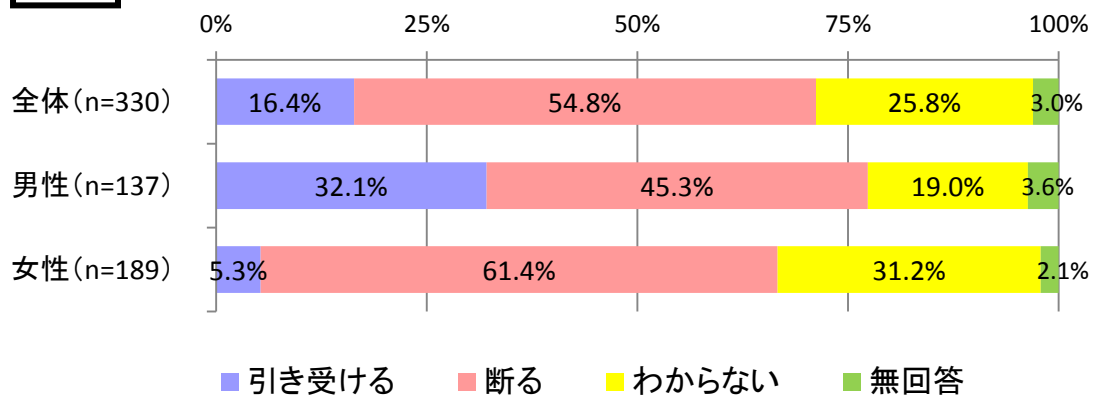
●問 9-1. あなたが区長やPTA会長などの役職に就くことについて

あなたが区長やPTA会長などの役職に推薦されたら引き受けますか？

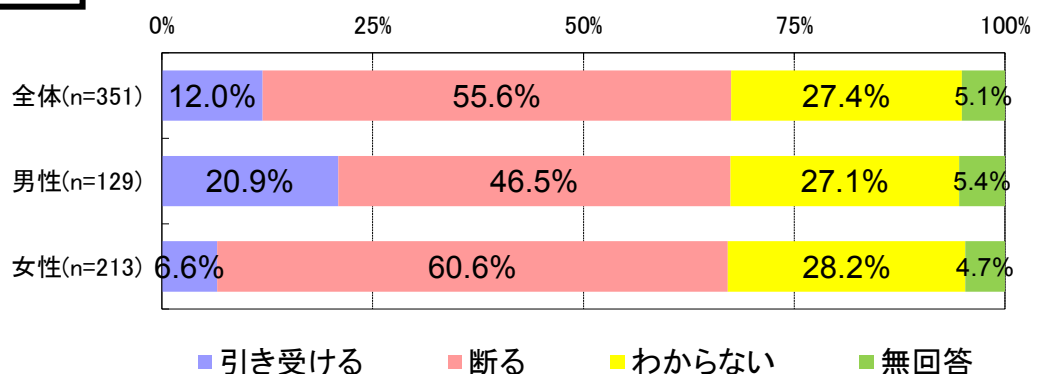
男女別 「引き受ける」と答えた人は、男性 32.1%に対し、女性は 5.3%で、26.8 ポイントの差があった。

「断る」と答えた人は、男性 45.3%に対し、女性 61.4%と、女性の方が 16.1 ポイント多かった。

H27



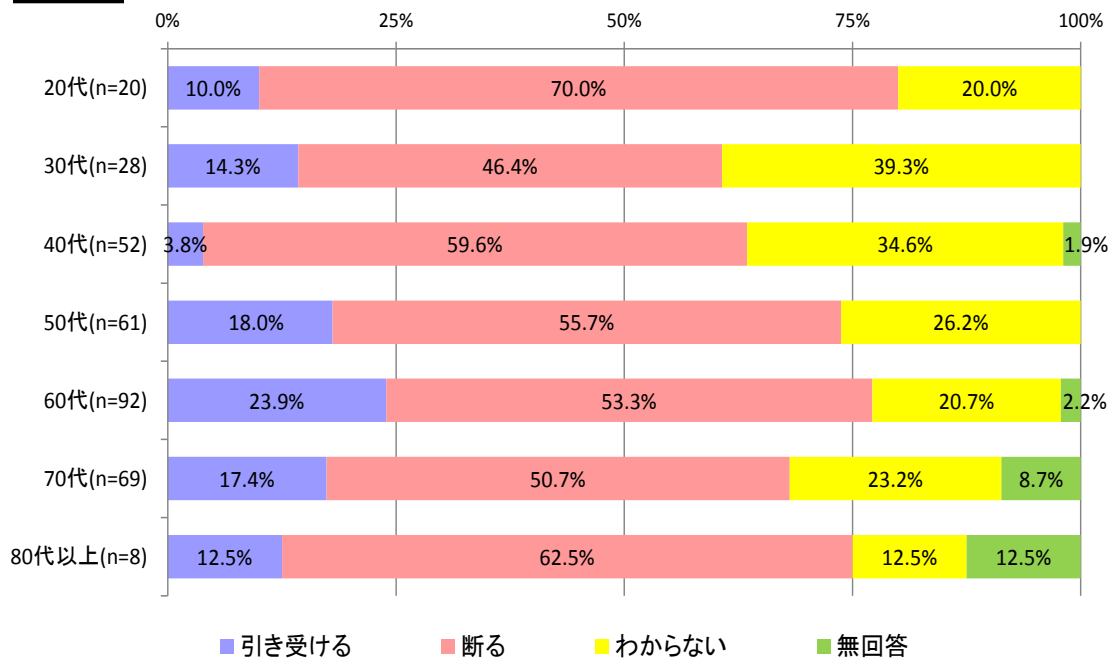
H24



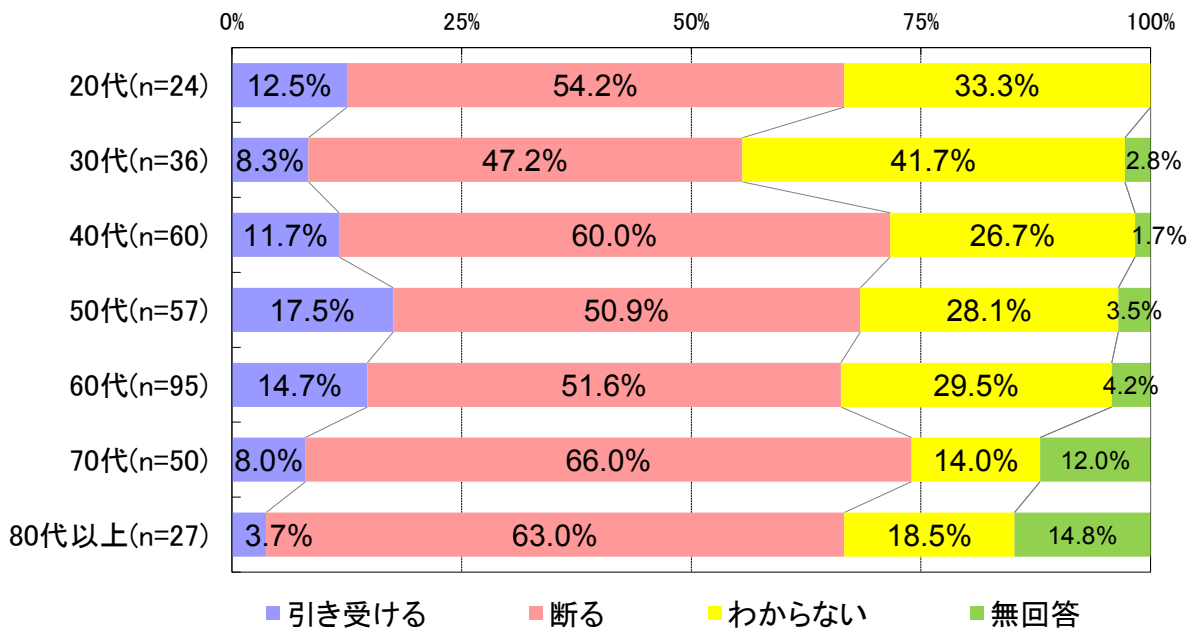
年代別 「引き受ける」と答えた人が多い年代のトップ3は、①60代 23.9%、②50代 18.0%、③70代 17.4%の順だった。最も少なかったのは、40代 3.8%だった。

「断る」と答えた人が多い年代のトップ3は、①20代 70.0%、②80代以上 62.5%、③40代 59.6%だった。80代以上は、「断る」理由に年齢や健康上の問題を挙げる人が多かった。

H27



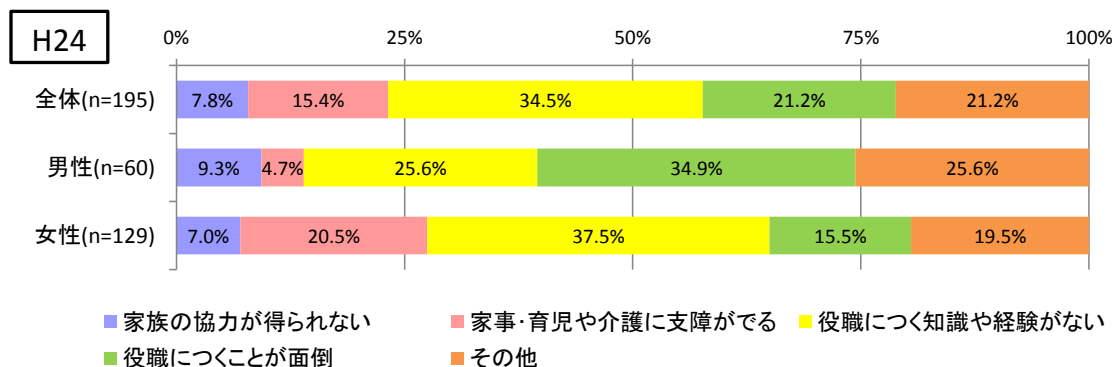
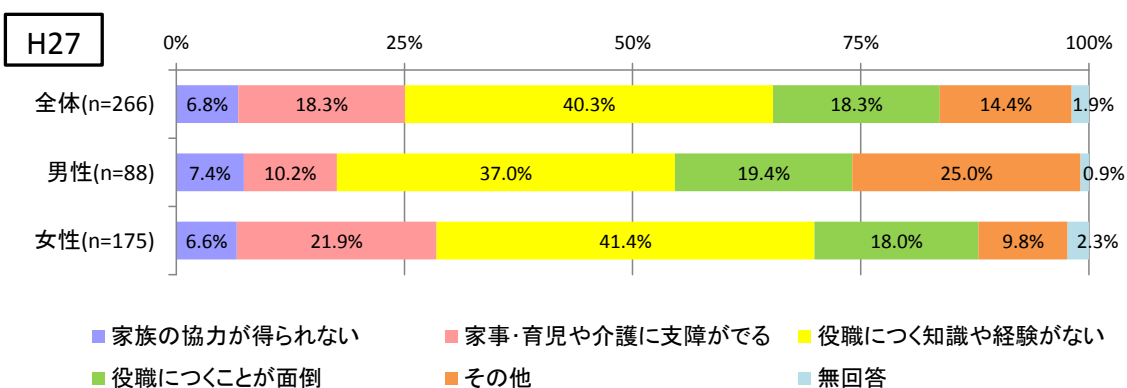
H24



●問 9-2. 区長やPTA会長などの役職への推薦を断る理由について

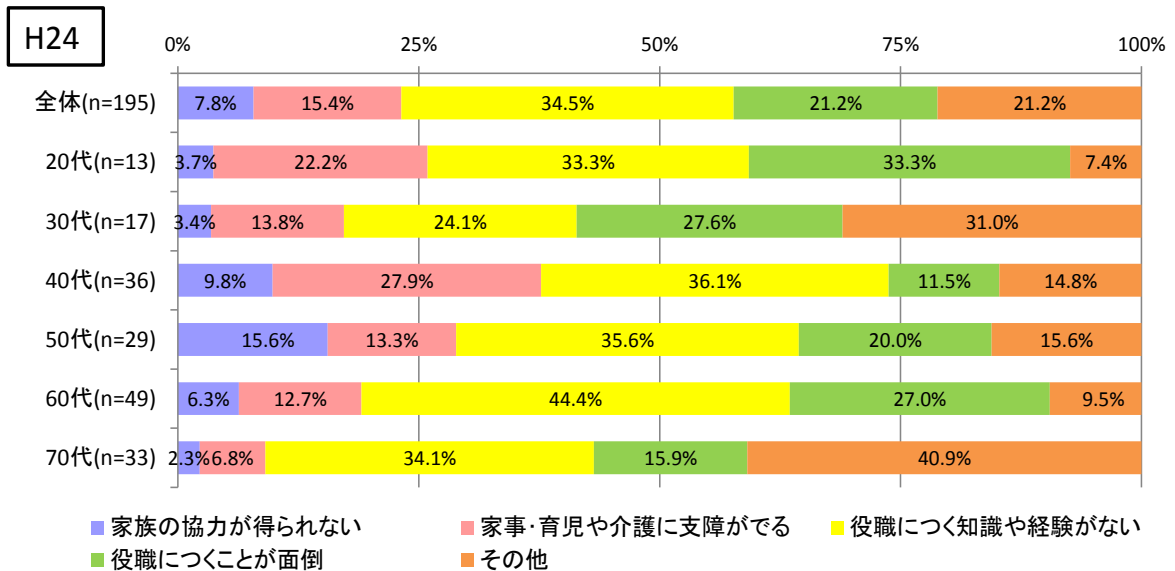
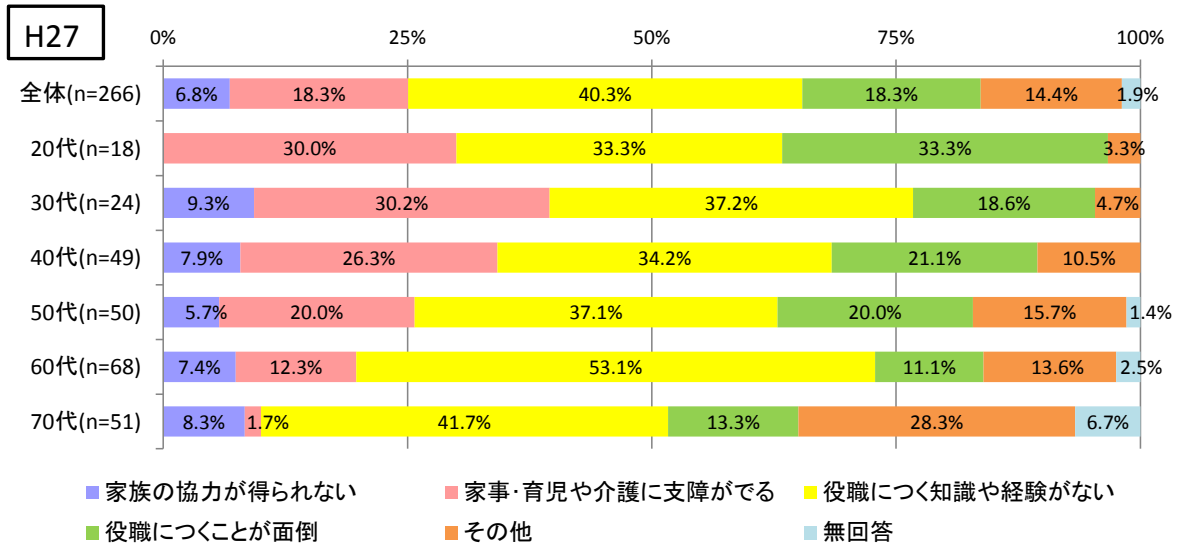
問9-1 で「断る」、「わからない」と答えた方にお尋ねします。その理由は何ですか。

男女別 断る理由トップ3は、男性が ①「役職につく知識や経験がない」37.0%、②「役職につくことが面倒」19.4%、③「家事・育児や介護に支障が出る」10.2%だった。
女性では、①「役職につく知識や経験がない」41.4%、②「家事・育児や介護に支障がでる」21.9%、③「役職につくことが面倒」18.0%の順だった。



年代別 20代は、「家事・育児や介護に支障が出る」、「役職につく知識や経験がない」、「役職につくことが面倒」が、ほぼ同じくらいの割合を占め、「家族の協力が得られない」と答えた人はいなかった。

30代～60代のトップ3は、①「役職につく知識や経験がない」、②「家事・育児や介護に支障が出る」、③「役職につくことが面倒」だった。



●女性の人権について

●問 10. DVを経験、または身近で見聞きしたか

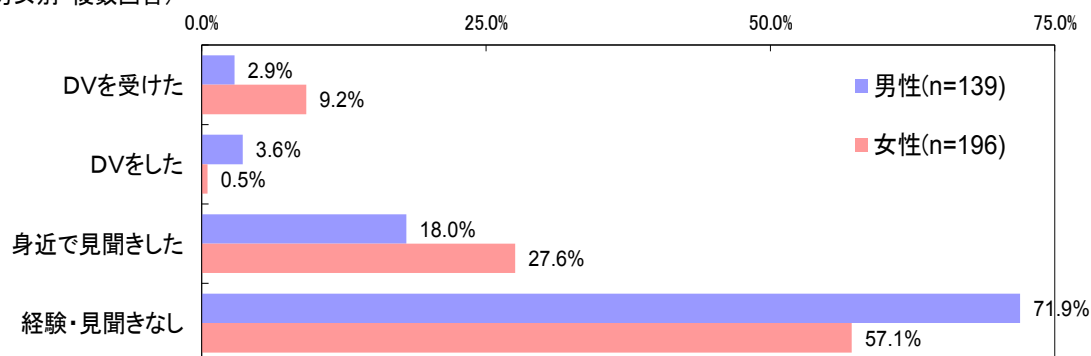
DV(ドメスティック・バイオレンスの略。配偶者や恋人などから身体的、性的な暴力を受けたり、言葉の暴力によって精神的苦痛を感じたりすること)は、人権を侵害する重要な問題です。このようなDVを、経験、または身近で見聞きしたことがありますか。当てはまるものをすべて選んでください。

1. 男女別 男性よりも女性の方が、「DVを受けた」、「身近で見聞きした」と答えた人が多い。

前回調査と比較すると、男性で「DVを受けた」と答えた人が増えた。その他はあまり変化がなかったのに対し、女性では「DVを受けた」、「DVをした」、「身近で見聞きした」と答えた人が増え、「経験したことも身近で見聞きしたこともない」と答えた人は 13.8 ポイント減った。

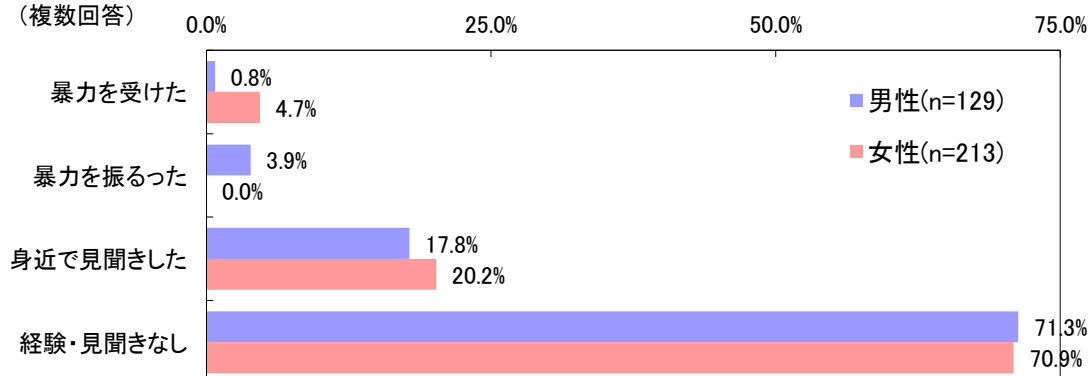
H27

(男女別・複数回答)



H24

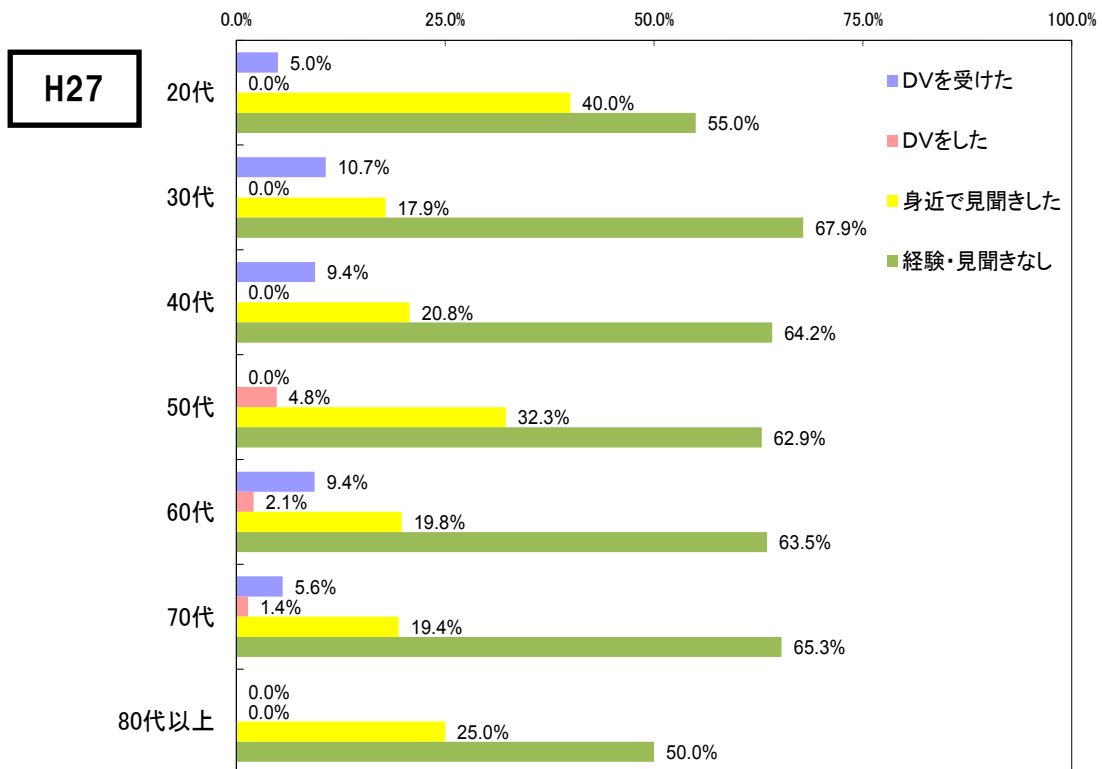
(複数回答)



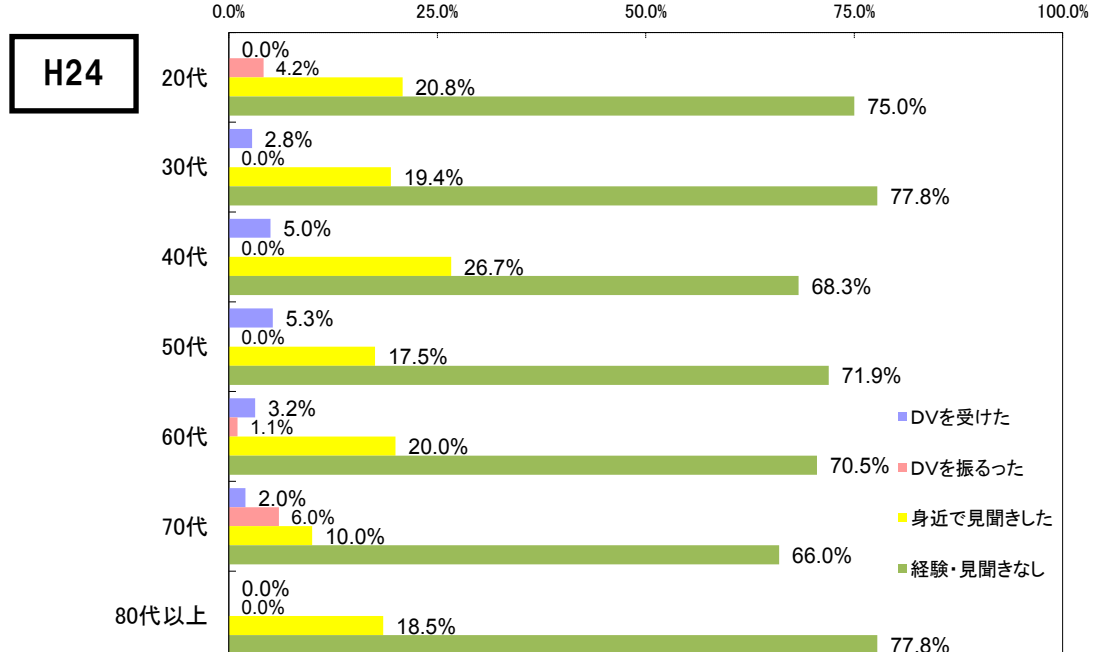
2. 年代別 「DVを受けた」と答えた人は30代が10.7%と一番多く、次いで40代と60代がともに9.4%だった。「身近で見聞きした」と答えた人は、20代が40.0%と最も多かった。

前回と比較すると、「DVを経験したことも、身近で見聞きしたこともない」と答えた人の割合は、全年代で減少した。

(年代別・複数回答)



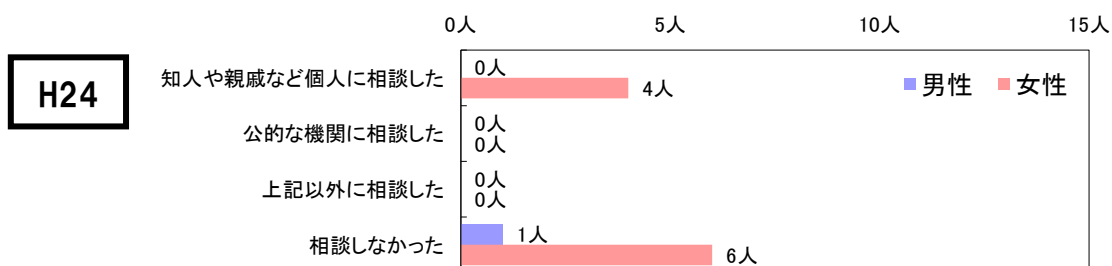
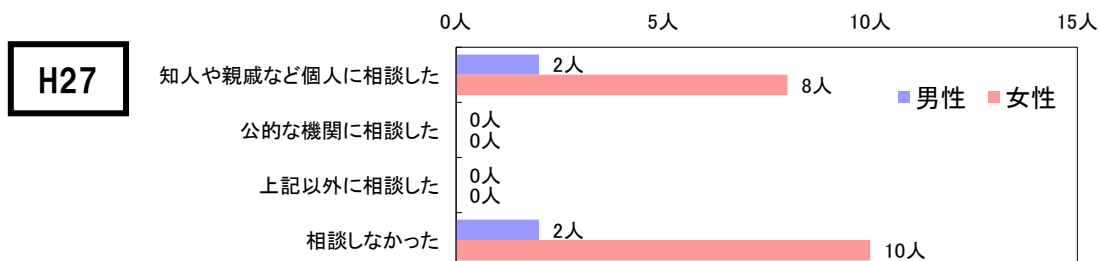
(複数回答)



●問 11. DVの相談先

「DVを受けたことがある」と答えた方にお尋ねします。DVを受けた時、誰かに相談しましたか。

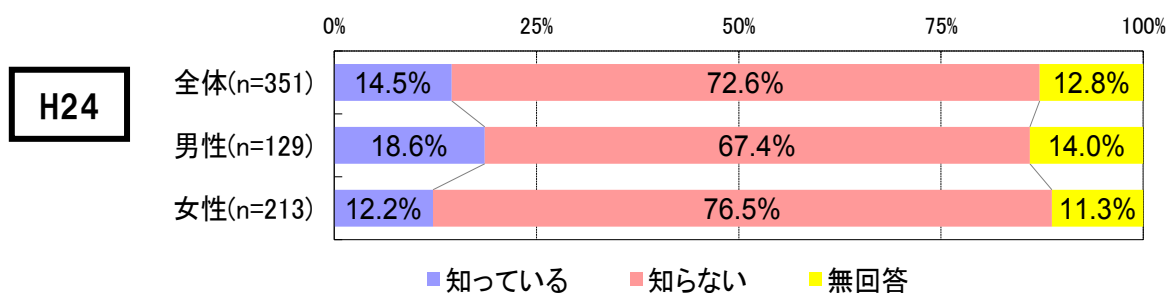
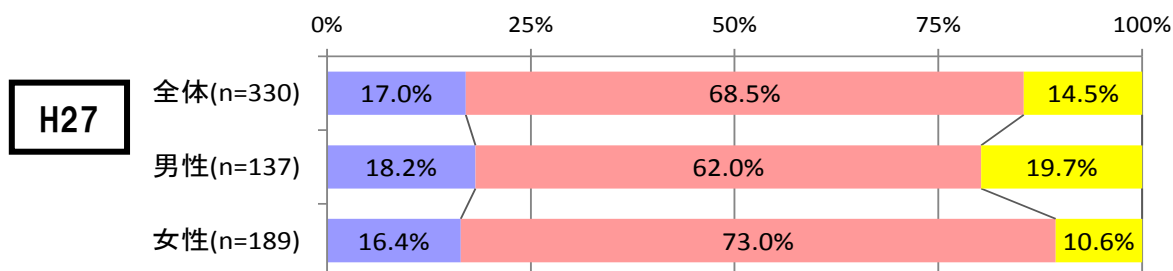
「DVを受けた」と答えた 22 人のうち、知人や親戚などの個人に相談した人は 10 人だった。



●問 12. DVの相談先を知っているか

DVの被害について、あなたはどこに相談すればいいか知っていますか。

前回調査に比べ、女性で「知っている」と答えた人は 4.2 ポイント増えた。

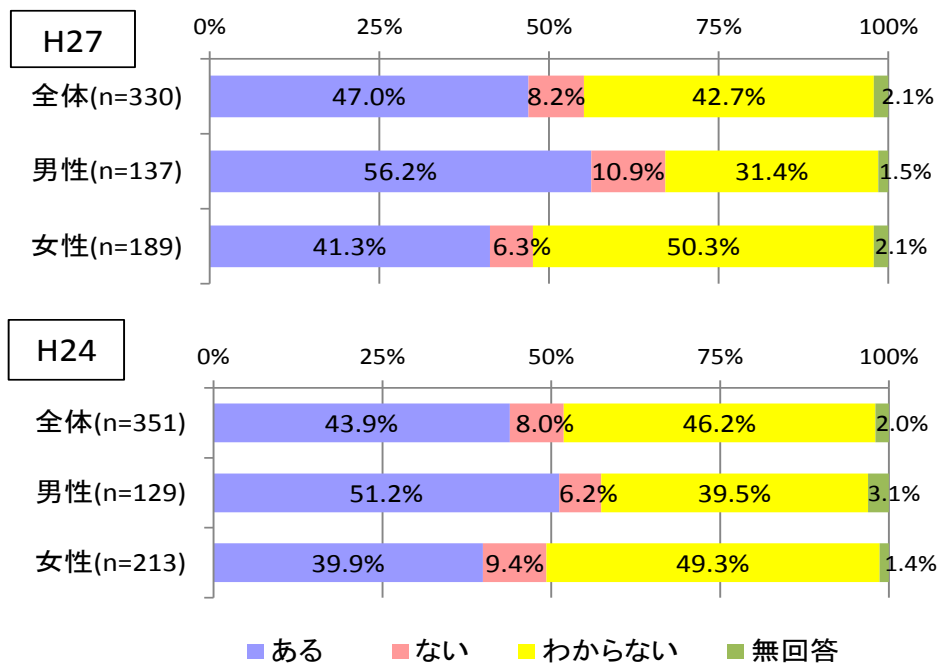


● 自主防災・災害援助活動について

● 問 13. 自主防災組織の有無を知っているか

あなたの地域に「自主防災組織」がありますか。

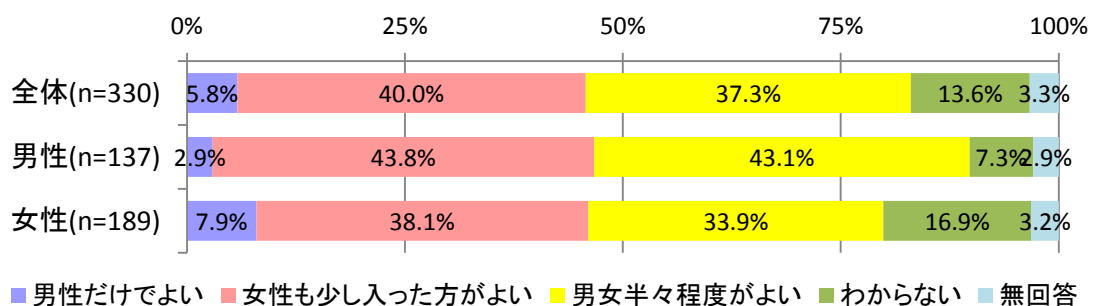
前回よりも、男女ともに「わからない」と答えた人が減少し、「ある」と答えた人が増加した。
男女間の差を見ると、「ある」と答えた男性は、女性に比べて 14.9 ポイント多い。



● 問 14. 自主防災組織の男女の比率について

自主防災組織の男女比はどのくらいが適当ですか。あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

男女とも多かった順は、①「女性も少し入った方がよい」、②「男女半々程度がよい」、
③「わからない」の順となっており、「男性だけでよい」と答えた人の割合は低かった。



●男女共同参画社会について

●問 15. 「男女共同参画」、「ワーク・ライフ・バランス」の認知度

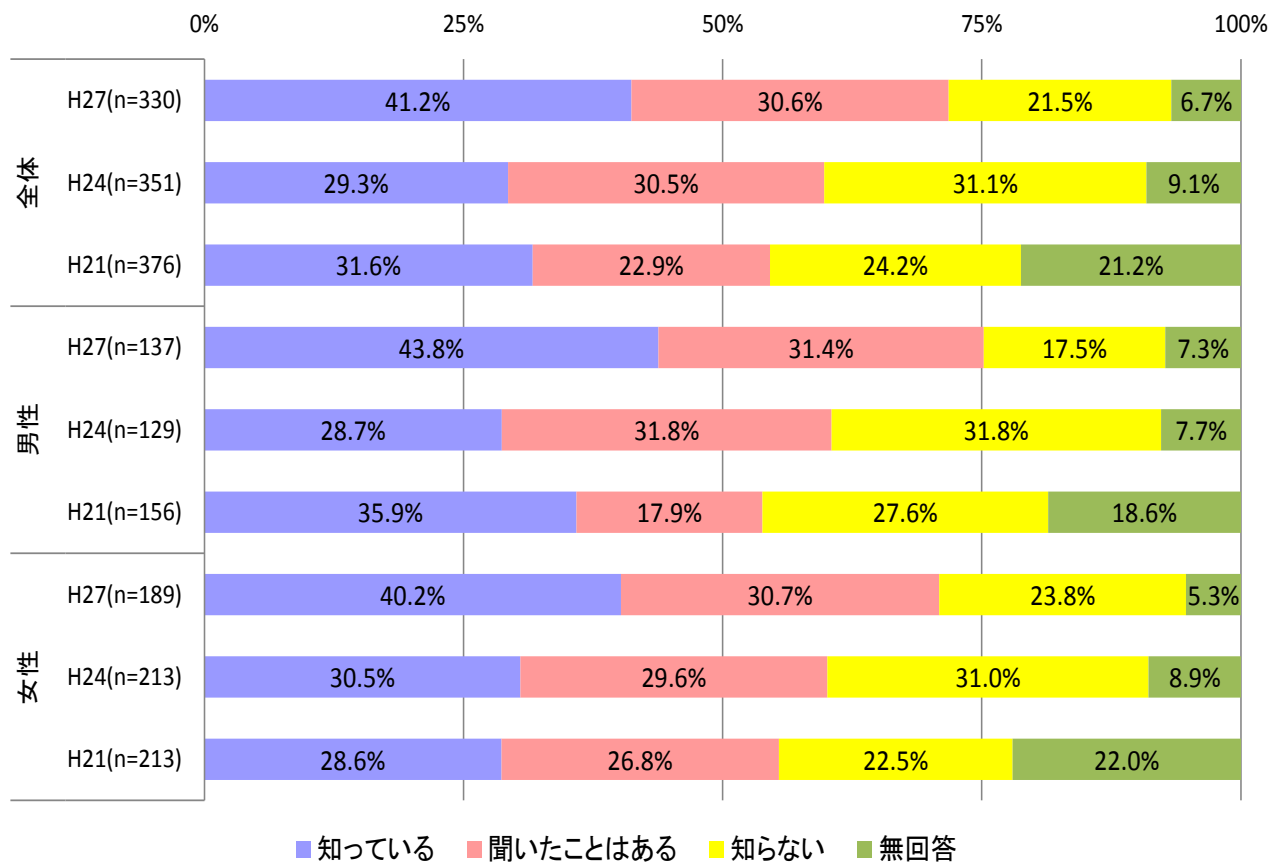
「男女共同参画」、「ワーク・ライフ・バランス(家庭と仕事の調和)」の言葉の意味を知っていますか。
2つの言葉について、当てはまるものを、それぞれ1つ選んでください。

1. 男女共同参画の意味

(1)男女別

男女とも、認知度は上がった。「知っている」と答えた人の割合が4割以上と最も高く、「聞いたことがある」、「知らない」を上回った。

H21調査からの経年変化を見ると、「知っている」と答えた人が、全体では31.6%から41.2%と9.6ポイント増えた。

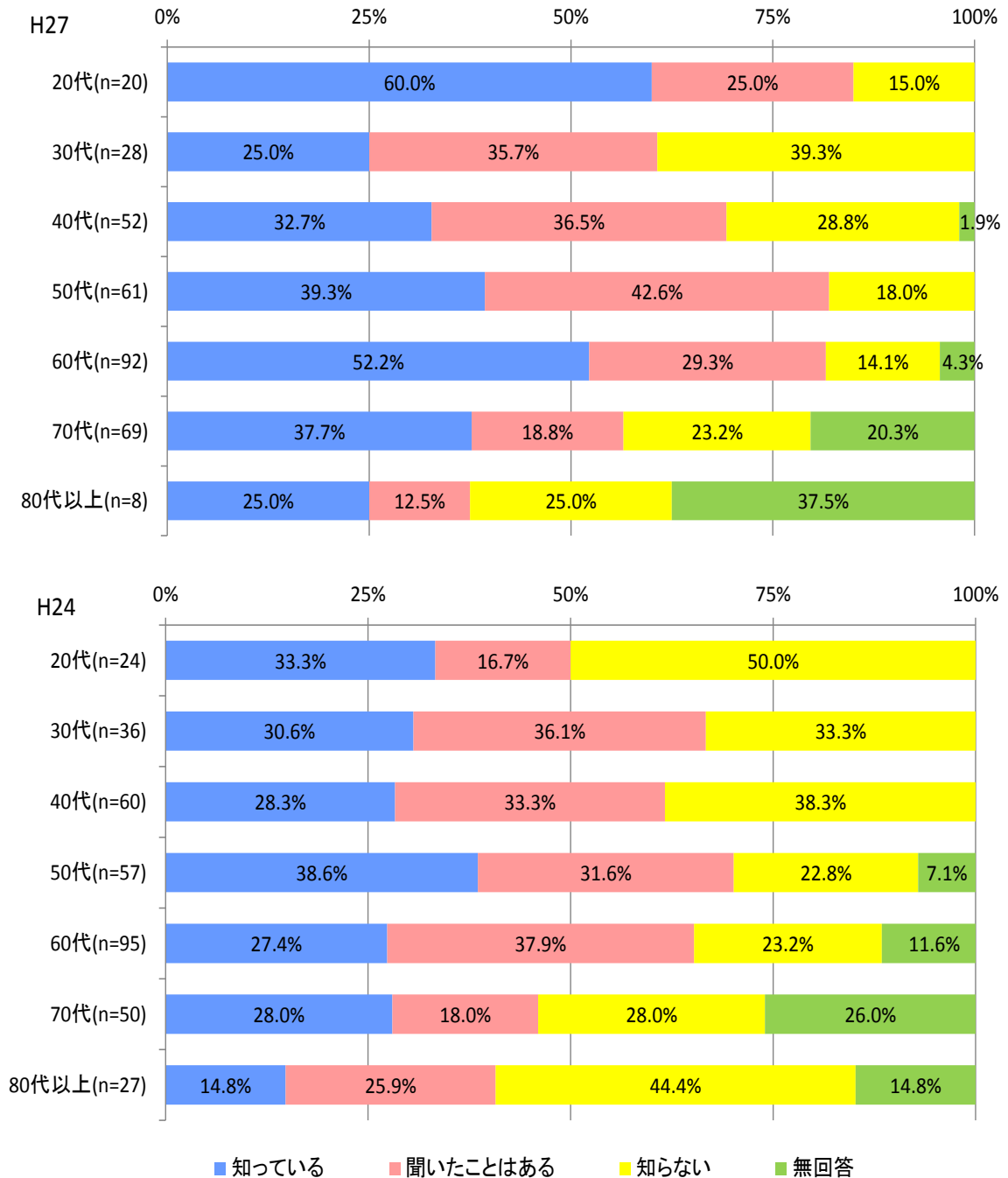


(2) 年代別

前回調査に比べると、20 代、60 代での認知度は上がり、どちらも過半数以上の人が「知っている」と答えており、「知らない」と答えた人も他の年代に比べても少なかった。

30 代は、「知っている」と答えた人が 25.0%と最も少なく、「知らない」と答えた人が 39.3%と最も多かった。

40 代から 60 代にかけては年代が上がるにつれ、認知度が上がっている。

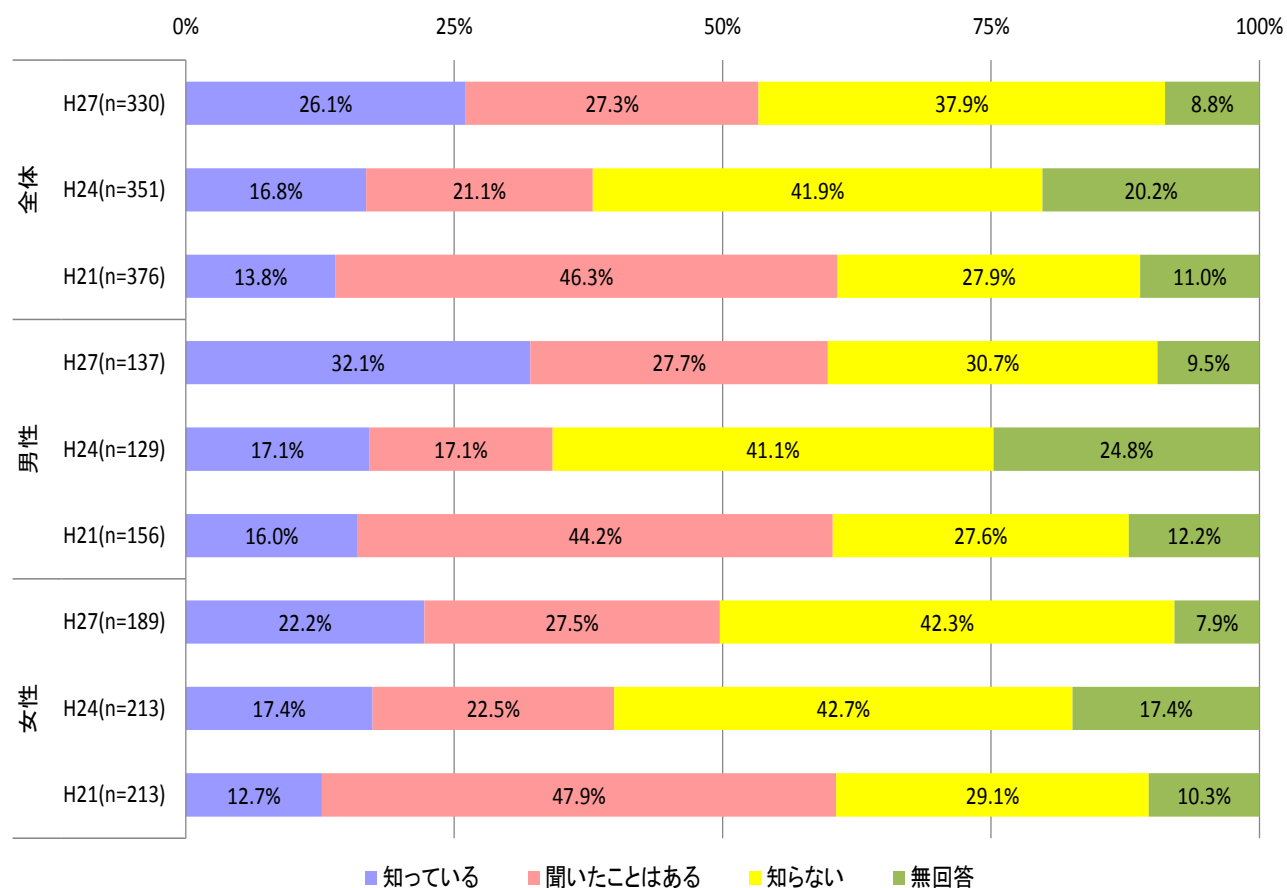


2. ワーク・ライフ・バランスの意味

(1) 男女別

前回調査に比べ、認知度は男女ともに増加傾向にある。「知っている」、「聞いたことはある」と答えた人は、女性よりも男性の方が多かった。

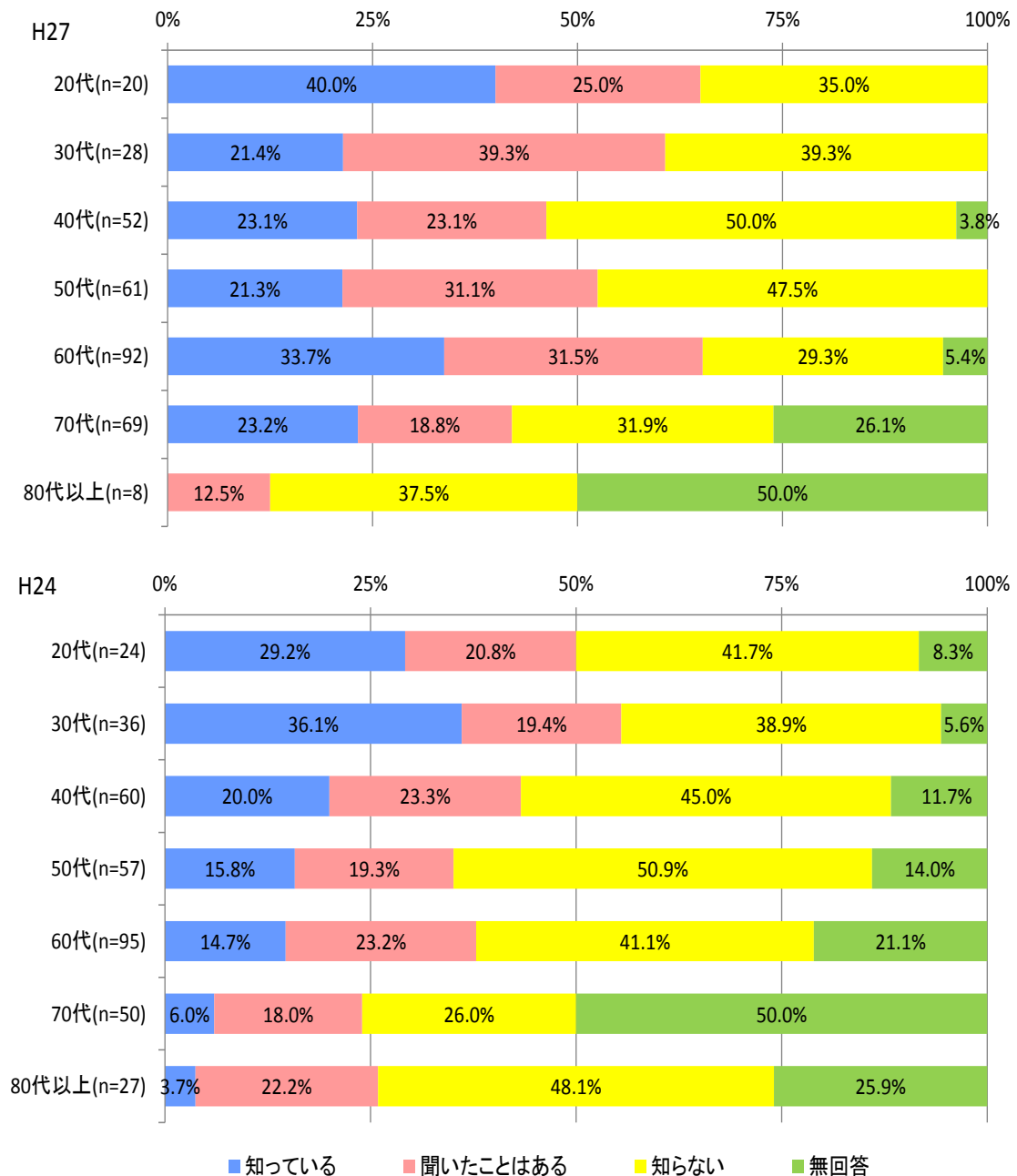
H21調査からの経年変化を見ると、「知っている」と答えた人の割合は、全体では13.8%から26.1%と12.3ポイント増加した。



(2) 年代別

前回調査に比べると、20 代、60 代での認知度は上がり、20 代では 40.0%、60 代では 33.7%の人が「知っている」と答えている。「聞いたことはある」と答えた人と合わせると、60%を超える。

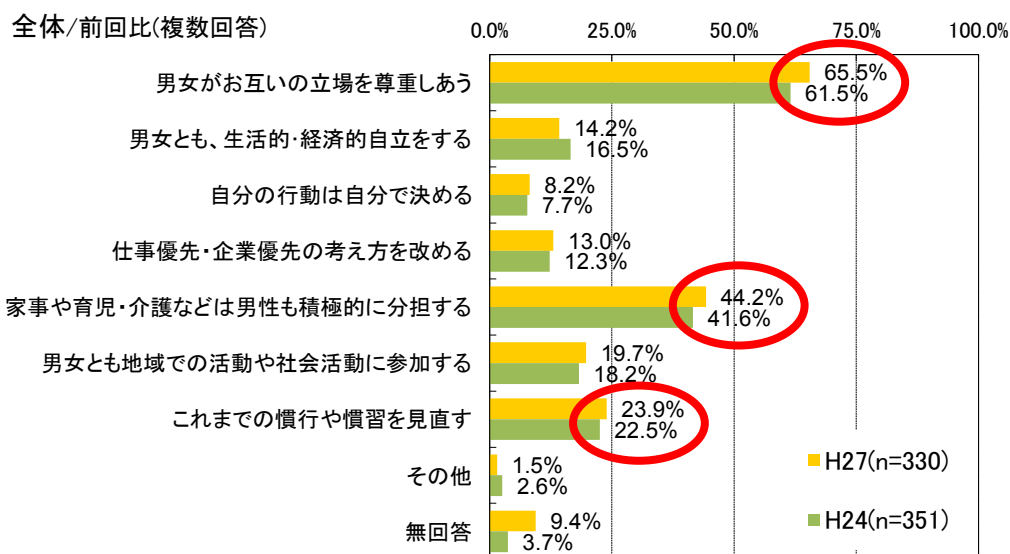
30 代と 80 代以上を除く各年代で、「知っている」と答えた人が増加していることから、全体的には認知度が上がっている傾向が見られる。



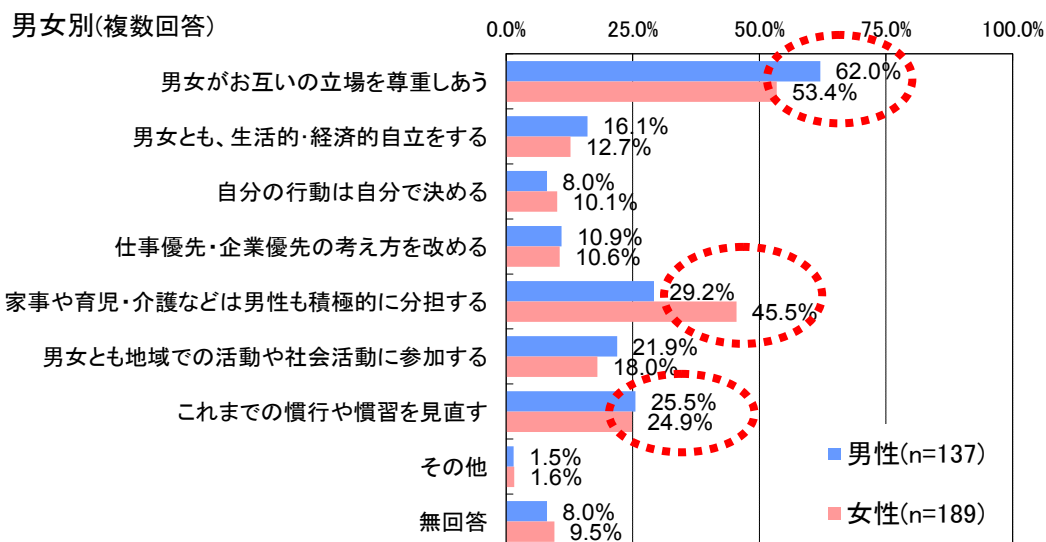
●問 16. 男女共同参画社会実現するために必要なこと

男女共同参画社会とは、「男性も女性も、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会」と言いますが、実現するために必要だと思われるものを、2つ選んでください。

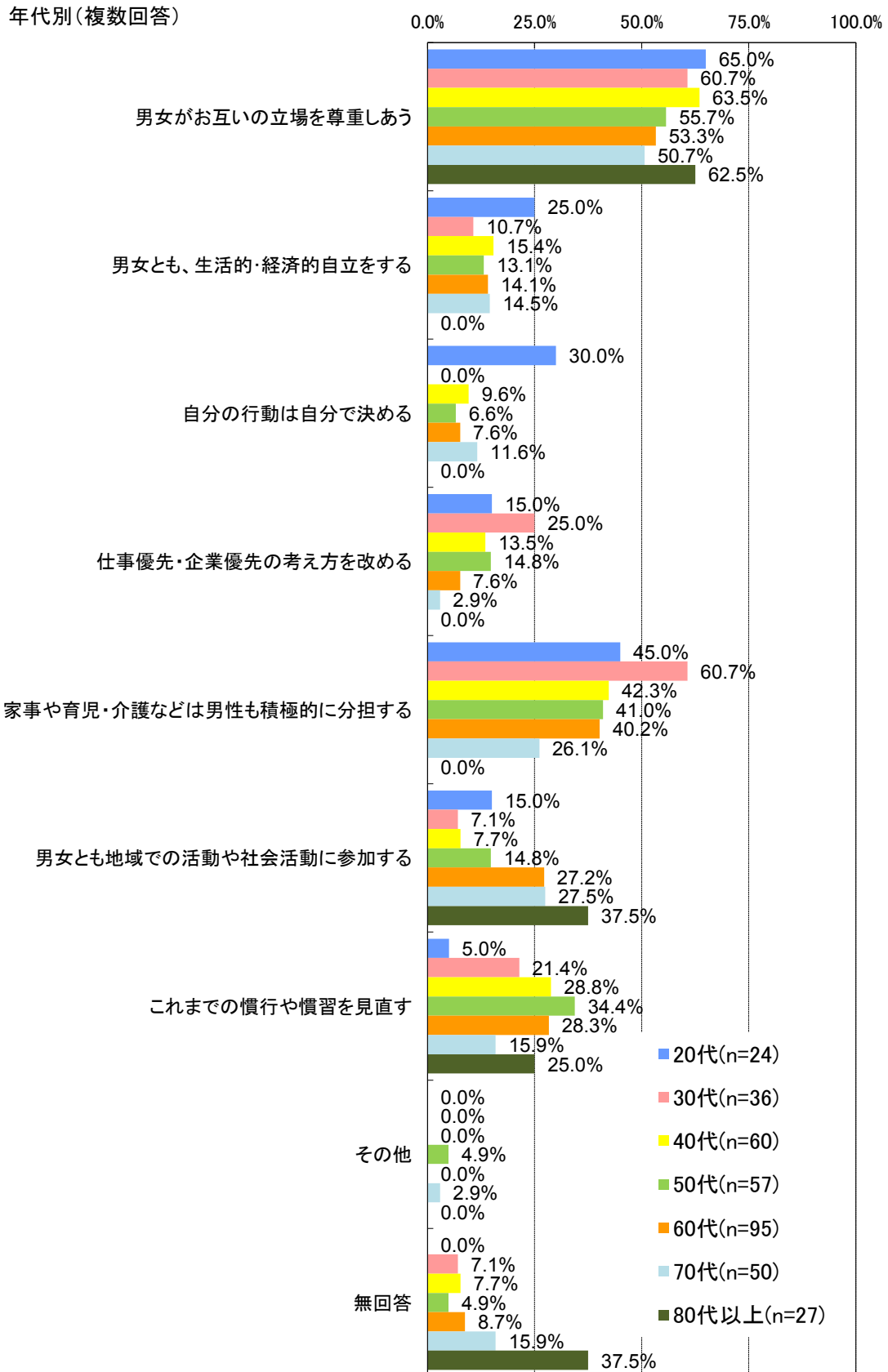
1. 全体 回答が多かった項目は、①「男女がお互いの立場を尊重しあう」65.5%、②「家事や育児・介護などは男性も積極的に分担する」44.2%、③「これまでの慣行や慣習を見直す」23.9%の順で、前回と同じだった。



2. 男女別 男女間でも、トップ3は「全体」と同じだが、2番目に多い「家事・育児・介護などは男性も積極的に分担する」が、男女で 16.3 ポイントの差があり、男性に比べて女性の方がこの項目を選んだ人が多かった。



3. 年代別 年代別においても、「男女がお互いの立場を尊重しあう」、「家事・育児・介護などは男性も積極的に分担する」を選んだ人が多く、30 代では、どちらの項目も 60.7%だった。



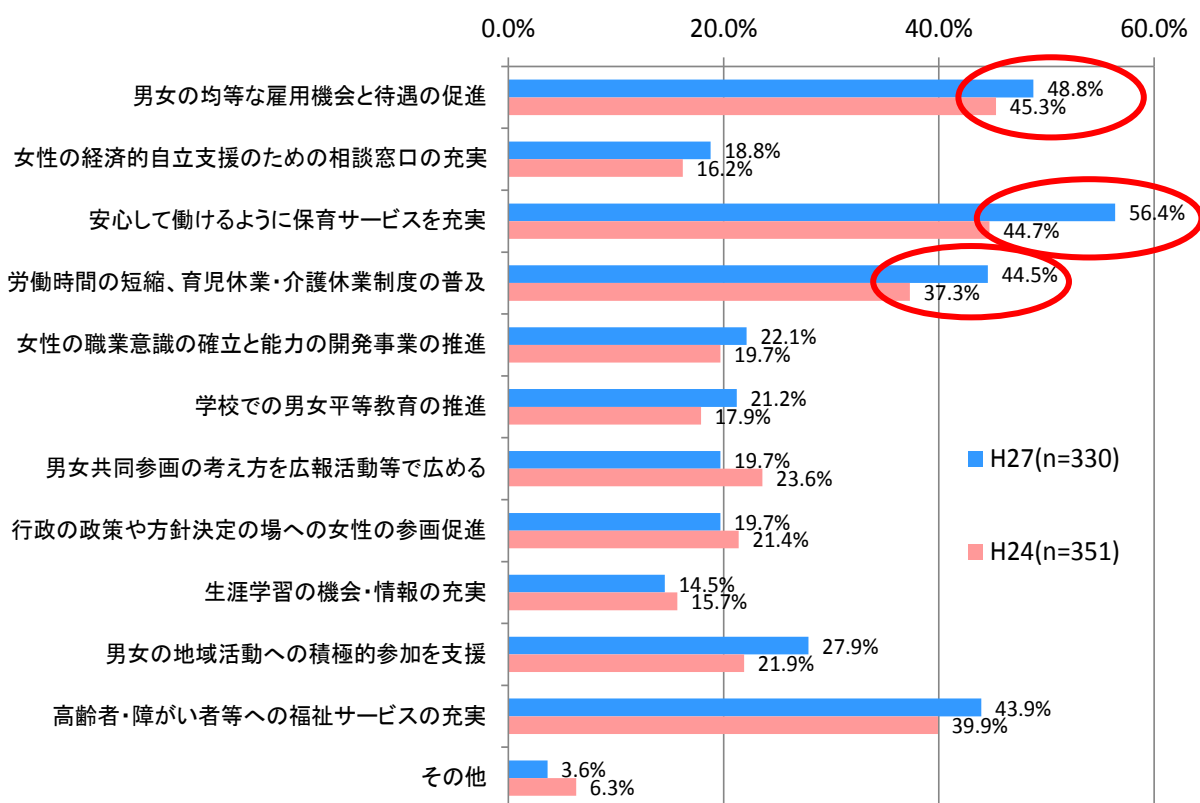
●問 17. 必要な対策、または行政に望むこと

「ワーク・ライフ・バランス(家庭と仕事の調和)」を実現するために必要なこと、行政に望むことは何ですか。あなたの考えに近いものを、すべて選んでください。

1. 全体

今回のトップ3は、①「安心して働けるように保育サービスを充実」56.4%、②「男女の均等な雇用機会と待遇の促進」48.8%、③「労働時間の短縮、育児休業・介護休業制度の普及」44.5%の順だった。

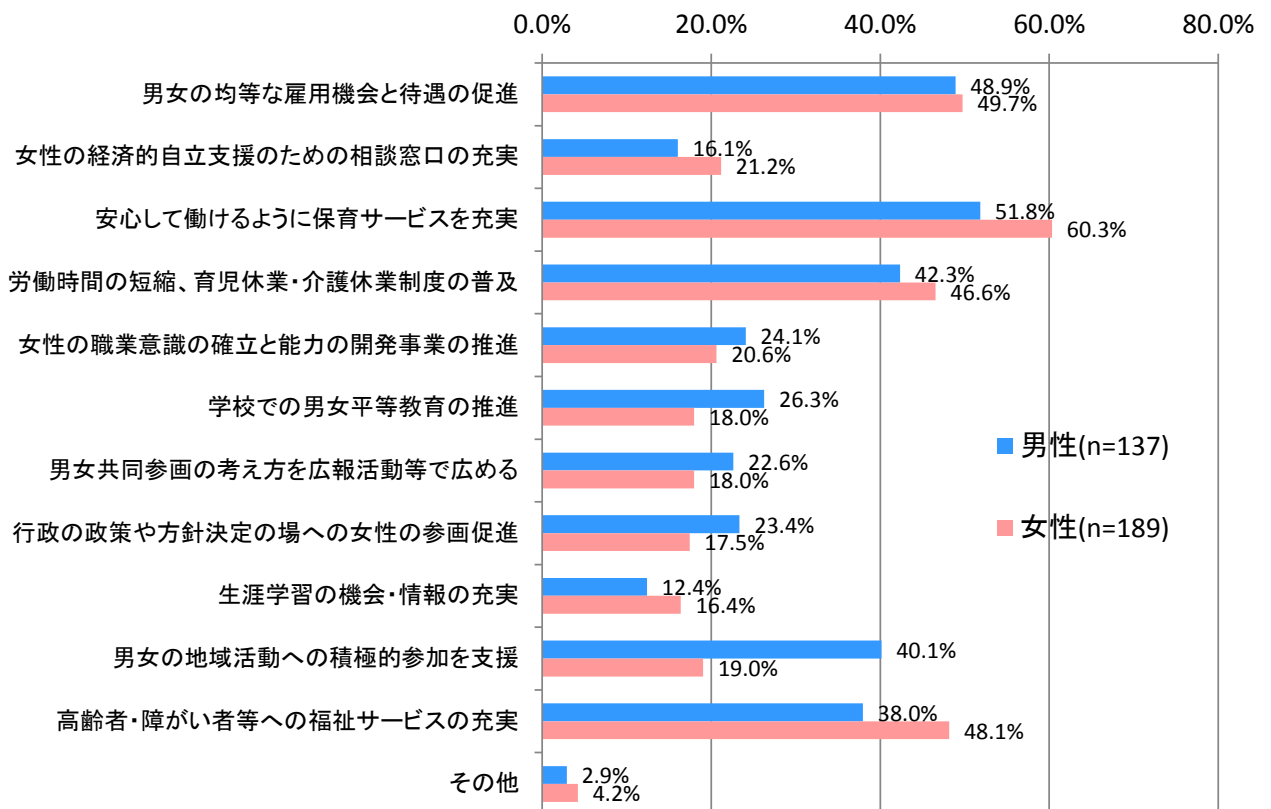
前回調査では、①「男女の均等な雇用機会と待遇の促進」、②「安心して働けるように保育サービスを充実」、③「高齢者・障がい者等への福祉サービスの充実」だったことから、項目および順位に入れ替わりがあった。



2. 男女別

男女間で差が大きいもので、男性が女性を上回っているトップ3は、①「男女の地域活動への積極的参加を支援」21.1 ポイント、②「学校での男女平等教育の推進」8.3 ポイント、③「行政の政策や方針決定の場への女性の参画促進」5.9 ポイントの順になっている。

女性が男性を上回っているトップ3は、①「高齢者・障がい者等への福祉サービスの充実」10.1 ポイント、②「安心して働けるように保育サービスを充実」8.53 ポイント、③「女性の経済的自立支援のための相談窓口の充実」5.1 ポイントの順であった。



3. 年代別

20 代では、「安心して働けるように保育サービスを充実」90.0%、「労働時間の短縮、育児休業・介護休業制度の普及」80.0%と、2つの項目を選ぶ人の割合が高かった。

